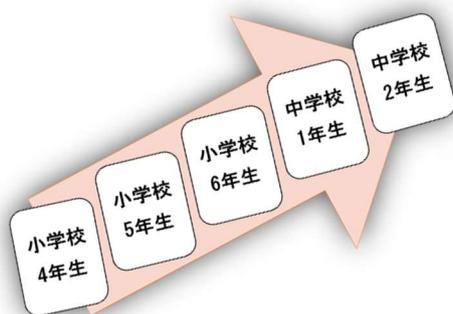


令和3年度

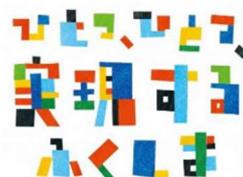
ふくしま学力調査 分析報告書

子どもたちが
どれだけ自分が伸びたかを実感し、
自信を深め、意欲を高め、
さらに学力を伸ばすために
「ふくしま学力調査」を実施します



ふくしま応援！
「ペコ太郎」

令和4年2月
福島県教育委員会



目 次

1	ふくしま学力調査について	1
2	調査結果の概要	2
3	調査結果の総括	3
4	教科に関する調査の結果	4
	(1) 福島県全体の平均正答率	4
	(2) 福島県全体のカテゴリ一別正答率	4
	(3) 「学力のレベル」と「学力の伸び」について	5
	(4) 福島県の「学力のレベル」の分布	6
	① 国語	6
	② 算数・数学	8
5	学習指導のポイント	10
	(1) 教科別授業改善の視点	10
	(2) 国語	12
	(3) 算数・数学	22
6	「非認知能力」・「学習方略」等に関する分析について	32
	(1) 「非認知能力」について	33
	(2) 「学習方略」について	35
	(3) 「主体的・対話的で深い学び」について	37
	(4) 帳票40を活用した分析について	38
7	児童生徒質問紙調査結果と学力の傾向	39
	(1) 授業に関すること	40
	(2) 学習意欲や学習環境に関すること	47
	(3) 家庭での生活に関すること	65
8	学力の伸びを引き出した学校の取組事例	79

令和3年度 ふくしま学力調査 分析報告書

令和4年2月7日
福島県教育委員会

1 ふくしま学力調査について



1 調査の目的

児童生徒一人一人の学力の伸びや学習等に対する意識、生活の状況等を把握する調査を実施し、教育及び教育施策等の成果と課題を検証するとともに、その改善を図るための方策を構築し、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

2 調査実施日

令和3年4月21日（水）

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のための学級閉鎖等により調査実施日に実施が困難な学校に限り、調査実施日を令和3年4月22日（木）から5月14日（金）までの任意の日に変更して実施した。

3 参加学校数・参加人数

(1) 小学校 417校

※ 義務教育学校前期課程及び県立特別支援学校小学部を含む。以下同じ。

(2) 中学校 221校

※ 義務教育学校後期課程及び県立特別支援学校中学部を含む。以下同じ。

(3) 児童生徒数（人）（質問紙を含むいずれかの教科を1つ以上実施した児童生徒の人数）

小学校4年	小学校5年	小学校6年	中学校1年	中学校2年
13,629	14,111	14,156	14,326	14,289

4 調査事項

(1) 教科に関する調査

- ① 小学校第4学年～第6学年 国語、算数
- ② 中学校第1学年・第2学年 国語、数学

(2) 質問紙調査

- 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

5 結果の活用について

(1) 児童生徒の学習改善に活用する

各学校は、個人結果票をもとに児童生徒に学習改善に向けたアドバイスを行う。また、個人結果票を保護者と連携するための資料とし、家庭学習の充実につなげていく。

(2) 各学校の授業改善に活用する

各学校は、返却された結果から児童生徒の学力のレベルや学力の伸びの状況を分析し、学力を伸ばした可能性の高い取組を校内で共有するなど学力向上のプラン等を見直し、2学期以降の授業改善につなげていく。

2 調査結果の概要

1 教科に関する調査の結果から

【国語】

- 年度の異なる同じ学年を比較すると、小学生は、上位層の割合が平成31年度調査より多い。一方、中学生は下位層の割合が平成31年度より多い。(→p. 6)
- 同じ学年集団を経年比較すると、中学校1年生は、「学力のレベル」の最頻値が平成31年度の小学校5年生のときより上がっており、学力の伸びが見られる。(→p. 7)

【算数・数学】

- 年度の異なる同じ学年を比較すると、小学校6年生は「学力のレベル」の最頻値が上がっている。小学校5年生以上においては最上位レベル、最下位レベルともに割合が多い。(→p. 8)
- 同じ学年集団を経年比較すると、全ての学年で学力の伸びが見られたものの、上位層から中位層までの割合が減っており、下位層の割合が増えている。特に下位層の割合の増え方は、学年が上がるにつれて顕著である。(→p. 9)

2 児童生徒質問紙調査と学力の傾向から

- 授業で学習の見通しをもつことや、話し合い活動で自分の考えをもつこと、学習内容のつながりを明確にすることがあったと回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 39～45)
- 勉強する理由を「勉強することが楽しい、好きだから」と回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 47～51)
- 学習の準備を整え、授業に臨むことができていると回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 52～55)
- 教師及び他の児童生徒から認められたことがよくあると回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 56～63)
- 授業の予習や復習に取り組むと回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 66～69)
- 読書の冊数が多いほど、国語の学力が高い傾向にある。(→p. 70～73)
- テレビゲームの時間が長くなるほど、学力が低い傾向にある。(→p. 74～78)

3 調査結果の総括

【国語】

どの学年も「学力のレベル」の下位層の割合より上位層の割合の方が多く、国語を比較的得意としている児童生徒が多い。しかし、学年が上がるにつれて「学力のレベル」が最上位の児童生徒の割合が大幅に少なくなる。児童生徒の言語能力が螺旋的に高まるよう、各学年の学習指導を孤立させず、系統化した効果的な指導がなされることが求められる。

【算数・数学】

平成31年度と比較して、各学年とも最下位の「学力のレベル」に属する子どもの割合が増えており、低学年の学習内容の定着に大きな差が生じていることが分かる。低学年でのつまづきをそのままにしないことが重要であり、既習事項と関連付けた指導を意図的に行うことが必要である。一方、上位層の児童生徒は、学年が上がってもその割合の減少が少ないため、知的好奇心を刺激する発問の工夫等、上位層の児童生徒をさらに伸ばす手立てを講じるなど、個別最適な学びの実現が重要である。

【質問紙】

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、学習意欲や自己肯定感の醸成及び家庭学習の充実等が学力向上に与える影響が大きいことから、引き続き、「ふくしまの『授業スタンダード』」や「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」を基に、児童生徒の資質・能力の育成を図っていくことが重要である。

4 教科に関する調査の結果

(1) 福島県全体の平均正答率 (%)

	小学校 4 年	小学校 5 年	小学校 6 年	中学校 1 年	中学校 2 年
国語	55.3	57.3	58.9	58.3	66.1
算数・数学	68.7	58.4	58.6	59.1	56.2

(2) 福島県全体のカテゴリー別正答率 (%)

【国語】

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率			
	言葉の特徴や 使い方	我が国の 言語文化	情報の扱い方、 扱方	話すこと・ 書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	選択式	短答式	記述式
小学校 4 年	68.0	64.4	29.1	38.4	66.9	33.3	—	58.8	54.9	14.5	
小学校 5 年	60.0	62.5	40.4	58.6	60.6	53.0	—	56.9	59.7	34.0	
小学校 6 年	63.4	73.3	44.6	53.5	65.2	50.8	—	60.4	57.7	42.2	
中学校 1 年	61.2	51.5	50.1	62.1	58.5	58.1	—	54.8	66.3	46.5	
	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率			
	話すこと・ 書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と 国語の特質に 関する事項	国語への関心・ 意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
中学校 2 年	67.1	57.4	70.5	—	78.0	54.2	57.4	69.9	67.4	64.3	54.2

【算数・数学】

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率			
	数と計算	図形	測定(小4) 変化と関係 (小5・中2)	データの活用	知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	選択式	短答式	記述式	
小学校 4 年	72.2	60.8	71.5	66.5	71.3	51.6	—	64.7	75.7	18.9	
小学校 5 年	60.7	57.3	58.3	54.6	62.1	49.0	—	57.8	61.9	11.7	
小学校 6 年	61.0	61.6	60.1	50.0	59.7	52.5	—	60.4	60.2	5.0	
中学校 1 年	64.1	51.1	56.9	62.2	61.3	37.9	—	62.2	57.2	38.0	
	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率			
	数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・ 意欲・態度	数学的な見方や 考え方	数学的な技能	数量や図形などにつ いての知識・理解	選択式	短答式	記述式
中学校 2 年	56.8	50.9	56.0	60.9	—	51.9	56.0	58.4	57.0	55.7	52.0

(3) 「学力のレベル」と「学力の伸び」について

各学年ごとのレベルの範囲 (白が当該学年のレベルの範囲です)

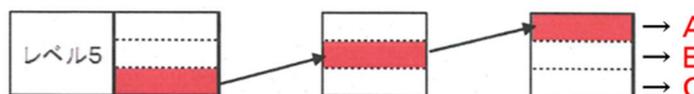
レベル	各学年ごとのレベルの範囲						レベル	レベル(3分割)	数値
	小4	小5	小6	中1	中2	中3			
レベル12							レベル12	12-A	36
								12-B	35
								12-C	34
レベル11							レベル11	11-A	33
								11-B	32
								11-C	31
レベル10							レベル10	10-A	30
								10-B	29
								10-C	28
レベル9							レベル9	9-A	27
								9-B	26
								9-C	25
レベル8							レベル8	8-A	24
								8-B	23
								8-C	22
レベル7							レベル7	7-A	21
								7-B	20
								7-C	19
レベル6							レベル6	6-A	18
								6-B	17
								6-C	16
レベル5							レベル5	5-A	15
								5-B	14
								5-C	13
レベル4							レベル4	4-A	12
								4-B	11
								4-C	10
レベル3							レベル3	3-A	9
								3-B	8
								3-C	7
レベル2							レベル2	2-A	6
								2-B	5
								2-C	4
レベル1							レベル1	1-A	3
								1-B	2
								1-C	1

1 学力のレベル

全ての問題に難易度を設定し、「どのくらい難しい問題を解く力があるか」を「学力のレベル」で表す。「学力のレベル」は12段階あるが、測定は各学年7レベルの間で行う。

※ 福島県で中学3年生は実施しない。

さらに、1つの「学力のレベル」は3分割され、「学力の伸び」が詳細に分かる。例えば、同じレベル5でも、「学力のレベル」が高くなるとバーの位置が上がる。



2 学力の伸び

集計対象となる児童生徒の「学力のレベル(3分割)」を数値化(例: 1-Cは“1”、12-Aは“36”)し、前回調査との差を計算する。

3 「学力が伸びた児童生徒」の定義

「学力のレベル(3分割)」を数値化した数値が、前年度から1以上増加した児童生徒を「学力が伸びた児童生徒」と捉える。ただし、令和2年度調査は、新型コロナウイルス感染拡大防止による一斉臨時休業の影響を考慮して中止したため、今年度は一昨年度から数値が2以上増加した児童生徒を「学力が伸びた児童生徒」と捉える。

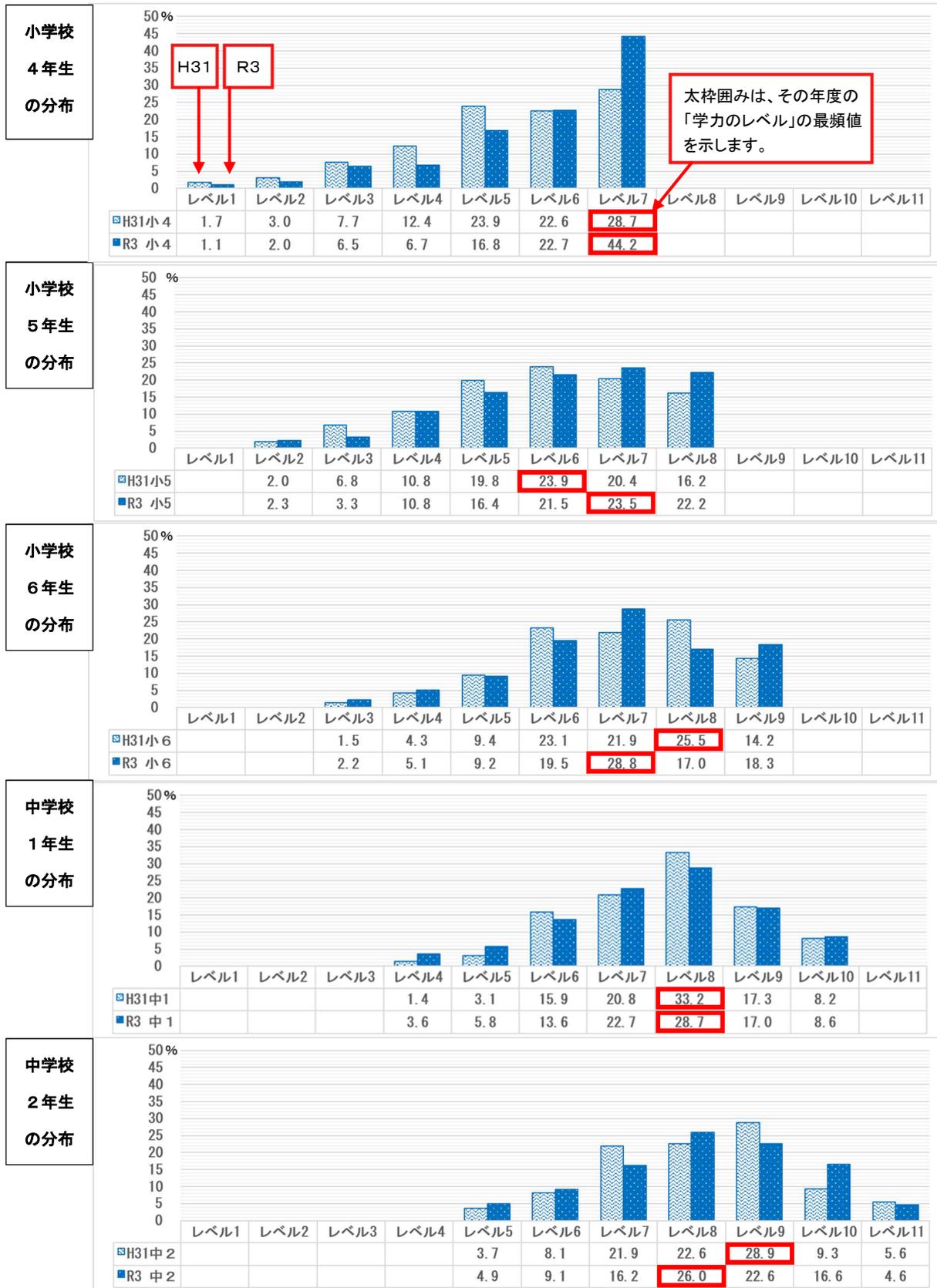
4 平成31年度(令和元年度)調査から学力が伸びた児童生徒の割合(県全体)

	小学校6年	中学校1年	中学校2年
国語	83.5%	87.6%	76.3%
算数・数学	73.5%	76.5%	70.8%

※ 前回は平成31年度(令和元年度)調査のため、今年度の小学校4年生及び小学校5年生の児童の学力の伸びが見られるのは令和4年度調査実施後となる。

(4) 福島県の「学力のレベル」の分布 ① 国語

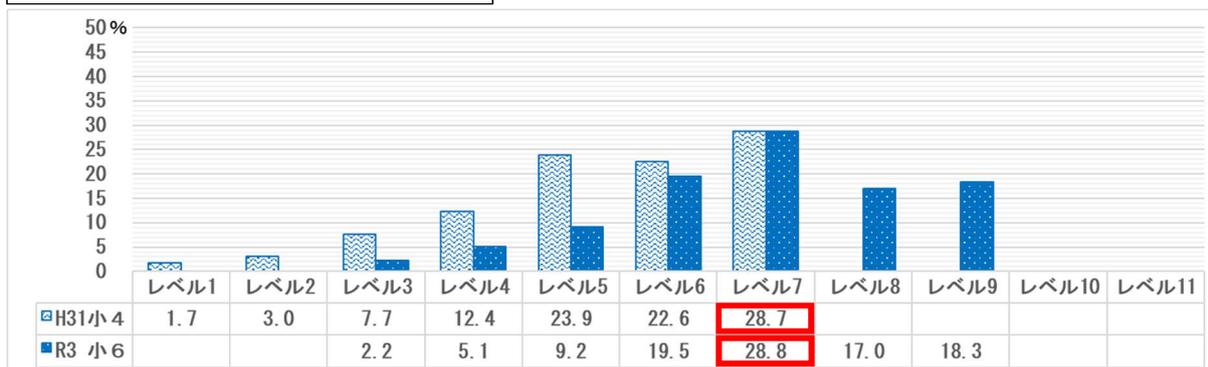
【年度の異なる同じ学年の比較（国語）】



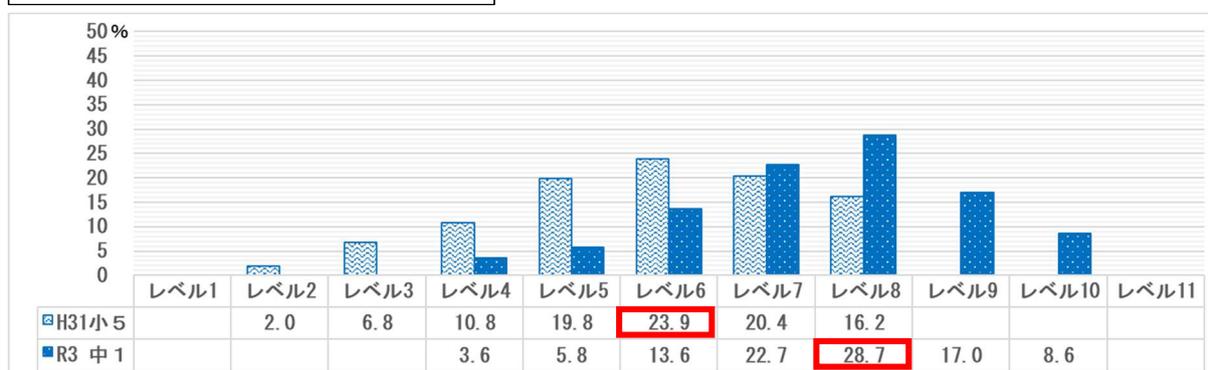
※ 各学力レベルに属する児童生徒の分布割合は四捨五入していますので、合計が100%にならない場合があります。

【同じ学年集団の経年比較（国語）】

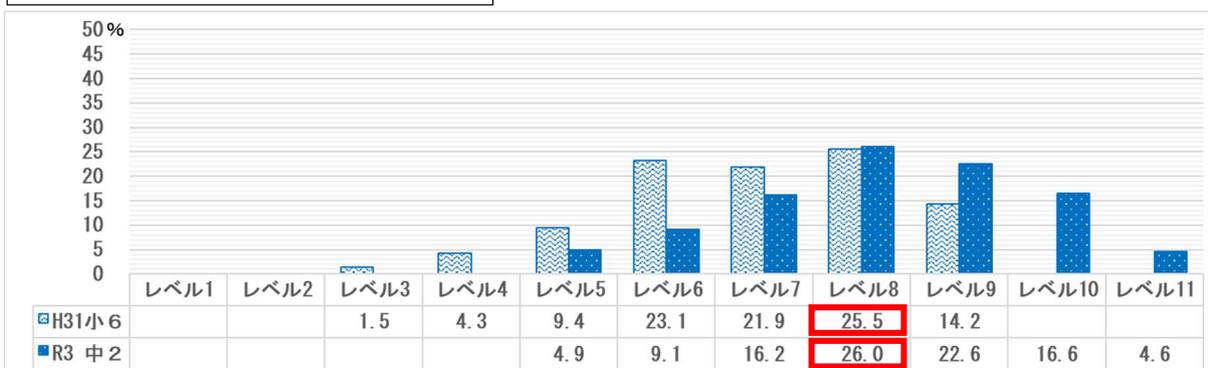
H31小学校4年生 → R3小学校6年生



H31小学校5年生 → R3中学校1年生



H31小学校6年生 → R3中学校2年生



【年度の異なる同じ学年の比較（国語）】

○ 各学年の最上位の「学力のレベル」で比較すると、令和3年度の方がおおむね割合が多く、上位の学力水準が高くなっている。特に、小学校4年生で最上位のレベル7に位置する児童が、平成31年度調査に比べ15.5%pt多い。

● 「学力のレベル」の最頻値が小学校5年生でレベル6からレベル7に1段階上がっている一方、小学校6年生はレベル8からレベル7へ、中学校2年生はレベル9からレベル8へそれぞれ1段階下がっている。

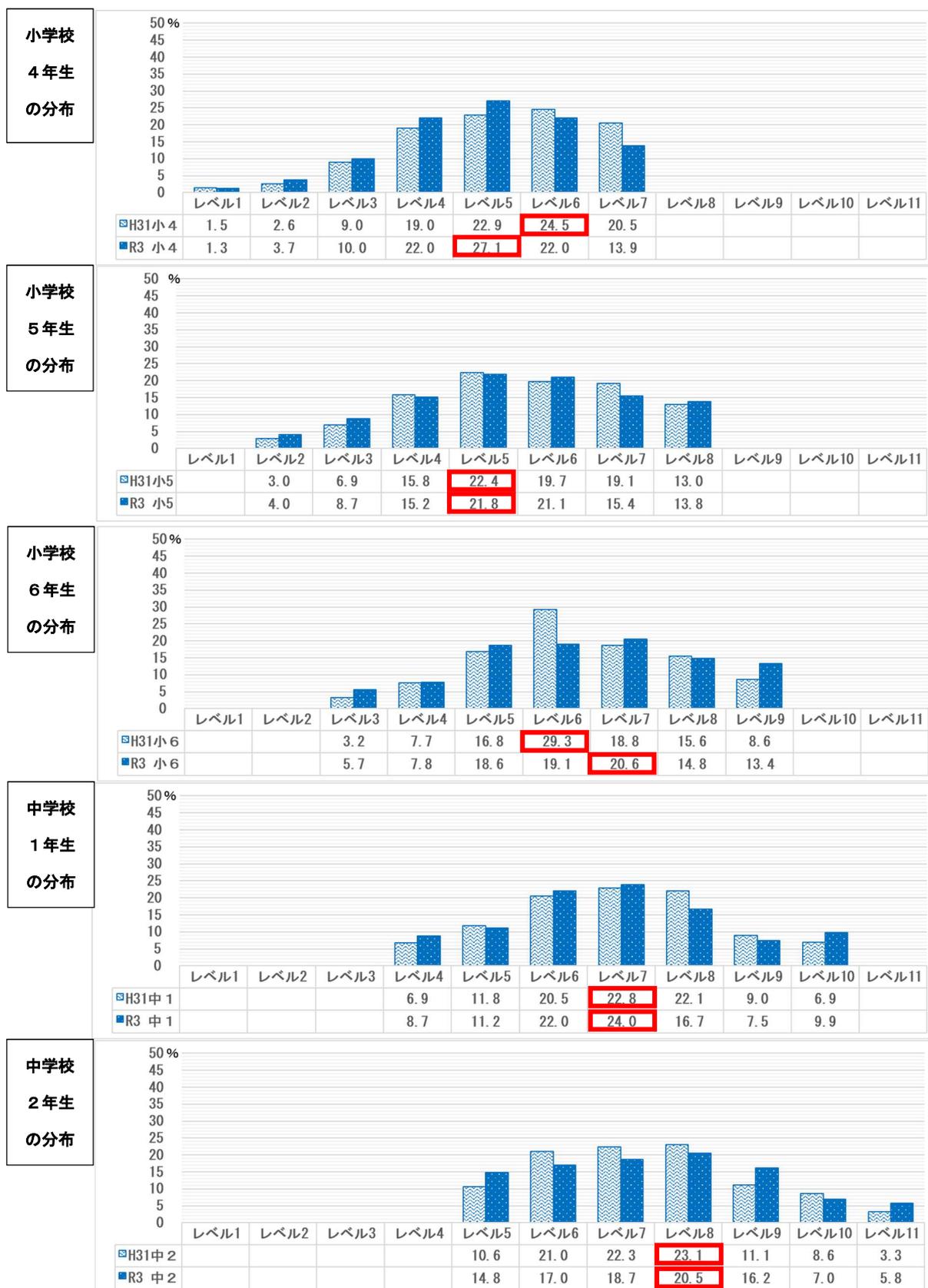
【同じ学年集団の経年比較（国語）】

○ 令和3年度の中学校1年生は、平成31年度の小学校5年生の時点から「学力のレベル」の最頻値が2段階上がっている。令和3年度の小学校6年生と中学校2年生は、最頻値が平成31年度の時点と同じレベルに留まっているが、最上位のレベルを見ると、難易度が上がっている中でも小学校6年生で18.3%、中学校2年生で4.6%の児童生徒がいる。

● どの学年も、学年が上がるにつれて最上位のレベルの割合がおおよそ10%pt減っている。

(4) 福島県の「学力のレベル」の分布 ② 算数・数学

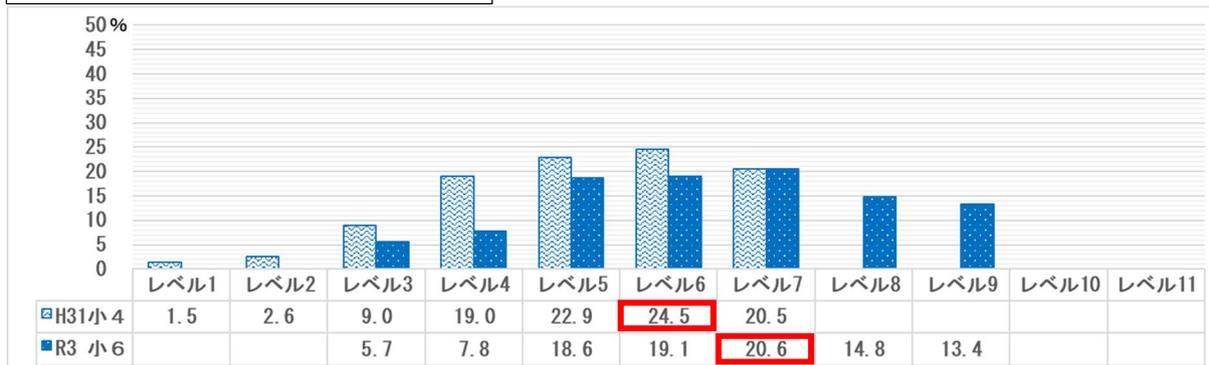
【年度の異なる同じ学年の比較（算数・数学）】



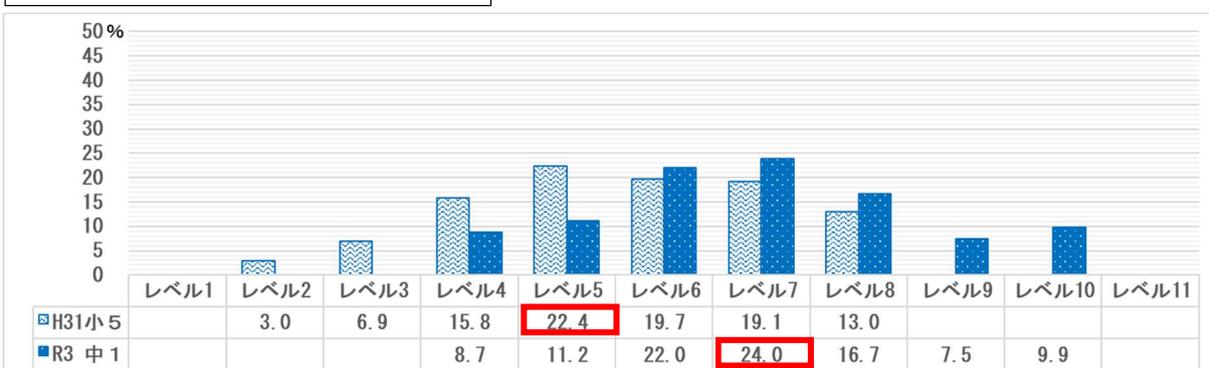
※ 各学力レベルに属する児童生徒の分布割合は四捨五入していますので、合計が100%にならない場合があります。

【同じ学年集団の経年比較（算数・数学）】

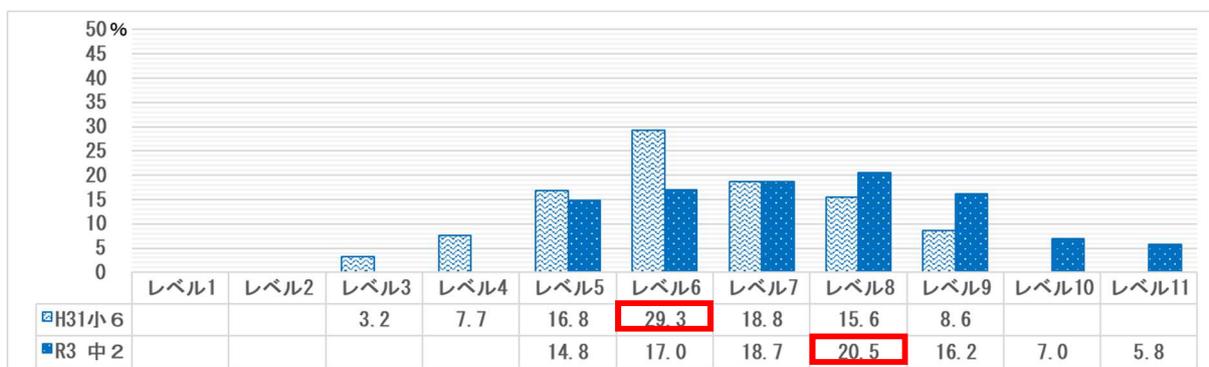
H31小学校4年生 → R3小学校6年生



H31小学校5年生 → R3中学校1年生



H31小学校6年生 → R3中学校2年生



【年度の異なる同じ学年の比較（算数・数学）】

- 令和3年度の小学校6年生の分布を見ると、平成31年度に比べ「学力のレベル」の最頻値が1段階上がり、高いレベルの分布が増加している。最上位のレベル9に位置する児童は、平成31年度より4.8%pt多い。また、令和3年度の小学校5年生と6年生及び中学校1年生と2年生の最上位のレベルに位置する児童生徒の割合は、平成31年度の同学年に比べて多い。
- 令和3年度の小学校4年生の分布を見ると、平成31年度に比べ1段階下のレベルに最頻値があり、最上位のレベル7に位置する児童が、平成31年度より6.6%pt少ない。また、令和3年度の小学校5年生と6年生及び中学校1年生と2年生の最下位のレベルに位置する児童生徒の割合は、平成31年度の同学年に比べて多い。

【同じ学年集団の経年比較（算数・数学）】

- 令和3年度は、いずれの学年においても、学力のレベルの最頻値が上がっており、着実に学力を伸ばしている。
- どの学年も、学年が上がるにつれて最上位のレベルの割合が減っており、最下位のレベルの割合が増えている。令和3年度の中学校2年生は、最下位のレベルに位置する生徒の割合が11.6%pt増えている。

5 学習指導のポイント

ふくしま学力調査を授業改善等に生かす学習指導のポイントをまとめました。

(1) **教科別授業改善の視点**では、授業改善の視点を概略的に示しています。

(2) **国語**、(3) **算数・数学**では、今年度の調査問題から、各学年、各教科一題ずつ選定された公開問題(※)について、県全体の児童生徒の正答率や誤答の状況を示すとともに、学習指導上の課題及び授業改善に生かす指導上のポイントをまとめました。また、「ふくしま活用力育成シート」や「定着確認シート」及び全国学力・学習状況調査問題との関連や活用の仕方等をまとめました。ぜひ授業改善に御活用ください。

なお、ふくしま学力調査は、児童生徒の学力の伸びを正しく捉えるという調査の性質上、問題は原則非公開となっており、問題の秘匿性の保持のため、調査後の問題冊子は回収します。また、コピーや書き写しも禁止となっております。

(1) 教科別授業改善の視点

1 国語

① 育成すべき資質・能力を明確にした指導計画の作成

主体的・対話的で深い学びを実現するための

- ・自身の学びや変容を自覚できる場面
- ・対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面
- ・児童生徒が考える場面と教師が教える場面 等

の視点は、1単位時間の授業ごとに考えるのではなく、単元などの一定程度のまとまりごとに検討します。指導事項を基に各時間の具体的な学習活動を構想し、単元の指導と評価の計画を作成することが大切です。

② 言語活動の質の向上

国語科においては、一つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導することが多くあります。それは、国語科の指導内容が螺旋的・反復的に繰り返しながら資質・能力の定着を図ることを基本としているからです。各学年の学習指導を孤立させず、児童生徒の発達や学習の状況に応じた言語活動を言語活動例を参考にして位置付けます。

③ 評価方法の工夫・改善

学習評価は、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を把握して指導の改善に生かすことに重点を置きます。評価の記録に用いる評価については、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、単元などの一定のまとまりの中で、その場面を精選することが大切です。

2 算数・数学

① 課題設定の工夫

教材との出合わせ方を工夫し、児童生徒の生活経験や既習事項を基に、予想や見通しをもたせながら引き出した問いや思い・願いをつないで焦点化し、課題を設定しましょう。

② 発問の工夫及び話合いのコーディネート

児童生徒が「どのような説明をするのか」(事実、方法、理由)「何をどこまで説明するのか」(内容)を明確化することで、児童生徒の言葉を聞き取り、発問を工夫したり、話合いをコーディネートしたりすることがしやすくなります。そうすることで、児童生徒の表現が次第に洗練され、ねらいに即した資質・能力を育むことができます。また、その説明をノート等に記述させることが重要です。

③ 適用と振り返り

全体で確認しながら解決した問題を基に、数値や条件を変えた問題を児童生徒が自力解決するなど、解決の過程を振り返りながら確かめることができる場を設定しましょう。振り返りながら適用することで、より確かな理解につながったり、新たな問いが生まれたりし、深い学びとなることが期待できます。

○ 調査問題

- (1) 高山さんは学級新聞でどのような工夫をしていますか。次の1〜5の中からふさわしいものを、二つえらびましょう。
- 1 メイの世話をする手順を、写真などの資料を用いて書いている。
 - 2 メイの注目してほしい所を、呼びかけの言葉を用いて書いている。
 - 3 メイのくわしい情報を、メイとほかのヤギをくらべて書いている。
 - 4 メイの思い出を、音や動きをあらわす言葉を用いて書いている。
 - 5 メイのふだんの様子を、自分が体験したことにもとづいて書いている。

【高山さんと林さんの会話】

林さん： 学級新聞を読んでメイとふれ合ってみたいと思いました。ふれ合うことはできますか。

高山さん： はい、できます。ふれ合うときに、気をつけてほしいことが三つあります。一つめは、ふれ合う前と後に手を洗うこと、二つめは、生き物係や先生につきそってもらうこと、三つめは、大きな音を出さないようにすることです。

林さん： 大きな音を出さないようにするのはなぜですか。

高山さん： ヤギはとてもこわがりで、大きな音を出すとおどろいてにげてしまうからです。

林さん： わかりました。ありがとうございます。

【学級新聞の一部】

学校にくらす生き物を知ろう

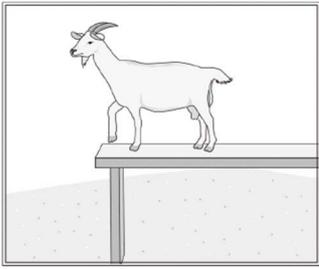
みなさんは、生き物係が中心となって世話をしているヤギの「メイ」を知っていますか。

メイはメスのヤギで、二オになります。毛は白く、さらさらです。

生き物係は、曜日ごとに交代でエサをあげたり、ヤギ小屋のそうじをしたりしています。エサは、主に牧草をあげますが、メイがあきないよう野菜や野草くずもあげます。

メイは高いところがお気に入りです。そうじ中は、よく木の台の上にあります。ヤギは足の先がヒツメになっているため、木や岩場なども軽々とのぼるそうです。

うれしいときは、犬のようにしっぽをふって、こちらに向かって何度も鳴きます。とてもかわいいので、みなさんもメイに会ったら、しっぽに注目してみましょう。(高山 はな)



↑木の台に上がるメイ(写真)

14

高山さんは生き物係で、学校で飼っているヤギの「メイ」について学級新聞で紹介することにしました。次は、高山さんが書いた【学級新聞の一部】と、それを読んだ【高山さんと林さんの会話】です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

○ 調査問題の趣旨・内容

- 【問題の趣旨】
- 発表の内容を理解する。
- 【問題の内容】
- 学級新聞の工夫を説明したものとして適切なものを選択する。

○ 誤答分析

解答類型	正答「2」と「5」を解答	「2」と「5以外」を解答	「2以外」と「5」を解答	その他の解答	無解答
解答率	16.2%	28.3%	21.3%	25.1%	9.2%

- 正答率は、16.2%と低く、ほとんどの児童が呼びかけの言葉などの文末表現や内容の中心がどのようなことなのか、どのような内容のまとまりで書かれているのかを理解することができていない。
- 相手を意識した呼びかけの言葉や文末表現については理解しているものの、どのような内容のまとまりで書かれているのかを理解することができていない児童が28.3%であった。
- どのような内容のまとまりで書かれているのかを理解することはできても、相手や目的を意識した表現になっているのかを理解することができていない児童が21.3%であった。
- 内容、表現のしかたの両方を理解できていない解答は、全体の25.1%であった。無解答率と合わせると全体の約3分の1を占めている。

○ 指導上のポイント

書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考える指導

書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。【学習指導要領 第3学年及び第4学年 B書くこと イ】

〈学習活動①〉

- 同じニュースを扱った二社の記事を読み比べ、中心となる事柄や、それに関わる他の書きたい事柄にどのような違いがあるか話し合う。

さまざまな情報を伝える新聞にはどのような工夫がありますか。



この前生まれたウサギの赤ちゃんのことを観察して知らせたいな。



新聞記事には写真や図があるものもあるね。ぼくたちの記事には必要な。



見出しを読むだけでなんの記事かわかるなあ。見出しに伝えたいことをまとめるのがポイントだね。



実は、ウサギの赤ちゃんがあなの中にかくれていることをくわしく教えようよ。

- 実際の新聞を教材として特徴を確かめ、読み手に分かりやすく伝えるための工夫を捉えさせるとともに、自分たちの新聞で伝えたいことを友達と話し合うことで書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることが大切です。

【「授業スタンダード」の視点：「問い」を引き出すために教材との出合わせ方を工夫する】

書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。【学習指導要領 第3学年及び第4学年 B書くこと オ】

〈学習活動②〉

- 互いに書いた新聞の下書きを読み合い、その内容や表現について感想や意見を述べ合う。

しゅう委員さんの仕事の内容とインタビューしたことは段落をわけた方が分かりやすいと思うな。



きょうみをもってもらうために、「みなさんは、ウサギの赤ちゃんが生まれたことを知っていますか。」と、問いかけから書いてみたらどうかな。

- 自分の文章のよいところを見付けるには、①記述した内容、②相手に配慮したこと、③記述の仕方でも工夫したこと、④なぜそのような考えに至ったのかについてのきっかけなど、共有する視点を明確にしてグループ活動を取り入れることが大切です。

【「授業スタンダード」の視点：目的を明確にしたペアやグループの話合いで思考を整理する】

○ 活用力育成シート、定着確認シート等の活用

【出典】
「活用力育成シート」
令和元年度 第二回 小学四年

1	2
---	---

から一つ選んで、その記号を書きましょう。
1、 **2** に最も当てはまるものを、次のア～オまでの中
ア 書き出しを、問いかけからはじめる工夫をしていて
イ クスノギに似ているきょうりゅうの皮を写して
ウ 見てほしいみきの皮の部分だけを、大きく写して
エ クスノギのある場所を、地図でくわしく教えて
オ クスノギが死んでいないことを、写真で教えて



わたしは、はじめの部分がいいと思いましたが、読む人のきょうりゅうを引くからです。
2、読む人のきょうりゅうをもっときょうりゅうを引くために、最後に三年生に呼びかけるメッセージを入れてみてはどうでしょう。

山田さん

西田さんは、写真や図を使ってわかりやすくしようかいいところがいいと思います。写真②は、
1、わかりやすいです。

春山さん

二 西田さんは、「図かんの原こう」の工夫したところについて、同じグループの友だちのみんなど伝え合い活動をしました。同じグループの春山さんと山田さんは、西田さんの「図かんの原こう」を読んで、次のように話し合いをしています。

○ 調査問題

本を読んでいるうちにねてしまって、ぼくは

本を読んでいるうちにねてしまって、妹がぼくを起こした。

14

次の □ の文は、田中たなかさんが書いた文です。田中さんは文の見直しをして、文の途中とちゆうで主語が変わっていて読みにくいと思います。書き直すことにしました。文の意味が変わらないように、あとの □ にあてはまる言葉を書きましょう。

○ 調査問題の趣旨・内容

- 【問題の趣旨】
- 文の構成を理解し、適切な形に書き換える。
- 【問題の内容】
- 主語と述語の関係を理解し、適切な文の形に直して書く。

○ 誤答分析

解答類型	正答	その他の解答	無解答
解答率	58.0%	38.9%	3.1%

- 主語と述語の関係を理解し、「妹に起こされた」「妹に起こされました」と解答することができた児童は、58.0%であった。
- 多く見られた誤答例として、「妹を起こした」が全体の7.4%であった。「妹を起こした」と解答した7.4%の児童、無解答であった3.1%の児童は、主語と述語の適切な係り受けについて意識して読むことができていないと考えられる。

○ 指導上のポイント

主語と述語の関係などに注意して文を正しく書く指導

間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えること。
【学習指導要領 第3学年及び4学年 B書くこと エ】

- 書いた文章を読み直す。
- ・書いた文章を読み直し、主語と述語の係り受けが合っているか確かめる。
- 文章を読み返すときのポイントについて話し合う。

【「授業スタンダード」の視点：目的を明確にしたペアやグループの話し合いで新たな気づきを促す】



線を引いた文のところで、少し読みにくさを感じるな。



主語が「ぼく」から「妹」に変わったから読みにくいのかな。



「妹がぼくを起こした」の主語を「ぼく」にしたらどうかな。



でも「ぼくは妹を起こした」になると、意味が変わるから気を付けないとね。

- 文章を読み返すときのポイント
- 主語と述語とのつながりを考える。
- 意味が変わっていないか確認する。

○ 妹に起こされた。
× 妹を起こした。 } 意味が変わっている。

本を読んでいるうちにねてしまって、ぼくは

主語は「ぼく」

どのように書き直せば読みやすくなるか

めあて
相手に正しく伝わる文章にするために、文章を読み返そう。

今日は、妹と近くの公園で遊ぶやくそくをしていたけど、雨がふってきたので、部屋で本を読んだ。本を読んでいるうちにねてしまって、妹がぼくを起こした。雨がやんだので、にわで妹とおいかけっこをして遊んだ。

- ◎ 書いた文章を推敲する学習を繰り返し、書き直したものが読みやすくなり、相手に伝わったということを児童が実感できるように指導することが大切です。

○ 活用力育成シート、定着確認シート等の活用

【出典】
「全国学力・学習状況調査」
平成三十年度 小学校 国語A

選んだ文の番号・・・
書き直した一文

〈問い〉
部と部とのつながりが合っていない文の番号を、①から④までの中から一つ選んで書きましょう。また、部はそのままにして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましょう。

①ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。②ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。③今年の春休みは、とてもじゆう実したのとなりました。でも、反省していることもあります。④反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけではなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

【春休みの出来事の一部】
文のはじめにある数字は、その文の番号を示しています。

⑤大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、読み返して、部と部とのつながりが合っていない文があることに気づきました。次の【春休みの出来事の一部】をよく読んで、あとの〈問い〉に答えましょう。

○ 調査問題

5 「発酵食」は、他の食品と比べて保存性が高いことが伝えられる。

4 「発酵食」には、栄養分が多くふくまれていることが伝えられる。

3 「発酵食」へと、さまざまな食品が変化していくことが伝えられる。

2 「発酵食」が、身の回りにもあるものだということが伝えられる。

1 「発酵食」は、うまみや風味が豊かであることが伝えられる。



(2) 【話し合いの様子】に、資料を示すこととありますが、話し合いのあと、石田さんたちは発表で次の資料を提示することになりました。この資料を示すことの効果として適切なものを、あとの1～5の中から二つ選びましょう。

石田さん… 原稿の「発酵食とはどのようなものか」についての部分をどう直せばいいか話し合いました。

山村さん… 発酵食は「食品を変化させたもの」ということですが、食品が変化するというのがどういうことかわかりにくいと思います。

花田さん… 「何が」「どのように」変化するのかを具体的に書いた方が伝わりやすいと思います。

山村さん… はい、そうですね。

花田さん… いいですね。

石田さん… 他に意見はありませんか。

長井さん… 聞いている人が納得できるように資料を示すと良いと思います。

話し合いは続く。



14 石田さんのグループは、「発酵食」について調べたことをクラスで発表することになりました。次の【発表原稿の下書きの一部】と、推敲のための、グループの【話し合いの様子】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【発表原稿の下書きの一部】

次に「発酵食」とはどのようなものか説明します。

「発酵食」とは微生物の力で食品を変化させたものです。

「発酵食」の特徴は主に四つあります。一つめは、ビタミンなどの栄養が多くふくまれていることです。二つめは、うまみや風味が豊かということです。三つめは、腸内の環境を整えてくれることです。四つめは、保存がきくものもあることです。「発酵食」は私たちの健康を保つためにもよいものなので、食生活に取り入れたいですね。

「発酵食」は、私たちの身の回りにたくさんあります。たとえば、納豆や、キムチ、しょうゆや、みそ、お酢やヨーグルトなどです。

原稿は続く。

○ 調査問題の趣旨・内容

- 【問題の趣旨】
- 資料を活用する。
- 【問題の内容】
- 資料を用いることによる効果を選択する。

○ 誤答分析

解答類型	正答「2」と「4」を解答	「2」と「4以外」を解答	「2以外」と「4」を解答	その他の解答	無解答
解答率	28.6%	10.0%	40.1%	16.6%	4.7%

- 正答率は、28.6%である。「資料を示すことの効果として適切なものを二つ選ぶ」問題であるが、正答の一つである「4」を選択することができた児童は68.7%にのぼる。その一方で、「2」を選択することができた児童は38.6%にとどまった。
- 【発表原稿の下書き】のどの部分について資料を示すとよいかについては、【話し合いの様子】の中で話されていない。そのため、【発表原稿の下書き】の文章と「この資料」の図表などの情報を関係付けて検討することが求められる。一方の情報のみに着目し、【発表原稿の下書きの一部】で取り上げられている言葉を根拠として選択したと考えられる。
- 「栄養分」と「ビタミン」の関連は捉えやすかったが、「身の回りにもある発酵食」と「図」の関連が捉えにくかったと考えられる。

○ 指導上のポイント

考えを伝えるために、資料を活用する指導

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

【学習指導要領 第5学年及び第6学年 A話すこと・聞くこと ウ】

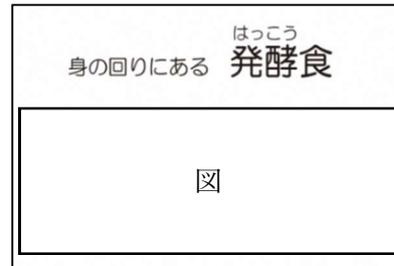
- 情報と情報の関係付けの仕方について理解できる学習を設定する。



【A】



【B】



【C】

児童には、【A】の資料を見たときに「表題」と「図」の関係を把握する力が求められます。その関係を具体的な学習場面で理解させるためには、【B】や【C】の資料のような一部情報が伏せられているものを提示し、伏せられている部分について考えさせる学習に取り組むことが有効です。「図」と「表題」の関係を把握させる上で、新聞や広告、パンフレットやポスター等を教材として活用することも考えられます。

- 伝える相手や目的を意識した学習を設定する。

聞き手の興味・関心や情報量を予想し、補足説明が必要な箇所や言葉だけでは伝わりにくい内容について、どのような資料を用意すればよいかを考えることが重要です。その際、資料の順番を変えたり、資料を提示しながら話す仕方について検討したりすることが求められます。

集めた資料を活用する際には、資料の中の「表題」「図」「グラフ」「数値」「説明」等が話す内容とどのように関係しているのか、目的や相手、状況などを踏まえ、話す内容と資料との整合について検討する学習を取り入れましょう。

【「授業スタンダード」の視点：理由や根拠を基に判断する場を設定し、考えを共有・吟味する】

○ 活用力育成シート、定着確認シート等の活用

【出典】
「活用力育成シート」
令和二年度 第一回 小学六年

ア 地震の被害の様子が分かる写真を示すことで、災害の大きさを伝えようとしている。
イ 避難訓練の体験談を引用して話すことで、訓練の具体的な内容を伝えようとしている。
ウ 防災設備のある場所の地図を示すことで、聞き手に興味をもってもらうようとしている。
エ 地震発生回数のグラフを示すことで、地震回数の変化を視覚的に伝えようとしている。
オ 非常持ち出しぶくろの中身の写真を示すことで、初めて見る人にも分かりやすくしている。

一 【パネルディスカッションの様子】の北原さんと夏川さんは、自分の考えがよく伝わるように、工夫しながら説明をしています。【A】・【B】のところ二人が工夫した意図として最も当てはまるものを、次のアからオまでの中から一つ選んで、その記号を書きましよう。

○ 調査問題

- (1) 岸本さんのインタビューのしかたの工夫として適切なものを、次の1～5の中から二つ選びなさい。
- 1 質問の答えに相づちを打つことで、相手が話をしやすいようにしている。
 - 2 言葉をかえて質問をくりかえすことで、意図を正しく伝えようとしている。
 - 3 質問の答えに対してさらに理由をたずねて、相手から話を引き出している。
 - 4 事前に調べた内容と比べながら質問して、新たな情報を得ようとしている。
 - 5 相手の言葉を言い換えてたずねて、自分の理解が正しいかを確認している。

14 岸本さんは、クラスで地域の文化を紹介するために、和紙作り工房で働く宮田さんにインタビューをしました。次の「インタビューの一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。

【インタビューの一部】

岸本さん… この地域には和紙作りの工房がいくつありますが、和紙作りがきかんのですか。

宮田さん… はい、そうですね。この辺りは和紙作りに適していて、千三百年ほど前から和紙が作られていると言われてます。

岸本さん… なぜ、この辺りは和紙作りに適しているのですか。

宮田さん… 和紙を作るための植物と、和紙作りに欠かせないきれいな水があるからです。

岸本さん… 和紙を作るための原料と環境がそろっているということでしょうか。

宮田さん… そうです。

岸本さん… 和紙の原料について教えてください。

宮田さん… 和紙の原料には「コウジ」や「ミツマク」などがありますが、この地域では「コウジ」を原料に使っています。「コウジ」はクワのなかまの低木です。

岸本さん… 「コウジ」で作った和紙には、どのような特徴がありますか。

宮田さん… 「コウジ」は光沢があって繊維が長いので、美しく丈夫な和紙ができます。

岸本さん… よくわかりました。

宮田さん… ここで作っている和紙には、色がやや黄ばんでいるという特徴があります。製作過程で、和紙の色を白くするための薬品を使わないからです。

↳ インタビューは続く

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の趣旨】

- インタビューのしかたを工夫する。

【問題の内容】

- インタビューのしかたの工夫として適切なものを選択する。

○ 誤答分析

解答類型	正答 「3」と 「5」を解答	「3」と「5 以外」を解答	「3以外」と 「5」を解答	その他の解答	無解答
解答率	17.4%	44.9%	13.1%	23.3%	1.3%

- 正答率は17.4%と低い。
- 主な誤答は「『3』と『5以外』を解答」であった。正答と併せて考えると、「3」を選ぶことができた生徒は約62%であり、「5」に課題が見られる。「相手の言葉を言い換えてたずねて、自分の理解が正しいかを確認している」部分がどこか、【インタビューの一部】と照らし合わせて判断できなかったと考えられる。

○ 調査問題

(2) 文末の表現が他と異なる一文があります。その文末を他の文末と同じように書き直さない。

【体育祭の「スローガン」募集のお知らせの下書き】

7月5日
第三中学校生徒会

体育祭の「スローガン」募集のお知らせ

夏休みが目前となりました。みなさん、部活動に勉強に頑張っていることでしょう。

さて生徒会では、10月実施予定の体育祭のスローガンを募集しています。過去4年のスローガンは「1. 走れ、走れ、走れ」、「2. つかめ勝利を」、「3. 闘志が叫ぶ」、「4. 魂が躍る」でした。今年も第三中学校の熱い体育祭にふさわしいスローガンの応募をお待ちしています。

記

1. 募集期間 7月5日(金)～7月19日(金)
2. 提出場所 生徒会室前の回収箱
3. その他 ・スローガンは10字以内としてください。
・スローガンは生徒会役員で協議して決める。
・結果は、9月はじめに発表します。

以上

9 生徒会役員の山下さんは体育祭に向けて「『スローガン』募集のお知らせ」を書いていきます。次は、その【体育祭の「スローガン」募集のお知らせの下書き】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の趣旨】

- 文を読み返し、さらにより良い文にする。

【問題の内容】

- 敬体・常体の不統一を正し、より良い表現に直して書く。

○ 誤答分析

解答類型	正答	その他の解答	無解答
解答率	58.2%	26.6%	15.2%

- 正答である常体を敬体にして「決めます」とした解答率は 58.2%、「その他の解答」の解答率は 26.6%である。無解答率は 15.2%と高い。
- 誤答例としては、「勝利をつかめ」と解答しているものの割合が多く、解答類型「その他の解答」内の 36%を占めている。「一文」「文末」などの言葉を正しく捉えられていない、または、倒置法などの修辞に対する知識が不十分であることが考えられる。

○ 指導上のポイント

表現の効果を確かめて、文章を整えさせる指導

読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。

【中学校学習指導要領 第2学年 B書くこと エ】

【下書き】

「地球環境を守ろう」という本によると、これからは地球の気温の上昇は進むそうです。このままでは、大きな災害が起こるかもしれません。

【推敲後】

私は、地球温暖化に対する対策を積極的に行うべきだと思います。「地球環境を守ろう」という本には、「今後、地球の気温の上昇は進む」と書かれています。このままでは、これからは地球温暖化は進むようです。大きな災害が起こる可能性もあると思います。

〈授業例〉

- ① 「環境問題」をテーマに各自が意見文を書く。
- ② 読み手に分かりやすい文章になっているかを友達と話し合う。
- ③ 推敲のポイントをまとめる。
- ④ 各自で文章を見直す。

主張を先に書いて、引用文は「」にすればどうか。

文末表現を工夫して、事実と意見を区別した方がいいね。



【「授業スタンダード」の視点：論点や議題を明確化し、理由や根拠を基に判断する】



書いた文章を相互評価する活動を通して、生徒自らが、よりよい文章にするための観念に気付くことが大切です。また、振り返りの時間を確保し、よりよい文章を書くポイントを可視化し、他でも使える力として育てていきましょう。

○ 活用力育成シート、定着確認シート等の活用

【出典】「活用力育成シート」
令和元年度 第三回 中学一年

○ たとえ、聖火リレーのランナーとして実際に自分が走らないとしても、

(1) 山下さんは、〈提案書の下書き〉に次の言葉を書き加えることにしました。ア〜エのどの部分に書き加えますか。

植える花として提案したいのは、

〈提案書の下書き〉
生徒会でも、オリンピック・パラリンピック開催に向けて、何かできることはないかと考えてみました。(ア) 私たちが住んでいる地域では聖火リレーが実施されます。まずは、この聖火リレーを盛り上げ、応援に来る人たちが喜んでくれるようなおもてなしをしたいと考えます。具体的には、(イ) 地域の婦人会にも協力いただいて、聖火ランナーが走る沿道に花を植えることを提案します。

三 山下さんは〈話し合い〉の内容を文章にまとめ、顧問の先生に提案書として提出することにしました。次は、山下さんが書いた〈提案書の下書き〉の一部です。

〈話し合い〉

学校でもオリンピック開催に向けて、応援にいらっしゃる方をもてなすために何か取り組めることはないか考えました。地域の婦人会の方々と一緒に沿道の脇に花を植えるのはどうでしょうか？
山下さん

聖火ランナーが走る時に沿道に花が咲いているといいですね。応援にいらっしゃった方も喜んでもらえると思います。花の咲く時期なども調べて、植える花を決めるのはどうでしょうか？
松本さん



植える時に花の名前が分かるようにネームプレートを作るのもいいですね。花は、できれば種から育てるのはどうですか？
大野さん

(3) 算数・数学

小学校 第4学年 算数 6 (4)

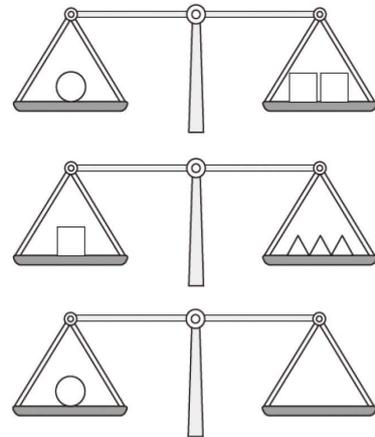
問題の学力のレベル
レベル6-C

○ 調査問題

6 (4) □、○、△の3つのブロックの重さをくらべます。
□のブロック2こと、○のブロック1この重さをくらべたところ、同じ重さになりました。

つぎに、□のブロック1こと、△のブロック3この重さをくらべたところ、同じ重さになりました。

○のブロック1こと同じ重さになるためには、△のブロックをいくつのせればよいですか。答えを書きましょう。



○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の趣旨】

- 等しい重さはつり合うことを理解している。

【問題の内容】

- つり合いの情報から、等しくなる重さを求める。

○ 誤答分析

解答類型	正答 「6」と解答	「3」と解答	その他の 解答	無解答	その他の解答に 含まれる 「頻出の誤答例」
解答率	50.2%	10.6%	36.1%	3.1%	2, 4

- この問題では、△が任意単位として扱われていることに気付くことが大切である。正答率は50.2%であり、複数の事実や条件を基に、筋道を立てて考えて結論を導き出すことに課題がある。
- 10.6%の児童が、「3」と解答している。これは、○のブロックの重さと□のブロックの重さを、どちらも、△のブロックが3つ分であると捉えてしまったための誤りであると考えられる。また、頻出の誤答例として見られた解答では、「2」と「4」が多い。いずれの解答も、「○のブロックの重さは、□のブロックの重さより重い」ことを、3回の操作から判断することができないための誤りであると考えられる。
- 指導に当たっては、複数の情報が与えられている場面で、個々の情報から分かることを明らかにして、それを基に問題の条件に合うものを判断する活動を取り入れることが考えられる。その際、複数の情報を整理して表などにまとめ、過不足なく表現できるようにしたい。

○ 指導上のポイント

量の特徴に着目し、重さを比べる指導

身の回りのものの大きさに着目し、数値化して比べたり表したりする活動を通して、測定の意味の理解を深めること。【学習指導要領 第3学年 数学的活動(1)ウ】



消しゴムとのりとじょうぎ、どれが一番重いかな？



持って比べるとよくわからないから、てんびんで比べては？

消しゴムとのりでは、のりの方が重いね。



のりとじょうぎでは、じょうぎの方が重かったよ。

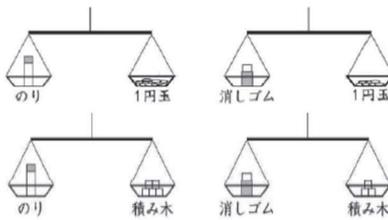


それぞれの重さはどれくらいちがうのかな？

だったら、じょうぎは消しゴムよりも重いんだね。



同じ重さの物を使ってくらべてみよう！



長さや水のかさで考えた時のように、もとにする大きさを決めて、その数のいくつ分かで考えればいいね。



置き換えて考える力を育てる

	積み木	1円玉
消しゴム	2こ	20まい (g)
のり	4こ	40まい (g)
じょうぎ	6こ	60まい (g)

消しゴムは、積み木2こ分 (□□)
 じょうぎは積み木が6こ分 (□□□□□□)
 同じ消しゴムが3こあれば、じょうぎと同じ重さになる。

$$(□□) (□□) (□□) = (□□□□□□)$$



【「授業スタンダード」の視点：課題と既習事項を関連付けながら、どう解決するか見通しをもつ】

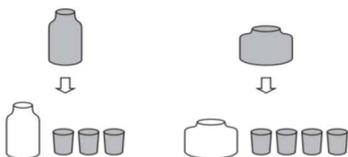
○ 活用力育成シート、定着確認シート等の活用

4

次の2つのびんにいっぱい入れた水のかさを比べます。



2つのびんにいっぱい入れた水のかさは、同じ大きさのコップに分けて、それぞれコップ何杯分かで比べることができます。



この比べ方と同じように、ものの重さや長さを同じ大きさのいくつ分かで比べているものは、右の1から4までの中のどれですか。2つ選んで、その番号を書きましょう。

1 のりと消しゴムの重さを、てんびんを使って、同じ重さの積み木の個数で比べます。



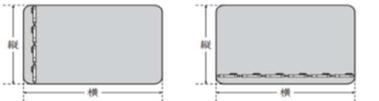
2 分度器と三角定規の重さを、てんびんを使って、どちらにかたむいてあるかで比べます。



3 2本のえんぴつの長さを、えんぴつのはしをそろえて立て、どちらのえんぴつの先が高いかで比べます。



4 ある机の縦と横の長さを、同じ長さのボールペンの本数で比べます。



【出典】

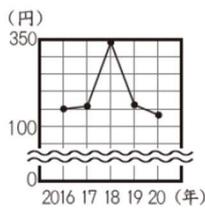
「全国学力・学習状況調査」
 平成29年度
 小学校 算数 A

○ 調査問題

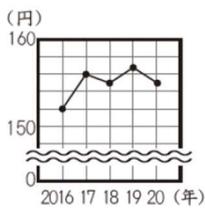
9 (2) たまごの価格は10こでおよそ200円です。何年も前からたまごの価格はほとんど変わっておらず、その特ちょうから、たまごは「物価の優等生」と言われています。

次のグラフは、食べ物の価格のグラフです。たまごの他に、「物価の優等生」であることがわかる食べ物を、次の㉗から㉙の中から1つ選びましょう。

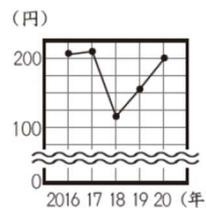
㉗ キャベツ1kgの価格



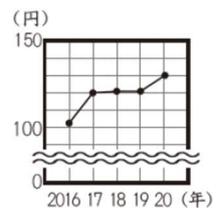
㉘ もやし1kgの価格



㉙ だいこん1kgの価格



㉚ バナナ1kgの価格



○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の趣旨】

- データから特徴を読み取ることができる。

【問題の内容】

- 主張に適合するグラフを選ぶ。

○ 誤答分析

解答類型	「㉗」と解答	正答 「㉘」と解答	「㉙」と解答	「㉚」と解答	その他の 解答	無解答
解答率	8.0%	20.5%	10.3%	53.0%	0.1%	8.2%

- この問題では、折れ線グラフの縦軸の一目盛りの数値に留意してグラフの特徴について考察することが大切である。正答率は20.5%であり、グラフから価格の変動を読み取り、それを根拠に、事柄を正しく判断することに課題がある。
- 53.0%の児童が、「㉚」と解答している。これは、価格の変動が小さいことを、折れ線グラフの傾きだけで判断した誤りであると考えられる。
- 複数のグラフを比較するとき、それぞれの目盛りの大きさなどに留意して的確に読み取ることができるようにすることが大切である。複数の折れ線グラフを提示し、比較する場面を取りあげて、変化の大きさや増え方の大きさの違いについて考察する活動が必要である。授業では、1目盛りの大きさの異なるグラフを扱う場面を設け、それらのグラフを同じ目盛りの付け方でかき直し、重ねて比較することが考えられる。

○ 指導上のポイント

二つのグラフを比べ判断したことを考察し、適切なグラフについて考察を深める指導

二つのグラフを比べて判断したことを考察し、よりの確なグラフに作り替えて考察を深めること。【学習指導要領 第4学年 数学的活動(1)ア】

(1) 二つのグラフを詳しく比べて読み、判断する活動

A小学校 図書委員会だより
「物語」の貸出冊数

B小学校 図書委員会だより
「物語」の貸出冊数

どちらの学校が、読書活動がうまくいったでしょうか。

B小学校の方が、増え方が大きいよ。

B小学校の最も多い月は、A小学校よりも多いよ。

本当にそうかな？

よく見ると、二つのグラフは目盛りの大きさがちがうね。

B小学校のグラフには、省略を示す線が使われているよ。

正しく判断するためには、どこを見ればよいかを考え、一目盛りの大きさに着目させることが大切です。

【「授業スタンダード」の視点：子どもの気づきや発言などをつないで焦点化し、学習課題を設定する】

(2) 目的に応じて、グラフを作り替える活動

どのように作り替えたなら、比べやすくなりますか？

一目盛りの大きさを同じにすればいいと思います。

別々ではなく、同じ用紙にグラフをかけばいいと思いま

「物語」の貸出冊数

折れ線グラフの傾きは、縦軸の目盛りの幅のとり方によって、大きく変化します。

グラフを見かけて判断せず、目盛りの幅に注意しながら読み取らせることが大切です。

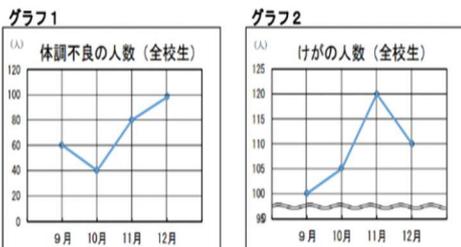
【「授業スタンダード」の視点：目的を明確にした話し合いで、思考を整理する】

○ 活用力育成シート、定着確認シート等の活用

【出典】

「活用力育成シート」
平成30年度 第3回 小学4年

1 保健委員のたかしさんとゆみさんは、9月から12月までの4か月の間に体調不良になった人数けがをした人数を調べ、それぞれグラフ1、グラフ2にまとめました。



たかしさんは、2つのグラフの10月から11月までの人数の変化の様子を見くらべて、自分の考をまとめました。

たかしさんの考え



10月から11月までの人数のふえ方を見ると、けがの人数のほうが、体調不良の人数より人数のふえ方が大きいです。

(1) たかしさんの考えは、正しいですか。「正しい」か「正しくない」かのどちらかを○でかこみましょう。また、そのわけを、言葉や数を使って書きましょう。

(1)	(たかしさんの考えは) 正しい ・ 正しくない	01
	(わけ)	02

○ 調査問題

1

(4) 15 Lのジュースを10等分したうちの3つ分は、何Lですか。
分数で書きましょう。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の趣旨】

- 分数について理解している。

【問題の内容】

- 等分した数を分数で答える。

○ 誤答分析

解答類型	正答 「 $\frac{9}{2}$ (L)」または 「 $4\frac{1}{2}$ (L)」と 解答	「4.5(L)」 と解答	その他の 解答	無解答	その他の解答に 含まれる 「頻出の誤答例」
解答率	2.7%	14.7%	75.5%	7.2%	$\frac{3}{10}$, $\frac{1}{5}$

- この問題では、被除数に当たる数と除数に当たる数を的確に判断することが大切である。正答率は、2.7%と極めて低く、数量を等分したときの1つ分を求めるために除法が用いられること、商を分数で表すことの理解に課題がある。
- 分数の意味理解および指導を振り返る契機となる設問である。「(整数)÷(整数)」の場面で除法が用いられることは理解しているが、量を等分したときの1つ分の量を分数で表すことができないと考えられる。
- その他の誤答が75.5%と非常に高く、その中に $\frac{3}{10}$ と解答した児童が38%、 $\frac{1}{5}$ と解答した児童が11%いた。 $\frac{3}{10}$ と解答した児童は、設問の後半部のみを捉えて間違えたと思われる。 $\frac{1}{5}$ と解答した児童は、15Lの10等分を $\frac{1}{15}$ Lと捉え、その3つぶんとして $\frac{3}{15}$ Lと考えたと思われるが、どちらも分数の意味理解に課題がある。数直線や図を活用しながら、1つ分の大きさをしっかり捉え、その3つ分がいくつになるかを筋道立てて考えられるようにしたい。
- 4.5Lと小数のまま解答してしまった児童が14.7%いた。解答を導いたあとに出題の条件にあっているかどうかを確かめるような指導も必要である。

○ 指導上のポイント

数量を等分したときの1つ分を求めるために除法が用いられること、商を分数で表せることを理解できるようにするための指導

分数の表現に着目して、分数の意味をまとめること。
【学習指導要領 第5学年 A数と計算 A(4)イ(イ)】

2Lのジュースを3等分します。1つ分の量は、何Lになりますか。求める式を書いて、言葉と図で説明しましょう。

【統合・発展・拡張】



求める式は $2 \div 3$ です。

$2 \div 3 = 0.666\dots$ となり、割り切れません。



分数の表現に着目し、除法の結果の表し方を振り返ってまとめる言語活動が大切です。

今までにどのような分数を学習してきたかな。



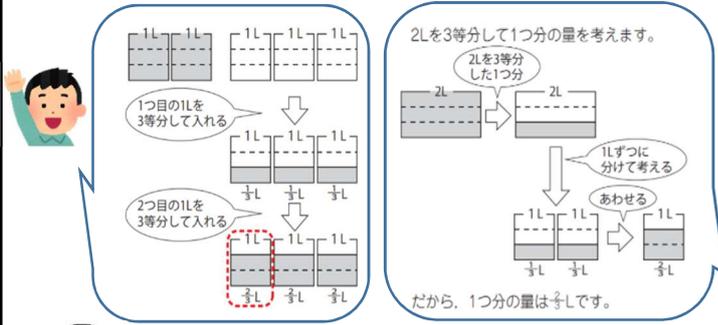
量の大きさを表す分数を学んだよ。



ある量の何倍かを表す分数もあったね。もとにする大きさを1とみて、分数倍で表すことができたね。



わり算の商を表すために、分数を使ったよ。整数のわり算の商は、すべて分数で表すことができたね。



$2 \div 3$ の答えは、分数を使って $2/3$ と表すことができます。

<板書の例>

<p>2Lを3等分した 1つ分の量は、$\frac{2}{3}$L。 式で書くと、 $2 \div 3 = \frac{2}{3}$</p>	<p>整数どうしの割り算の商は、 分数で表すことができる。 このとき、割る数を分母に、 割られる数を分子にする。</p>
--	--

H22 全国学力・学習状況調査
授業アイデア例

【「授業スタンダード」の視点：言語活動を通して、思考力、判断力、表現力等を高めながら、ねらいを達成する。】

○ 活用力育成シート、定着確認シート等の活用

【出典】

「全国学力・学習状況調査」
平成29年度 小学校 算数A
令和2年度 小学校 算数

3

ようさんたちは、分数のたし算について考えています。

(1) $\frac{1}{3} + \frac{2}{6}$ の計算をしましょう。

(2) ようさんたちは、 $\frac{1}{2}$ Lと $\frac{1}{4}$ Lを合わせるで何Lになるのかを考えています。
式は、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{4}$ になることがわかりました。

ようさん：1Lを $\frac{1}{2}$ とすると、 $\frac{1}{2}$ Lは $\frac{2}{4}$ Lと表すことができますね。

はなこ：私も、 $\frac{1}{2}$ Lを $\frac{2}{4}$ Lと表そうと思います。

ようさんたちは、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{4}$ について、図をもとに考えました。

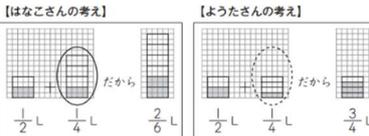
ようさん：答えは $\frac{3}{4}$ Lになりました。

はなこ： $\frac{2}{6}$ Lではないのかな。

ようさん： $\frac{2}{6}$ Lだとすると、 $\frac{1}{2}$ Lと $\frac{1}{4}$ Lをたしているのに、 $\frac{1}{2}$ Lより小さくなってしまいますよ。

はなこ：本当ですね。 $\frac{1}{2}$ Lは1Lの半分だから、半分よりも小さい $\frac{2}{6}$ Lになるのは、おかしいですね。

はなこさんは、【はなこさんの考え】と【ようさんの考え】を見て、【はなこさんの考え】の中の○を、【ようさんの考え】の中の○のように直す必要があることに気付きました。



1Lの大きさを $\frac{1}{2}$ Lと表すとき、【はなこさんの考え】の中の○は、【ようさんの考え】の中の○のように直す必要があります。
【はなこさんの考え】の中の○を直す必要はないわけ、次のようにまとめます。

- 【ようさんの考え】の中の○のように、 Lを4等分しなければいけないのに、
- 【はなこさんの考え】の中の○は、 Lを4等分しているからです。

上本文の○、○に入る数を書きましょう。

2

次の問題に答えましょう。

(2) 2Lのジュースを3等分すると、1つ分の量は何Lですか。答えを分数で書きましょう。

○ 調査問題

1

(9) $\frac{2}{3}$ d L で $\frac{2}{5}$ m² ぬれるペンキがあります。このペンキ 1 d L で何 m² ぬれるか求めなさい。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の趣旨】

- 分数の除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。

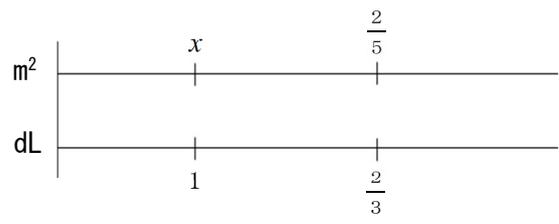
【問題の内容】

- 分数の除法を用いて、文章題を解く。

○ 誤答分析

解答類型	正答 「0.6 (m ²)」または 「 $\frac{3}{5}$ (m ²)」と解答	その他の解答	無解答	その他の解答に含まれる 「頻出の解答例」
解答率	42.9%	51.7%	5.5%	$\frac{5}{3}$ (m ²)

- 正答率は42.9%であった。その他に含まれる誤答の中に、 $\frac{5}{3}$ と解答する生徒が65%見受けられた。これは、除法で求められることは判断できたが、被除数と除数の捉え方が不十分であったと思われる。また、その関係を正しく捉えることができても、(分数)÷(分数)を正しく処理できなかった生徒もいるのではないかと思われる。
- 2つの数量の関係性を捉えるために、数直線や表などを利用することが大切である。しかし、その過程において、下の数直線のような間違いをする生徒もいると予想される。



- 無解答率5.5%から、演算決定ができずにあきらめてしまっている生徒が下位層に存在することが考えられる。

○ 指導上のポイント

分数の除法についても、整数の場合と同じように立式できるのか見通しを持たせる指導

計算に関して成り立つ性質に着目し、多面的に捉えながら計算の仕方を考えること。

【学習指導要領 第6学年 A数と計算 A(1)イ(ア)】

問題 □ d Lで $\frac{2}{5}m^2$ ぬれるペンキがあります。このペンキ1 d Lで何 m^2 ぬれますか。



□の中にどんな数が入ると簡単にできるかな？

では、2 d Lならどんな式で求められますか？

□の中が $\frac{2}{3}dL$ ならどうですか？

2 d Lなら簡単にできそう。

2等分だから、 $\frac{2}{5} \div 2$ です。

$\frac{2}{5} \div \frac{2}{3}$ だと思います。



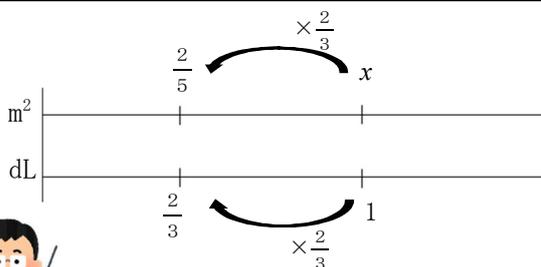
□が整数の場合を考えさせ、既習事項である(分数÷整数)との関連を捉えさせます。その後、□の数を $\frac{2}{3}$ として、除数が分数の場合でも1 d Lあたりの量が求められるのかを問いながら、除法の意味をしっかりと押さえることが大切です。

【「授業スタンダード」の視点：子どもたちの考えを基に話し合いをコーディネートし、ねらいに迫る】

数直線を作っていく過程を共有する指導

二つの数量の関係を数直線を用いて明瞭、的確に表現し、考察すること。

【学習指導要領 第5学年 C(3)割合 イ(ア)】



1はどこに取ればいいかな？

xって何を表しているのかな？

矢印の $\times \frac{2}{3}$ は、どういう意味かな？



数直線を作る過程が大切です。特に、つまづいている子どもには、その過程が見えていません。共有場面では、作っていく過程や考え方を全体で共有できるように、問い返していくことが大切です。

【「授業スタンダード」の視点：考えを共有したり、思考過程を可視化したりしながら、思考を深める】

○ 活用力育成シート、定着確認シート等の活用

【出典】

「活用力育成シート」
令和元年度 第1回 小学6年

1 飼育委員のともきさんとたけるさんは、ウサギ小屋のかべをペンキでぬっています。

$\frac{2}{5}$ dLのペンキで、 $\frac{3}{8} m^2$ のかべをぬることができました。

(1) ともきさんは、このペンキ1 dLでは、かべを何 m^2 ぬることができるか考えています。



どんな式になるのかな。数直線を使って考えてみよう。

ともき

「ペンキの量 $\frac{2}{5}$ dL」, 「かべの面積 $\frac{3}{8} m^2$ 」, 「1 dLでぬれる面積□ m^2 」のそれぞれの

場所は、下の図のどこになりますか。アからオの中から1つずつ選んで記号で答えましょう。

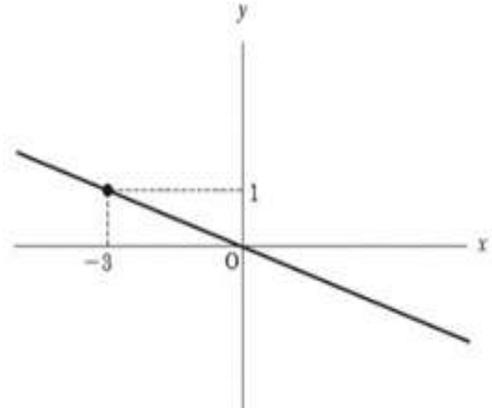


「ペンキの量 $\frac{2}{5}$ dL」	
「かべの面積 $\frac{3}{8} m^2$ 」	
「1 dLでぬれる面積□ m^2 」	

○ 調査問題

3

(4) 次の図は、比例のグラフを表しています。このグラフについて、 y を x の式で表しなさい。



○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の趣旨】

- 比例のグラフから、 x と y の関係を $y = ax$ の形で表すことができる。

【問題の内容】

- 比例のグラフから、 y を x の式で表す。

○ 誤答分析

解答類型	正答 「 $y = -\frac{1}{3}x$ 」と解答	「 $y = -3x$ 」 と解答	その他の 解答	無解答	その他の解答に 含まれる 「頻出の解答例」
解答率	26.3%	25.8%	34.6%	13.2%	($y =$) $-\frac{3}{x}$

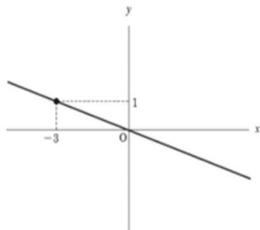
- 正答率は、26.3%である。 $y = -3x$ と選択した誤答が 25.8%であり、正答率とほぼ同程度であった。グラフが通る点 $(-3, 1)$ をもとに、比例定数を $(-3) \times 1 = -3$ と導いてしまったと予想される。このことから、比例と反比例における比例定数の求め方をきちんと整理する必要があると感じる。
- その他の誤答の中に $y = -\frac{3}{x}$ を選択している生徒も見られた。比例と反比例の式の形が混同していたり、それぞれのグラフの形がきちんと理解されていなかったりすると考えられる。
- 表やグラフ、式を交互に関連付けながら理解できるようにするために、表やグラフから比例定数を読み取る活動が大切である。
また、式を満たす x 、 y の値を考える活動を丁寧に取り扱うことも大切である。

○ 指導上のポイント

前提となる条件に着目し、それが適している理由を説明する指導

表，式，グラフを用いた比例，反比例の学習では，それぞれの表現の特徴を理解できるようにすること。【学習指導要領 第1学年 C関数(1)イ(ア)】

1 グラフから読み取る。



グラフの式は，次の①～③のどれでしょう？

① $y = -3x$ ② $y = -\frac{3}{x}$ ③ $y = -\frac{1}{3}x$



③じゃないかな？

① だと思います。



②は違うよね？



2 前提となる条件に着目し，それが適している理由を説明する。



その理由は何ですか？



このグラフは直線だから，比例のグラフです。

②は反比例の式だから，違います。



比例の式は $y = ax$ の形だね。

$x = -3$ ， $y = 1$ を代入すれば分かります。



ということは，比例で $(-3, 1)$ を通るから， $y = ax$ に $x = -3$ ， $y = 1$ を代入すれば，比例定数が求められるね。

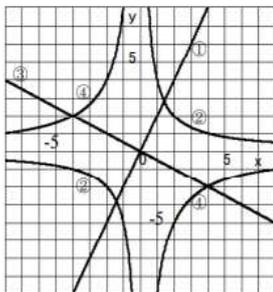


得られた結果が何を前提としているかを考えることが大切です。

【「授業スタンダード」の視点：「見方・考え方」に基づく学級全体での話し合いで，深い学びを実現する】

○ 活用力育成シート、定着確認シート等の活用

6 次の①～④は，比例と反比例のグラフです。それぞれについて， y を x の式で表しなさい。



①	
②	
③	
④	

【出典】

「定着確認シート」
平成23年度 第4回 中学1年

【出典】

「定着確認シート」
平成24年度 第4回 中学1年

【出典】

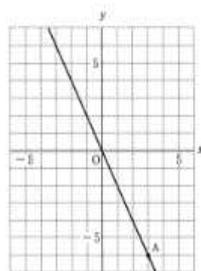
「定着確認シート」
平成29年度 第4回 中学1年

4 右の図は，比例のグラフを表しています。このグラフについて，次の(1)，(2)の問いに答えなさい。

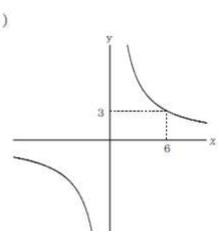
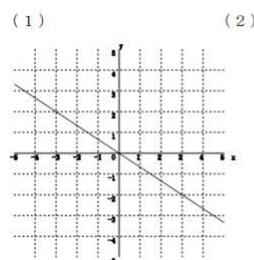
(1) グラフ上の点Aの座標をいいなさい。

(2) y を x の式で表しなさい。

(1) A (,)	(2)
-------------	-----



3 次の(1)，(2)のグラフについて， y を x の式で表しなさい。



6 「非認知能力」・「学習方略」等に関する分析について

ふくしま学力調査と同様の調査を、平成27年度から実施している埼玉県教育委員会では、平成31年度（令和元年度）までに得られた調査データを、統計学や教科教育の専門的な研究機関である慶應大学のSFC研究所へ委託し、次のようなことが分かってきました。

「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる



（「令和元年度埼玉県学力・学習状況調査データ活用事業における分析結果概要」より）

福島県教育委員会では、このような先進的な知見を生かし、「非認知能力」や「学習方略」等の課題克服を通して、学力の向上に取り組んでいきます。

本章では、「非認知能力」や「学習方略」等について説明します。

「非認知能力」や「学習方略」等の調査結果の活用については、38ページで説明している**帳票40**を活用し、一人一人の「非認知能力」や「学習方略」等の課題を見だし、その克服を図ることに生かしてください。それが学力の向上につながると考えられます。

(1) 「非認知能力」について

テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものです。本調査では「**自制心**」「**自己効力感**」「**勤勉性**」「**やりぬく力**」の4種類について質問しています。

① 自制心

自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力

(例) イライラしていても人に八つ当たりしない など

【児童生徒質問紙の項目】 小学校6年生に質問

- ・ 授業で必要なものを忘れた
- ・ 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした
- ・ 何からん暴なことを言った
- ・ つくえ・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった
- ・ 家や学校で頭にきて人や物にあたった
- ・ 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった
- ・ きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた
- ・ イライラしているときに、先生や家の人（兄弟姉妹は入りません）に口答えをした

② 自己効力感

自分はそれが実行できるという期待や自信

(例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など

【児童生徒質問紙の項目】 小学校4年生と中学校1年生に質問

- ・ 授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている
- ・ 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う
- ・ 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う
- ・ 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う
- ・ 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う
- ・ 学校でよい成績をとることができると思う
- ・ 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う

③ 勤勉性

やるべきことをきちんとやることができる力

(例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など

【児童生徒質問紙の項目】 小学校5年生に質問

- ・ うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります
- ・ ものごとは楽しみながらがんばってやります
- ・ 自分がやるべきことにはきちんとかかわります
- ・ じゅ業中は自分がやっていることに集中します
- ・ 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度もかくにんをします
- ・ ルールや順番は守ります
- ・ だれかと約束をしたら、それを守ります
- ・ 自分の部屋やつくえのまわりはちらかっています
- ・ 何かを始めたら、ぜっ対終わらせなければいけません
- ・ 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです
- ・ 宿題を終わらせてから、遊びます
- ・ 気が散ってしまうことはあまりありません
- ・ やらないといけないことはきちんとやります

④ やりぬく力

自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって 成し遂げられる力

(例) 失敗を乗り越えられる など

【児童生徒質問紙の項目】 中学校2年生に質問

- ・ 大きな課題をやりとげるために、失敗をのりこえてきました
- ・ 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります
- ・ 興味をもっていることや関心のあることは、毎年変わります
- ・ 失敗しても、やる気がなくなってしまうことはありません
- ・ 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます
- ・ 何事にもよくがんばるほうです
- ・ いったん目標を決めてから、そのあとべつの目標に変えることがよくあります
- ・ 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中し続けることができません
- ・ 始めたことは何でも最後まで終わらせます
- ・ 何年もかかるような目標をやりとげてきました
- ・ 数か月ごとに、新しいことに興味をもちます
- ・ まじめにコツコツとやるタイプです

(2)「学習方略」について

児童生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）のことで、ふくしま学力調査では「柔軟的方略」「プランニング方略」「作業方略」「人的リソース方略」「認知的方略」「努力調整方略」の6つに分類しています。

① 柔軟的方略

自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動

(例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する
- ・ 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる
- ・ 勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確かめる
- ・ 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える

② プランニング方略

計画的に学習に取り組む活動

(例) 勉強を始める前に計画を立てる など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、最初に計画を立ててから始める
- ・ 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかを確かめる
- ・ 勉強するときは、自分で決めた計画に沿って行う
- ・ 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見直す

③ 作業方略

ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動

(例) 大切なところを繰り返し書く など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく
- ・ 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている
- ・ 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる
- ・ 勉強で大切なところは、繰り返して書くなどして覚える

④ 人的リソース方略 友人を利用して学習を進める活動

(例) 友達に勉強のやり方やわからないところを聞く など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強でわからないところがあったら、友達にその答えをきく
- ・ 勉強でわからないところがあったら、友達に勉強のやり方をきく
- ・ 勉強のできる友達と、同じやり方で勉強する
- ・ 勉強するときは、最後に友達と答え合わせをするようにする

※ 協働的な学びを促す際、児童生徒が安易に友人を頼る意識をもたないような工夫が必要です。

⑤ 認知的方略 より自分の理解度を深めるような学習活動

(例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える
- ・ 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする
- ・ 勉強していてわからないことがあったら、先生にきく
- ・ 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する

⑥ 努力調整方略 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動

(例) 分からないところも諦めずに継続して学習する など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう
- ・ 今やっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるために一生懸命がんばる
- ・ 授業の内容が難しいときは、やらずにあきらめるか、簡単なところだけ勉強する
- ・ 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する

(3) 「主体的・対話的で深い学び」について

学級における「主体的・対話的で深い学び」の状況を数値化した値

【児童生徒質問紙の項目】※学年により、質問項目が異なります

あなたの〇年生の時の〇〇の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか

- ・ 問題を解決するときに、それまでに習ったことを思い出して解決できたこと
- ・ 自分の考えを理由をつけて発表したり、書いたりできたこと
- ・ ノートやワークシート、プリントに書いた授業のまとめを先生に見てもらうこと
- ・ グループで活動するときに、一人の考えだけでなくみんなで考えを出し合っ
て課題を解決すること
- ・ 授業の始めに、先生から、どうやったら課題を解決できるか考えるように言
われること
- ・ 授業の始めには気が付かなかった疑問が、授業の終わりに、頭に浮かんでき
たこと

(4) 帳票40を活用した分析について

帳票40は、各学校に送付したデータの中に入っています。帳票40を活用すると、学年や学級の児童生徒の学力のレベル・学力の伸び・質問紙調査項目の数値から、気になる児童生徒を見付けたり、状態を把握したりすることができます。分析で把握した気になる児童生徒が、そのような状態になっている要因等について吟味し、支援することに役立ちます。

帳票40には、国語と算数・数学の学力のレベルや学力の伸びと併せて「非認知能力」、「学習方略」、「主体的・対話的で深い学び」の児童生徒質問紙の回答状況が示されています。児童生徒質問紙の回答状況はふくしま学力調査から見られる児童生徒の一つの側面ではありますが、学力の伸びの状況が思わしくない児童生徒については、児童生徒質問紙の数値が低い項目について授業や学級で改善を働きかけることにより、学力を伸ばせる可能性があります。

なお、令和3年度調査における帳票40は、令和2年度調査が中止になったため学力の伸びや質問紙調査項目の数値の変化が表示されません。そのため、小学校6年生以上で平成31年度調査との比較ができる「帳票40改」を各学校に送付しています。

40改 学校用(令和3年度 中2)

令和3年度ふくしま学力調査

学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別

<H31⇒R3の学力の伸び・質問紙調査項目の変化を算出>

算数・数学		H31(R1)→R3(変化量)										
R3レベル	一昨年度からの学力の伸び	H31レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略						非認知能力		
				柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	やりぬく力
8-C			-0.0	-0.0	-0.3	-0.0	-0.2	-0.0	-0.4	-	-	-0.1
7-A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8-C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8-B	0	8-B	-0.1	-1.5	-1.0	0.5	0.5	0.8	0.3	-	-	1.1
9-A	4	8-B	0.7	1.5	-0.3	1.3	0.3	0.8	2.3	-	-	-0.7
7-A	3	6-A	-1.1	-0.5	-1.5	-1.3	-0.3	-0.8	-	-	-	-1.3
6-A	-2	7-B	1.3	0.3	-1.0	-0.3	0.8	-1.3	1.3	-	-	-0.3
9-C	2	8-B	1.5	1.8	1.8	1.0	2.8	2.3	1.0	-	-	-0.6
6-B	4	5-C	-0.5	-1.3	-1.0	-	0.5	0.8	-0.5	-	-	0.3

算数・数学の学力のレベルが平成31年度調査から4上がっている。

学習方略のうち、努力調整方略、次いで柔軟的方略の数値が特に上がっている。質問紙調査の回答状況を参考に児童生徒のよい面を認め、自信を持たせたり、意欲を高めたりすることで、さらに学力を伸ばすことにつなげていく。

算数・数学の学力のレベルが平成31年度調査から2下がっている。

学習方略のうち、プランニング方略と認知的方略の数値が特に下がっている。学習を進めるうえで課題となっている可能性があるため、質問紙調査の回答状況を参考に改善を働きかける。

7 児童生徒質問紙調査結果と学力の傾向

(1) 授業に関すること

- 学習の見通しをもつことや、話し合い活動で自分の考えをもつこと、学習内容のつながりを明確にすることと学力の高さに関係が見られた。
 - 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が、学力向上に寄与することが期待できる。
- ◎ 授業の始めに学習活動の見通しをもたせることで、主体的な学びを促すとともに、振り返りの場面における視点が明確になる。
- ◎ 話し合い活動を取り入れる際には、児童生徒が自分の立場を明確にし、他の児童生徒の意見と比較したり、自分の考えを吟味したりすることができるように働きかける。また、話し合い活動を行ってから、自分の考えをもう一度整理し、表現する時間を確保することも大切である。
- ◎ 単元全体を見通して指導計画や評価計画を立て、学習内容のつながりや既習事項との関連を明確にする。

【ふくしまの「授業スタンダード」より】

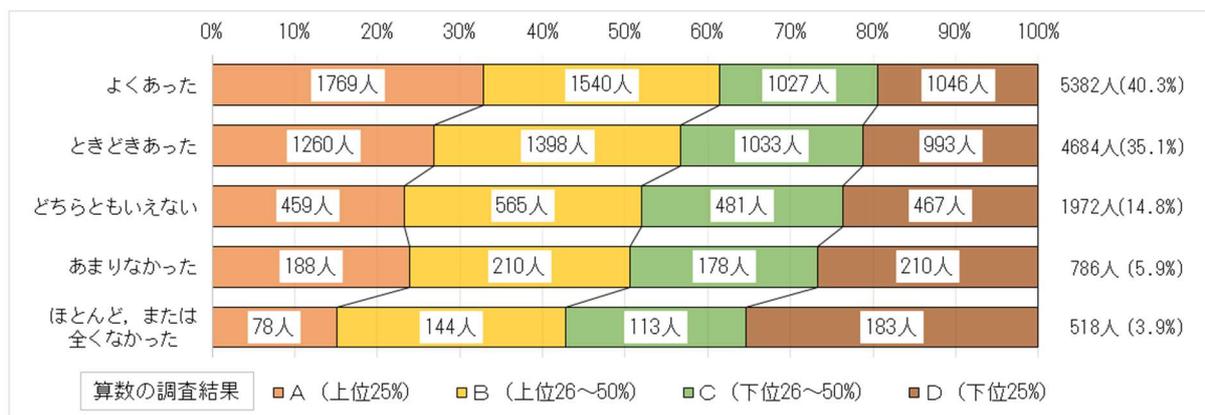
- ・ 「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にするために、焦点化された学習課題を設定しましょう。
- ・ 自分の考えを素直に表現し、相手の考えを共感的に聞くことは、思考の広がりや深まりにつながります。
- ・ 導入において既習事項の振り返りから「問い」や「思い・願い」を引き出したり、計画や見通しをもたせる場面において学習課題と既習事項を関連付けたりする学習活動を設定し、終末において振り返りましょう。

＜児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から＞

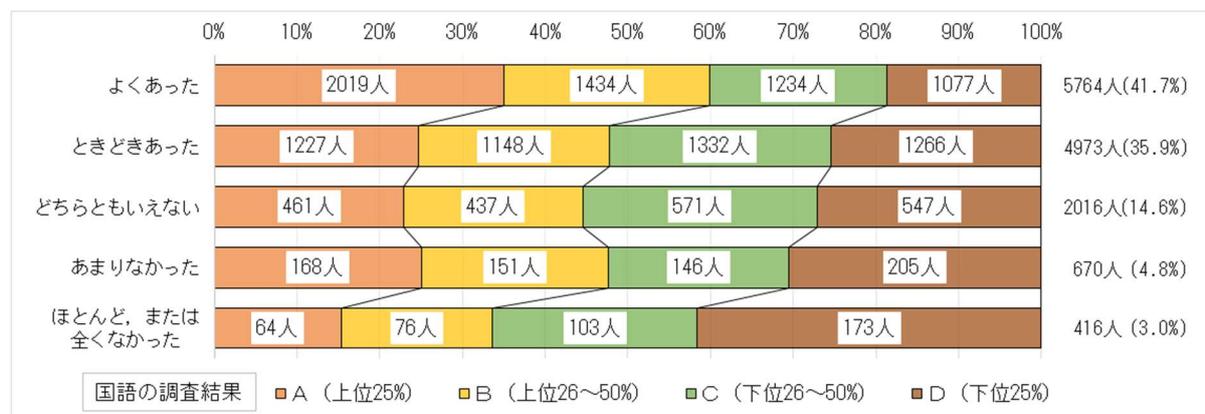
縦軸：質問『授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだことがありましたか』

横軸：『国語の調査結果』（小5・中1）『算数・数学の調査結果』（小4・小6・中2）

小学校4年生 算数



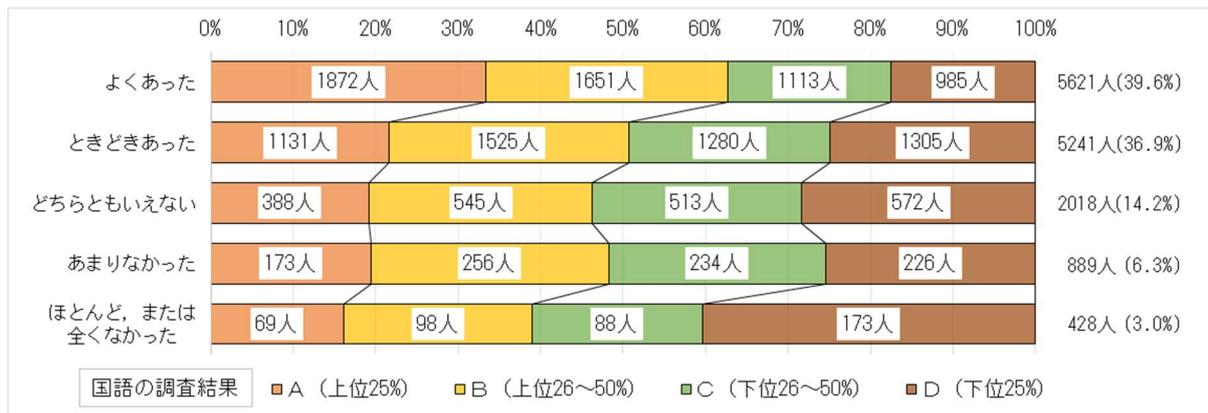
小学校5年生 国語



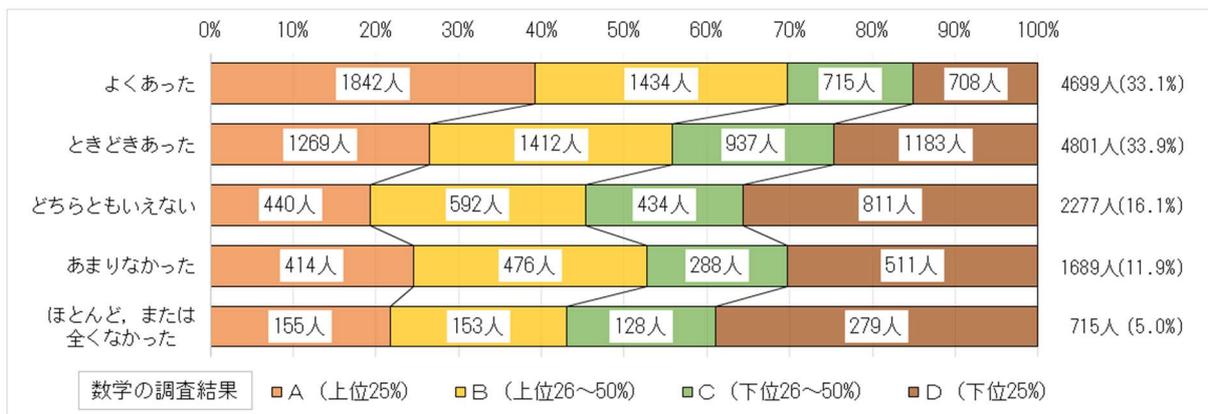
小学校6年生 算数



中学校1年生 国語

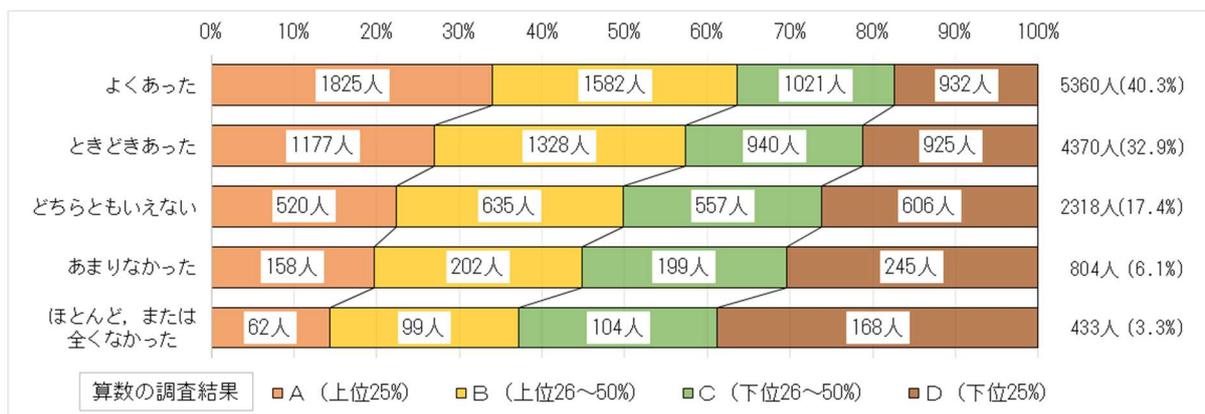


中学校2年生 数学

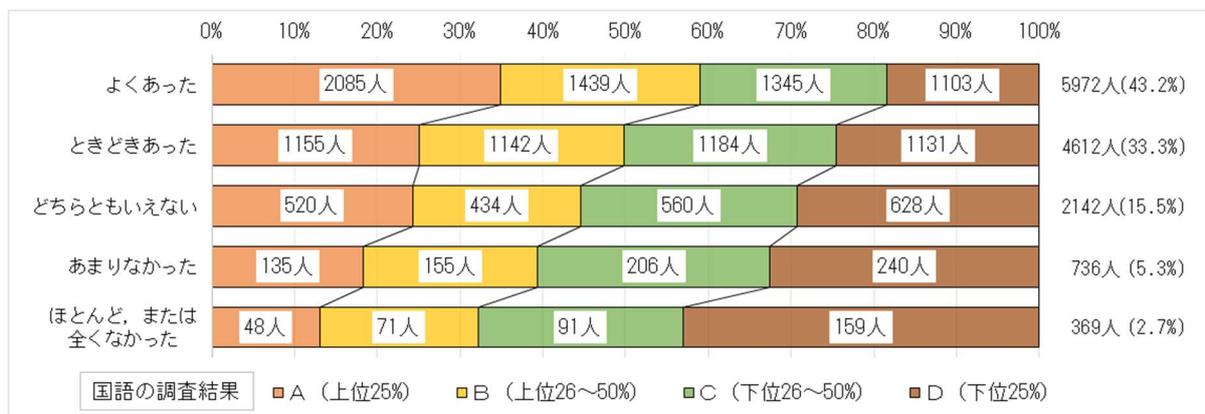


縦軸：質問『課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったことがありましたか』
 横軸：『国語の調査結果』（小5・中1）『算数・数学の調査結果』（小4・小6・中2）

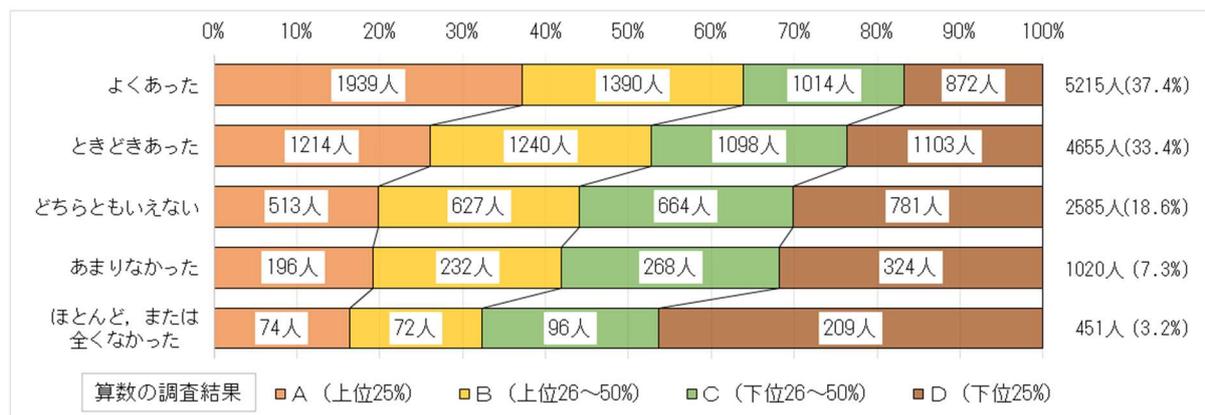
小学校4年生 算数



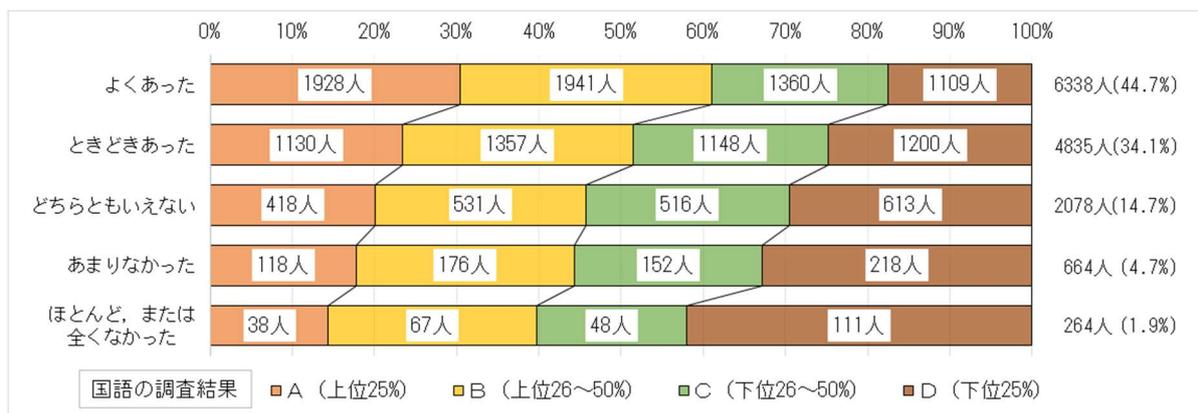
小学校5年生 国語



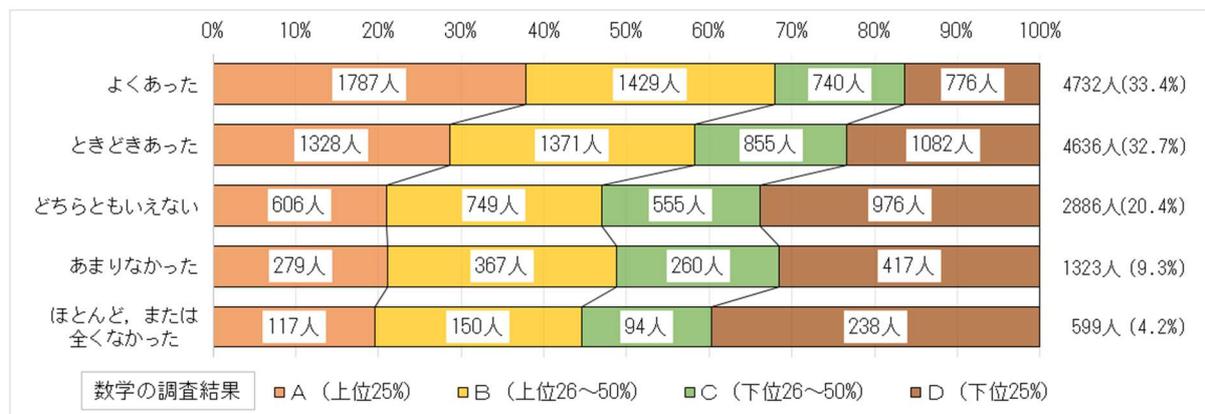
小学校6年生 算数



中学校 1 年生 国語



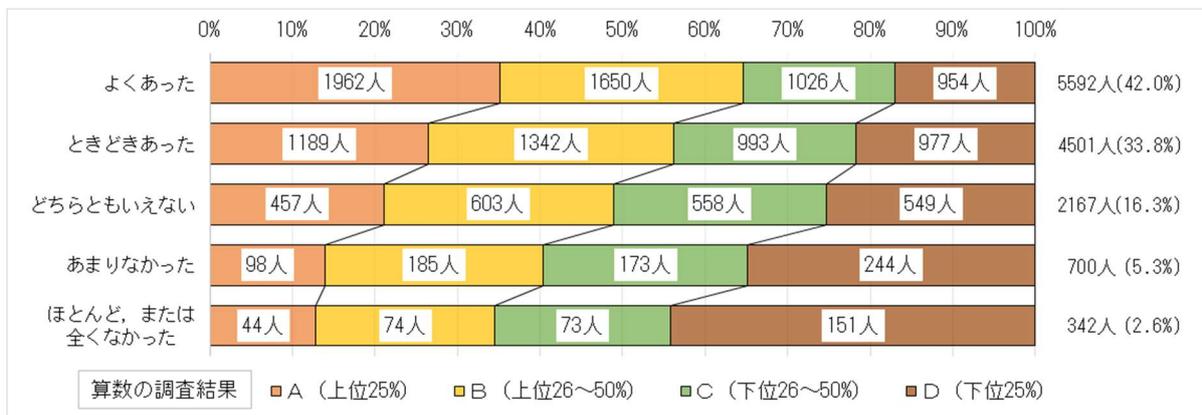
中学校 2 年生 数学



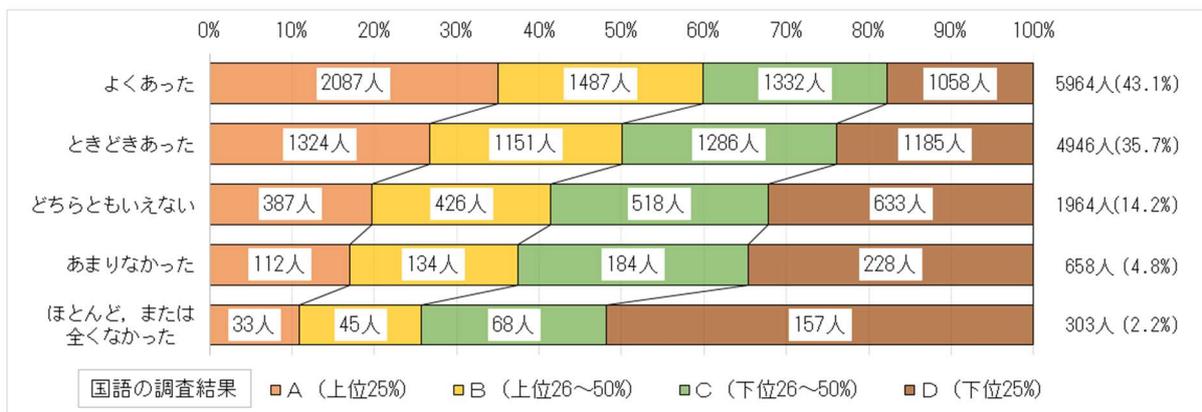
縦軸：質問『授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがありますか』

横軸：『国語の調査結果』（小5・中1）『算数・数学の調査結果』（小4・小6・中2）

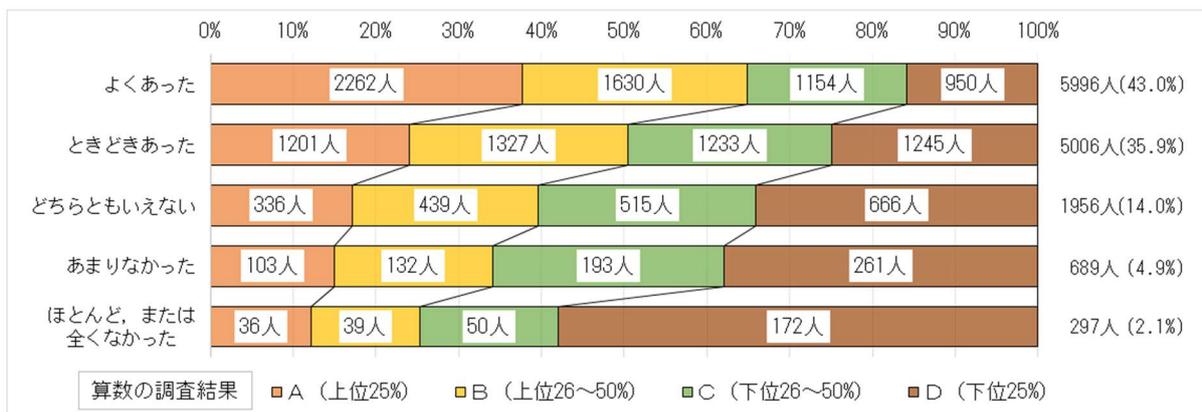
小学校4年生 算数



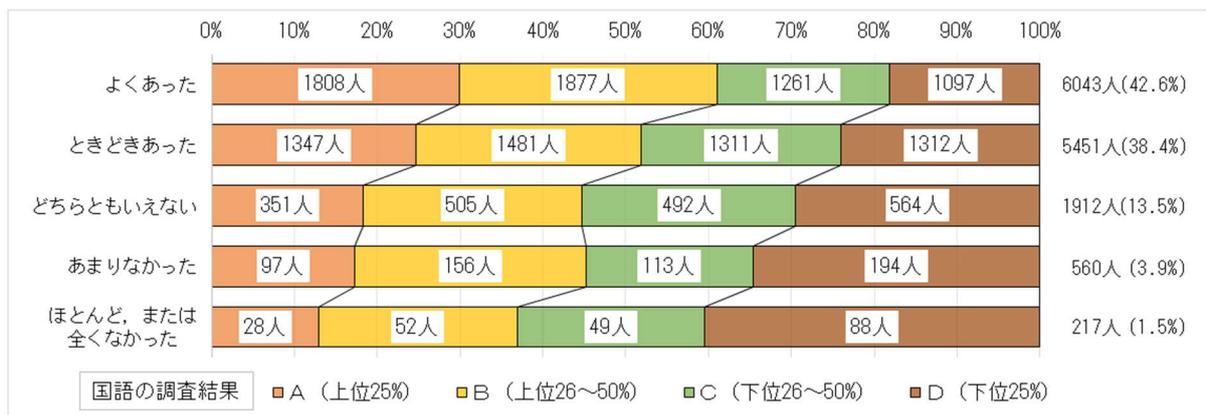
小学校5年生 国語



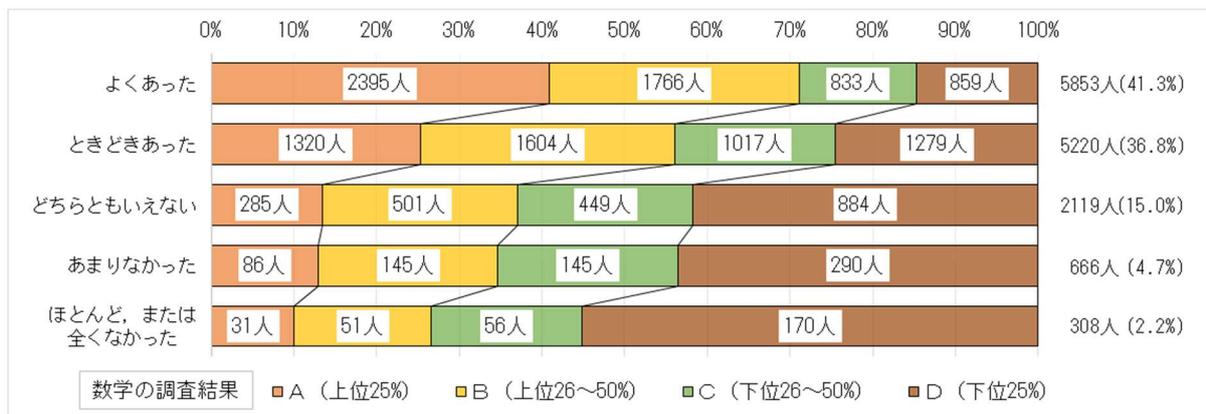
小学校6年生 算数



中学校 1 年生 国語



中学校 2 年生 数学





ふくしま応援！

「ベコ太郎」

(2) 学習意欲や学習環境に関すること

- 学習意欲（特に「勉強することが楽しい、好きだから」）が高い児童生徒は、学力が高い傾向が見られた。
- 学習の準備を整えることや、他の児童生徒及び教師から認められること及び自己肯定感の高さも、学力との関係が強い。

- ◎ 授業で「勉強することが楽しい、好きだ」という考えを児童生徒にもたせるためには、児童生徒が興味・関心を高めることのできる教材との出会いを工夫したり、児童生徒が自分の成長や変容に気付くことのできる振り返りの場を設定したりすることが考えられる。
- ◎ 授業に臨む心構えを確実に共有し、授業の前に必要な学習用具を整えておくなどのよりよい学習習慣や学習に対する前向きな姿勢を育てることが大切である。
- ◎ 学級経営において、児童生徒同士が互いのよさを認め、高め合う雰囲気醸成することにより、達成感を得たり、自己肯定感を高めたりすることが学習意欲や学力の向上につながると考えられる。

【ふくしまの「授業スタンダード」より】

- ・ 学習規律について、発達の段階を踏まえて共通実践をすることを大切にしましょう。
- ・ 普段の学校生活全般において、教師と子ども、子ども同士の「望ましい人間関係」を築いていくことを大切にしましょう。

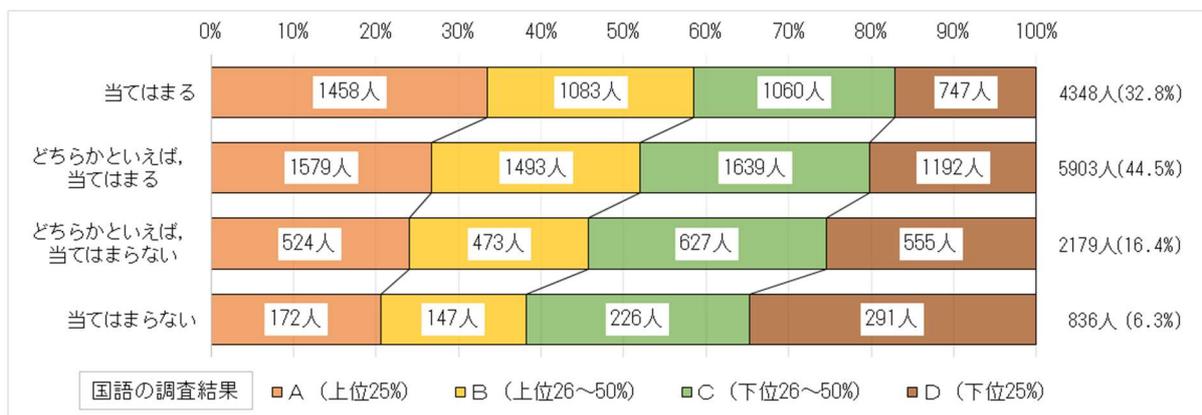
<児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から>

縦軸：質問『あなたは、勉強する理由について、どのように考えていますか』

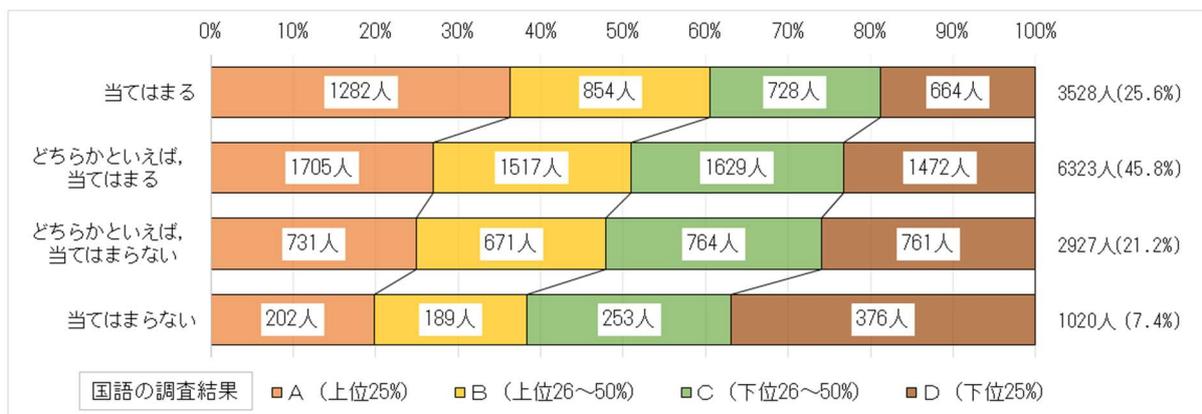
《勉強することが楽しい・好きだから》

横軸：『国語の調査結果』

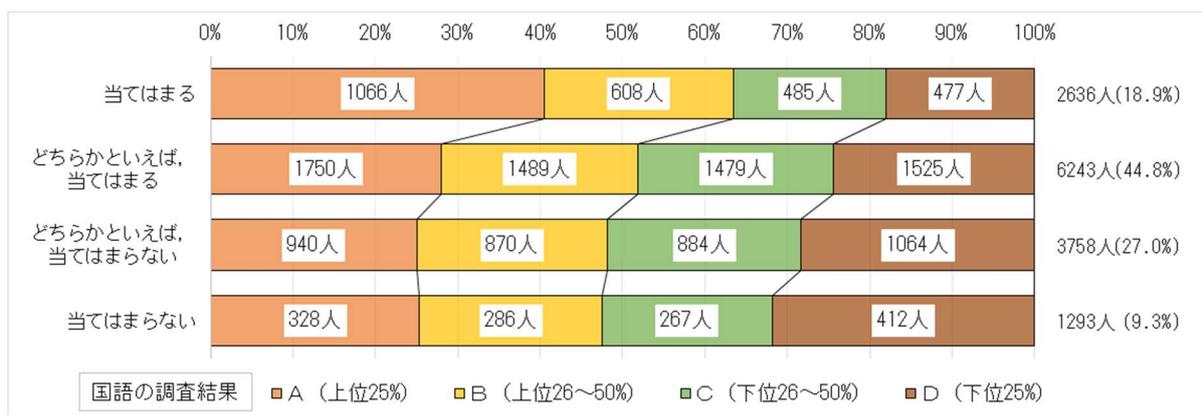
小学校4年生 国語



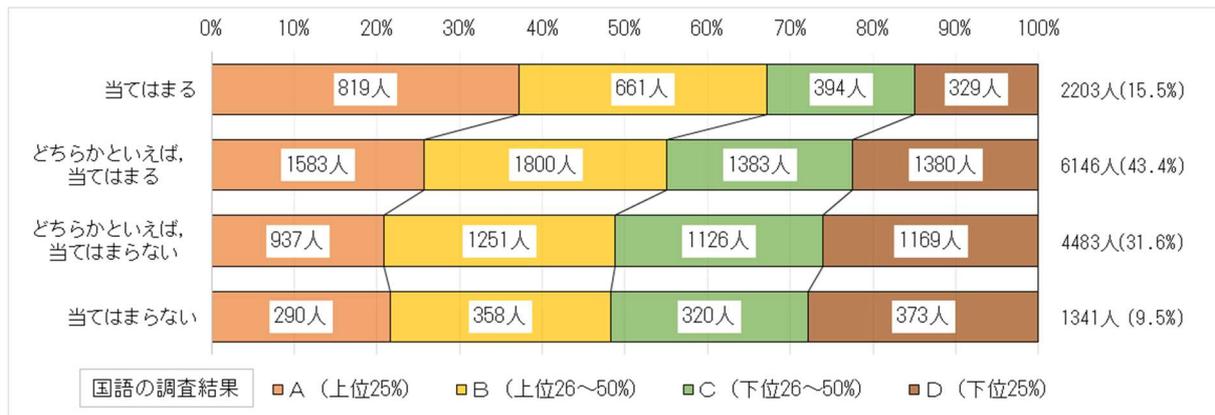
小学校5年生 国語



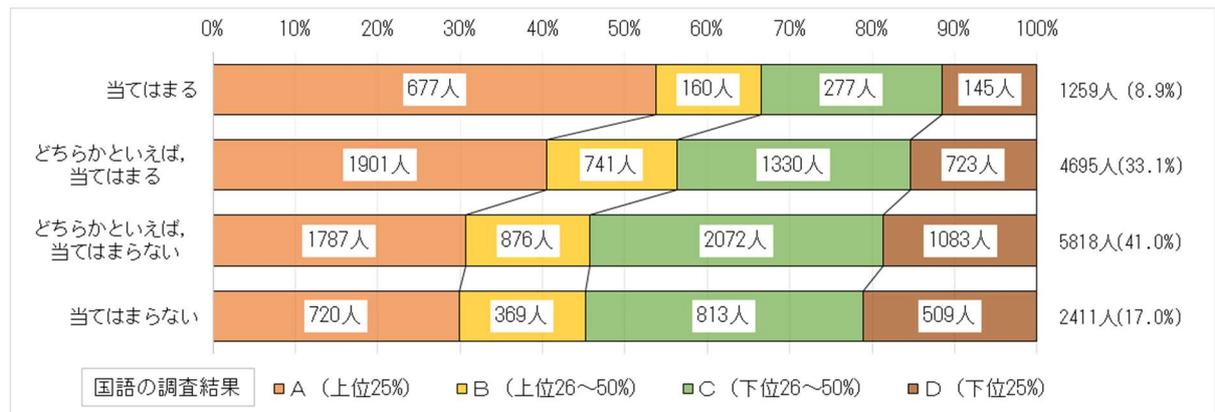
小学校6年生 国語



中学校 1 年生 国語

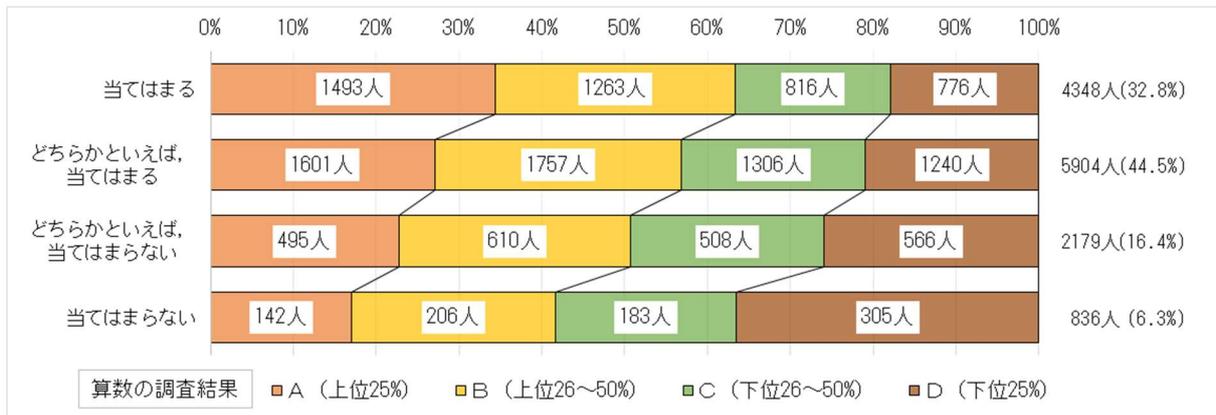


中学校 2 年生 国語

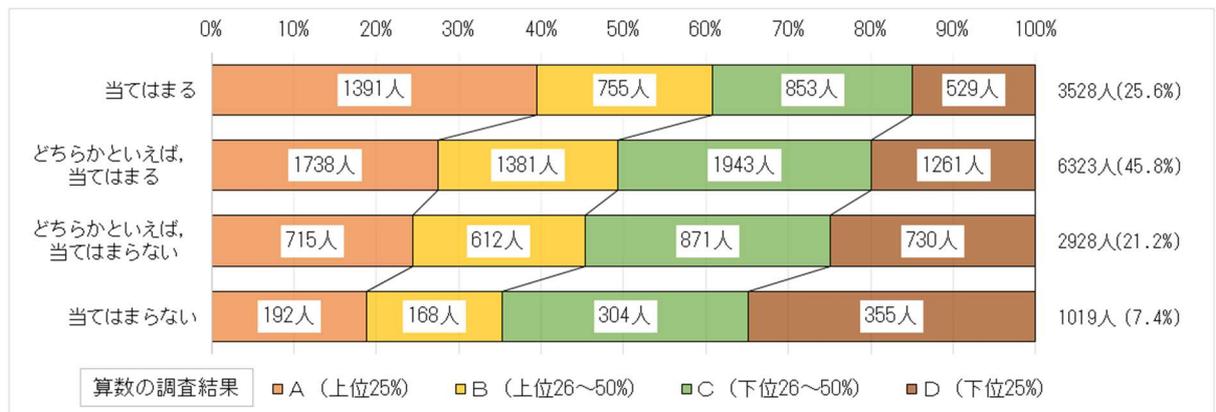


縦軸：質問『あなたは、勉強する理由について、どのように考えていますか』
 《勉強することが楽しい・好きだから》
 横軸：『算数・数学の調査結果』

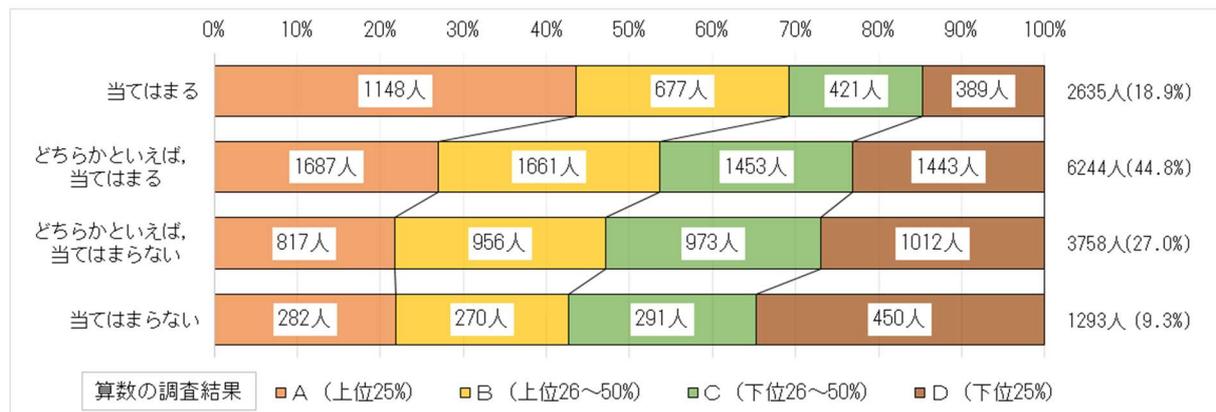
小学校4年生 算数



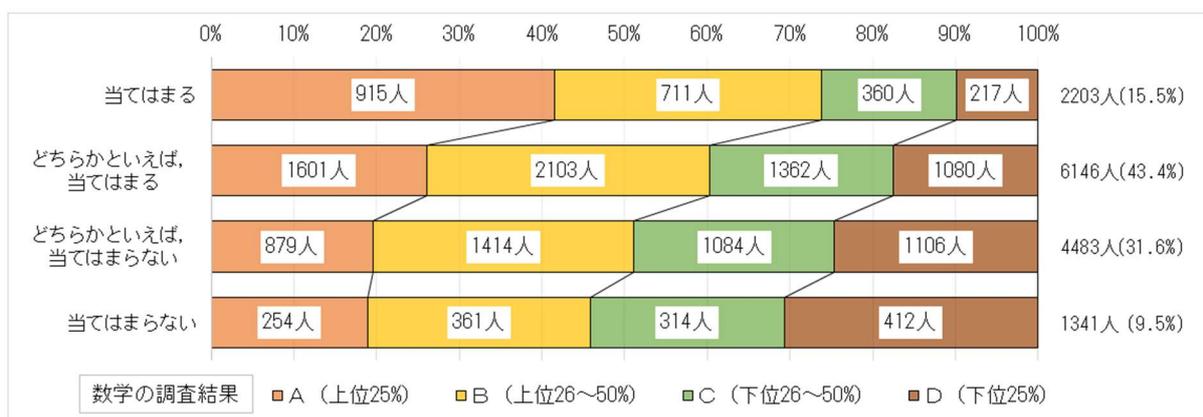
小学校5年生 算数



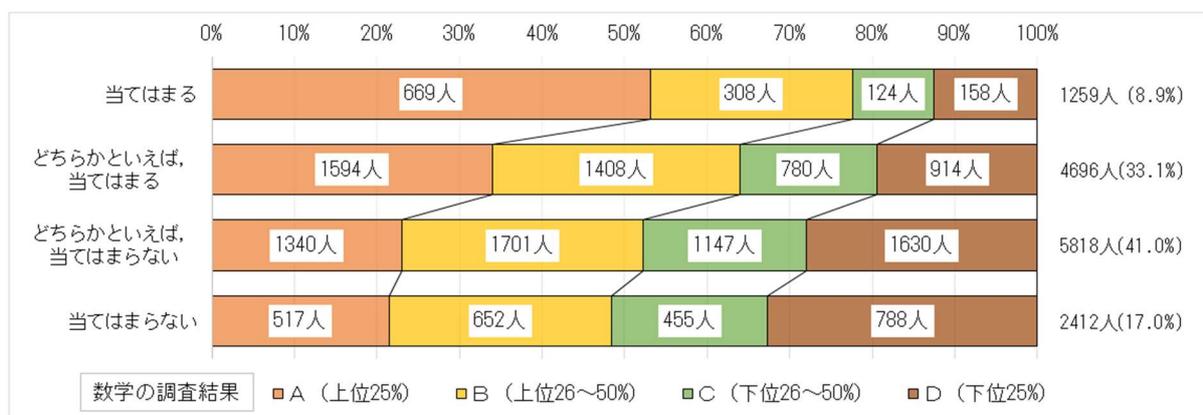
小学校6年生 算数



中学校 1 年生 数学



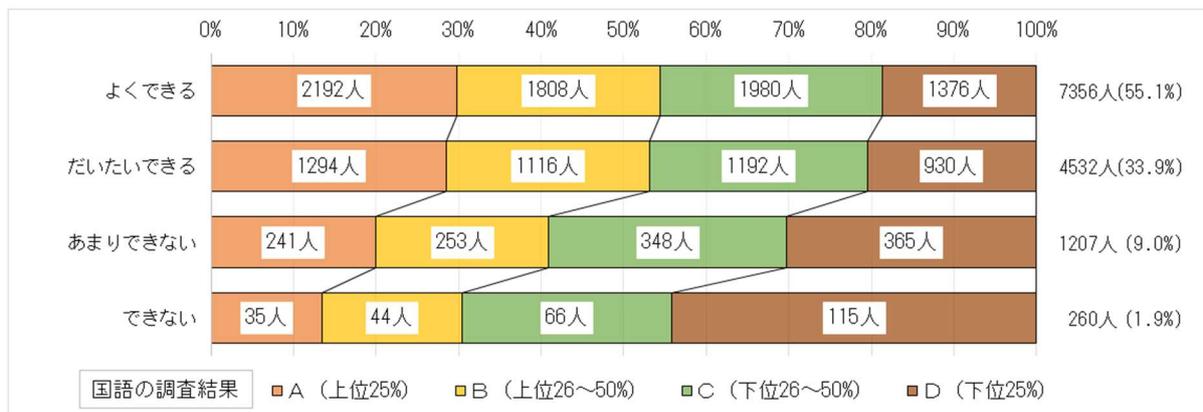
中学校 2 年生 数学



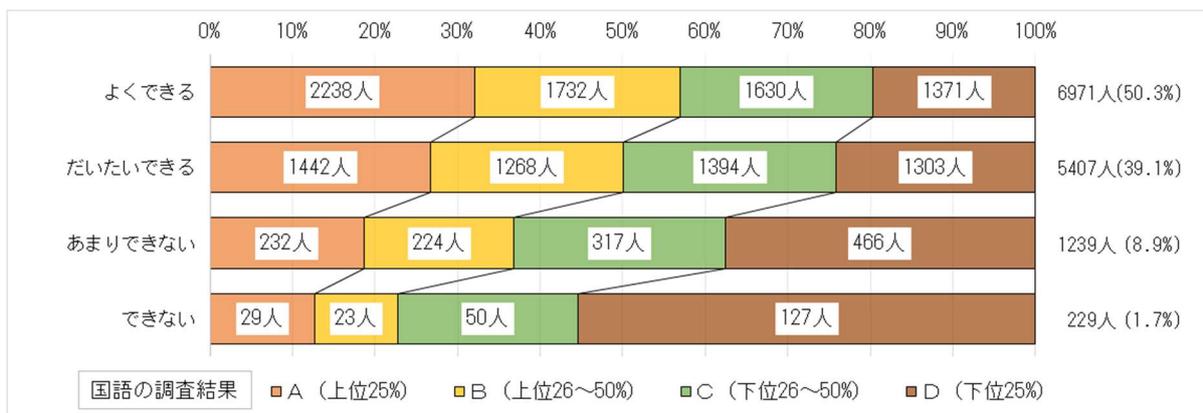
縦軸：質問『学習の準備を整え、授業に臨むことができますか』

横軸：『国語の調査結果』

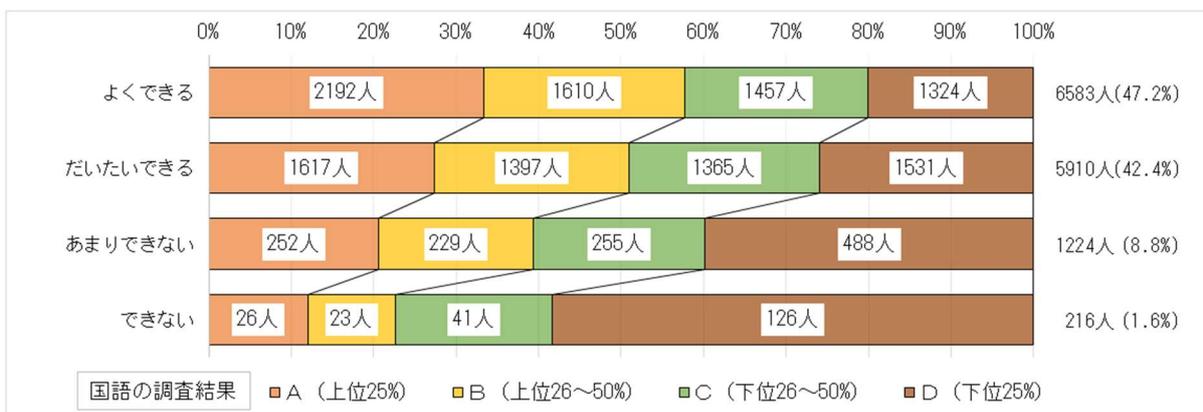
小学校4年生 国語



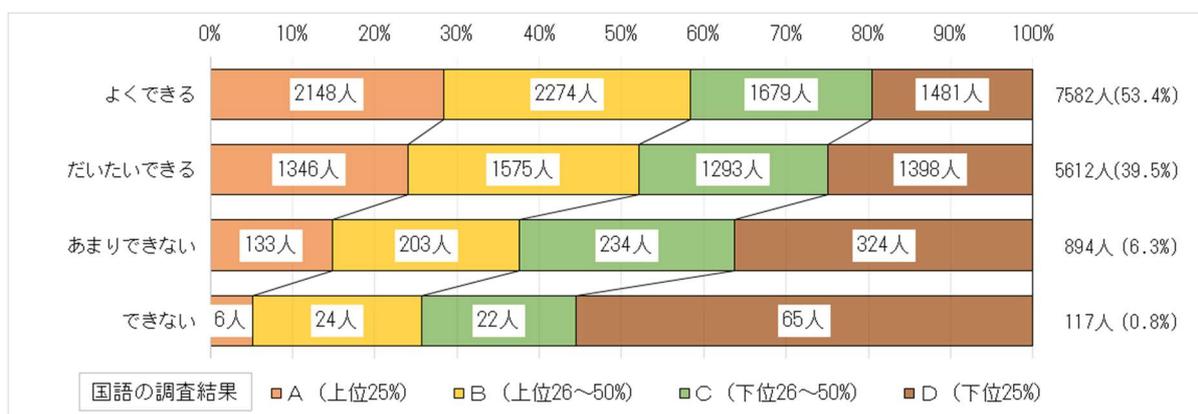
小学校5年生 国語



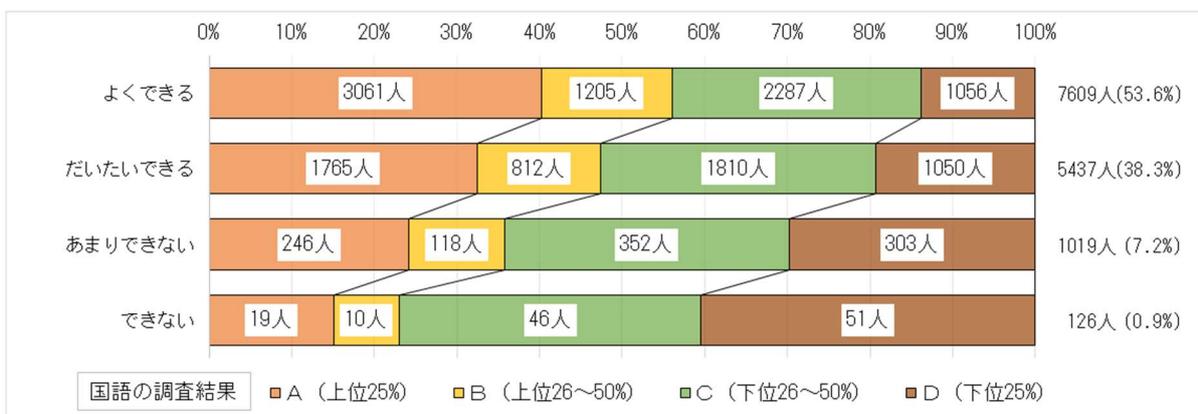
小学校6年生 国語



中学校 1 年生 国語



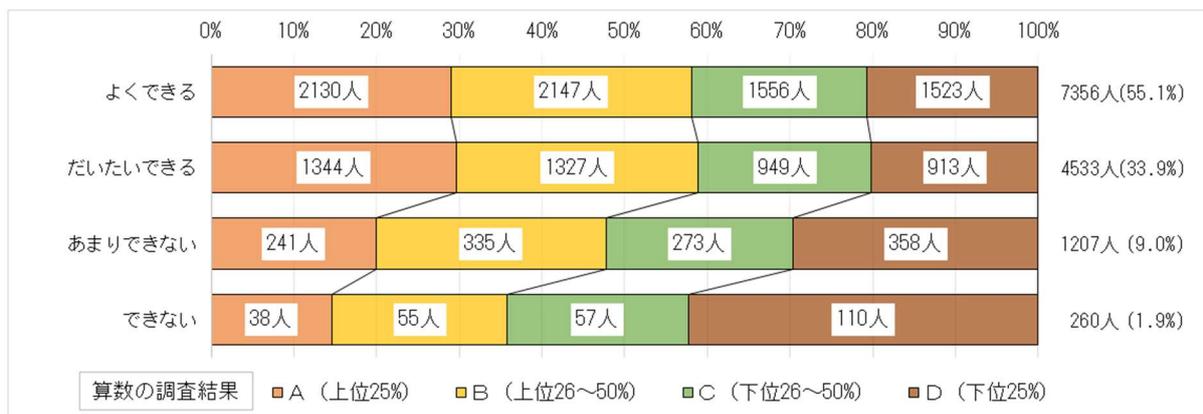
中学校 2 年生 国語



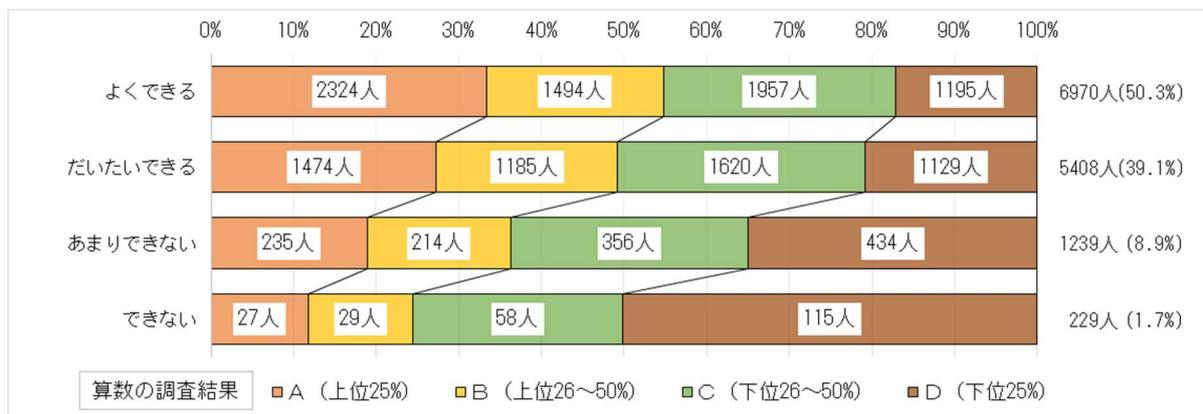
縦軸：質問『学習の準備を整え、授業に臨むことができますか』

横軸：『算数・数学の調査結果』

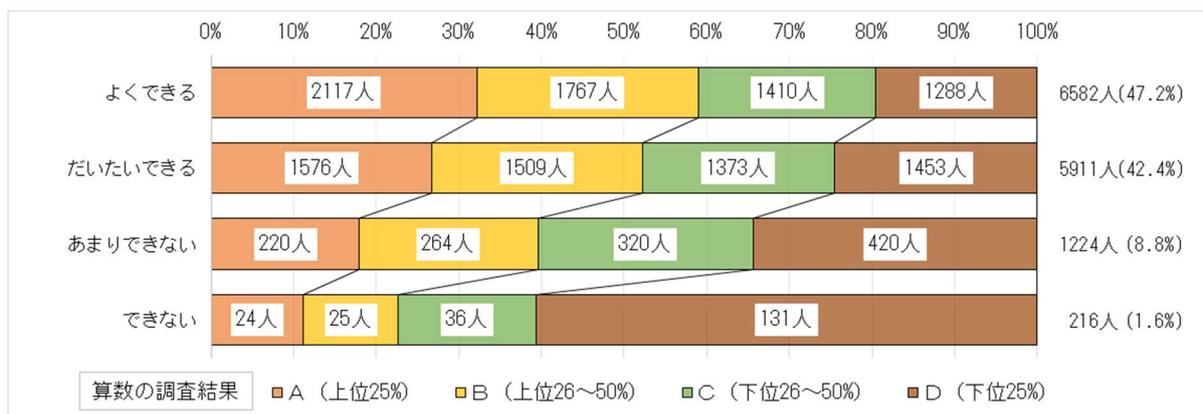
小学校4年生 算数



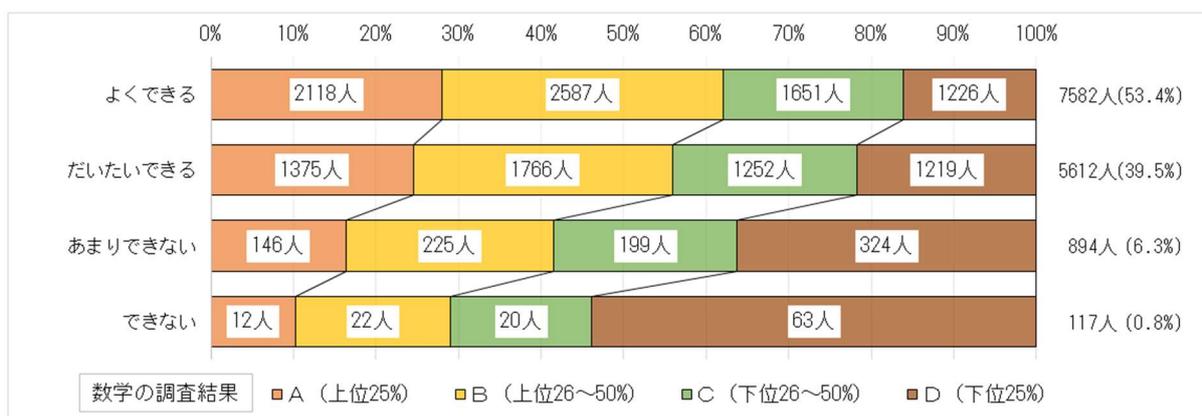
小学校5年生 算数



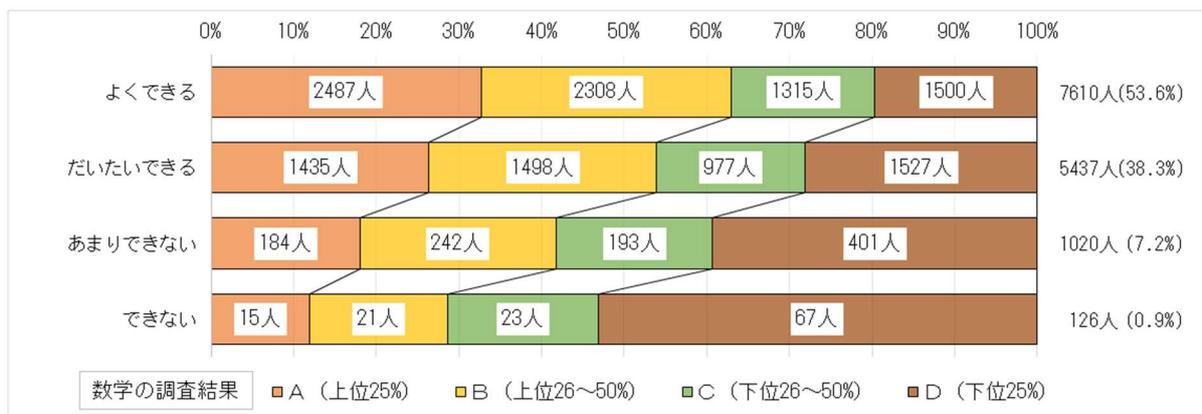
小学校6年生 算数



中学校 1 年生 数学



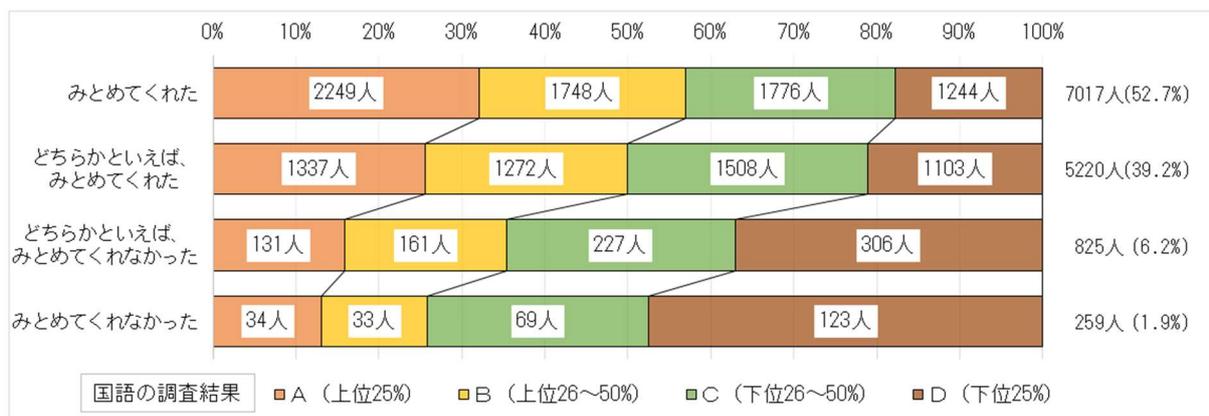
中学校 2 年生 数学



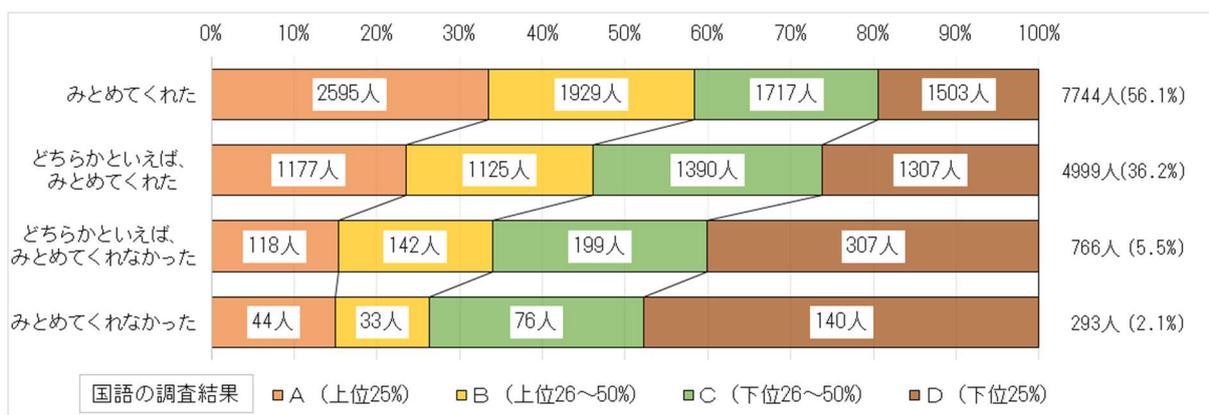
縦軸：質問『学校の先生たちは、自分のよいところを認めてくれましたか』

横軸：『国語の調査結果』

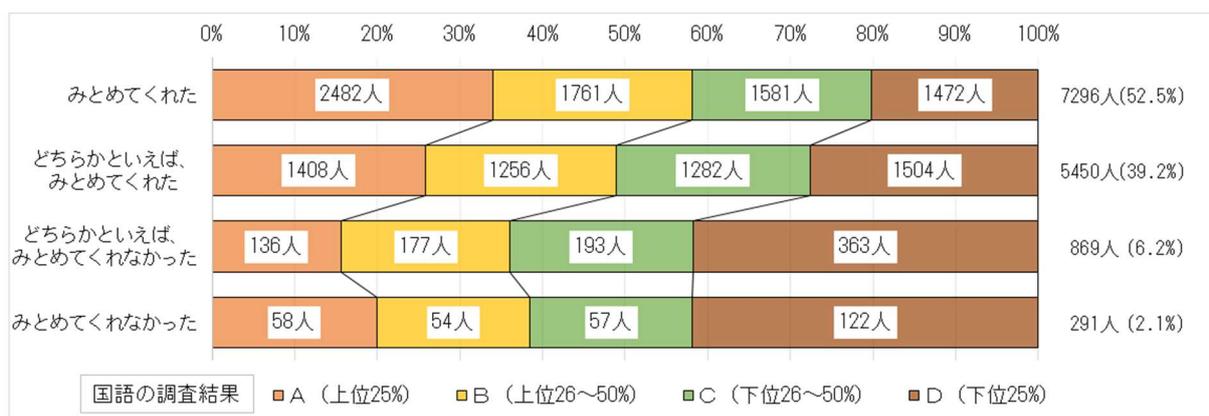
小学校4年生 国語



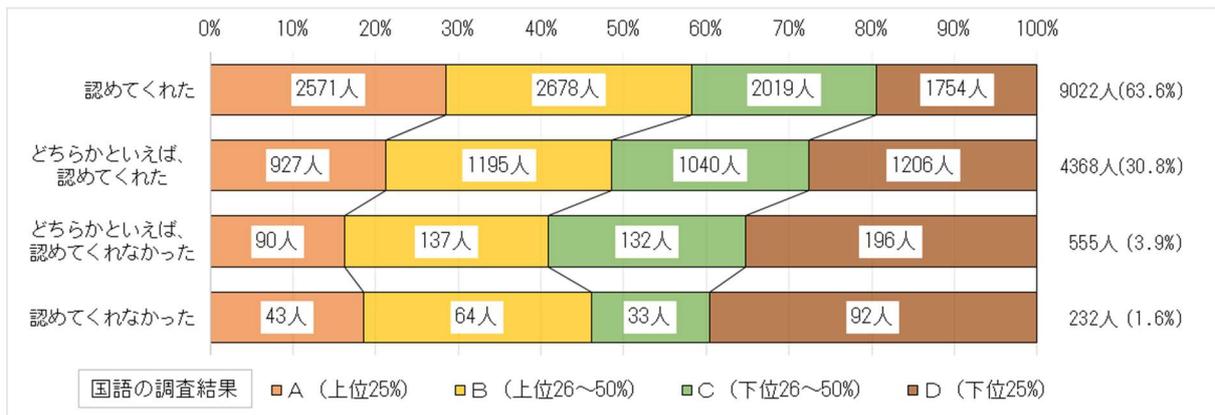
小学校5年生 国語



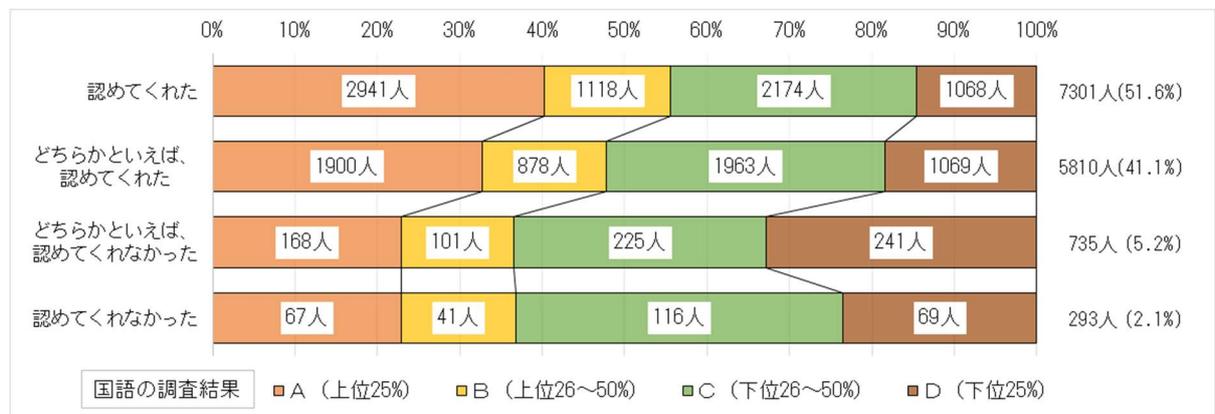
小学校6年生 国語



中学校 1 年生 国語



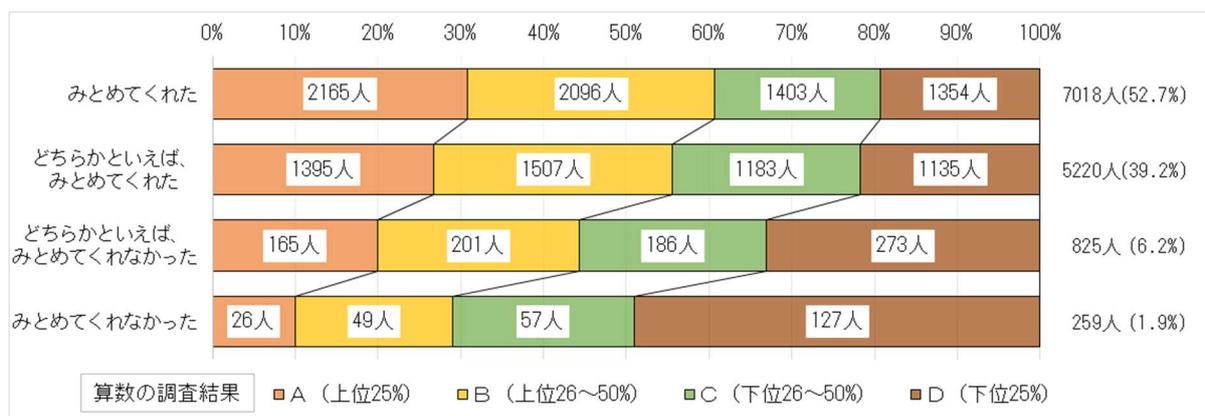
中学校 2 年生 国語



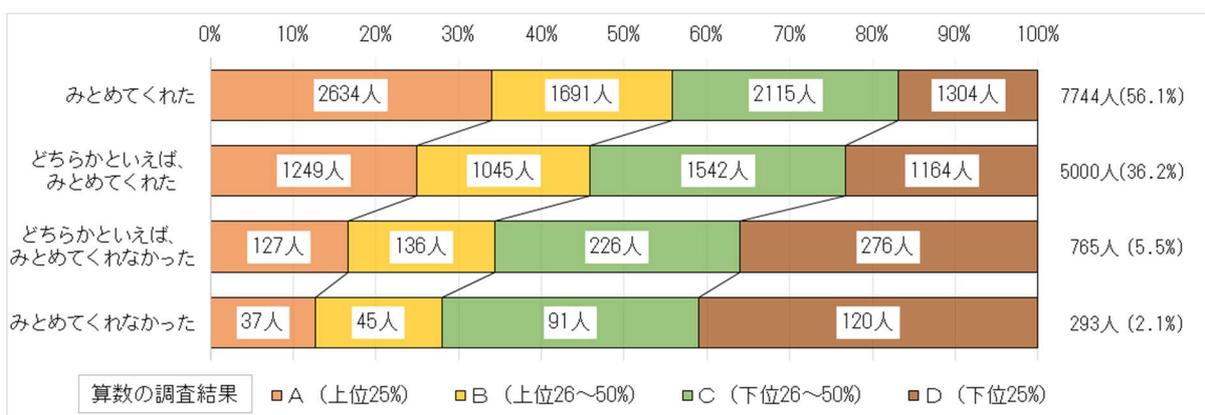
縦軸：質問『学校の先生たちは、自分のよいところを認めてくれましたか』

横軸：『算数・数学の調査結果』

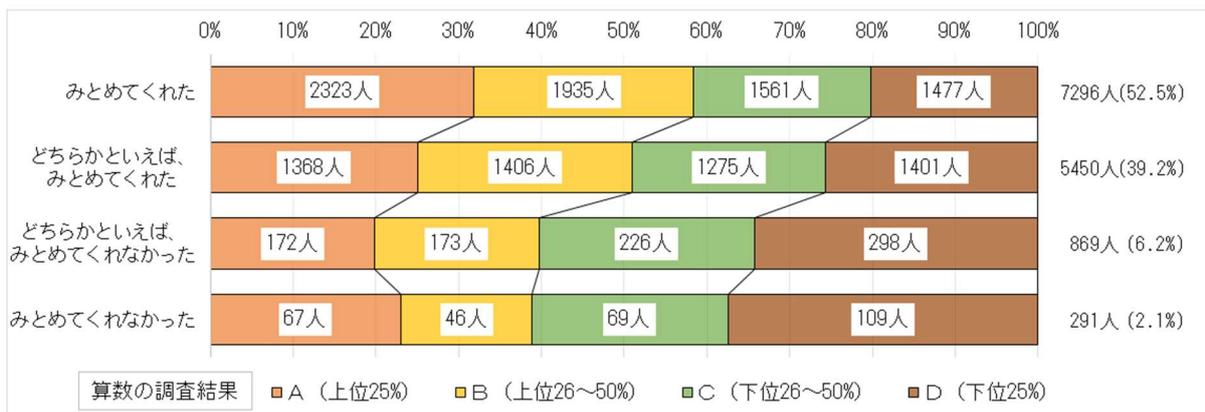
小学校4年生 算数



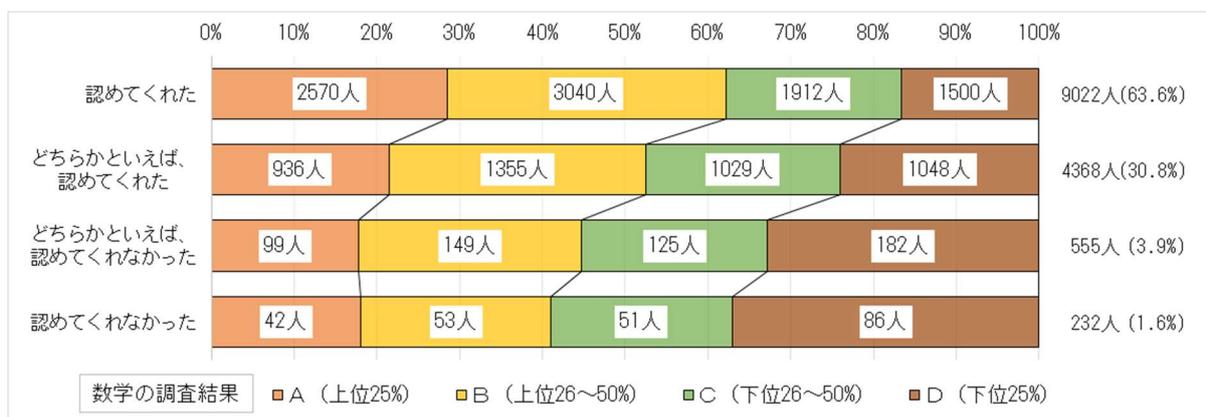
小学校5年生 算数



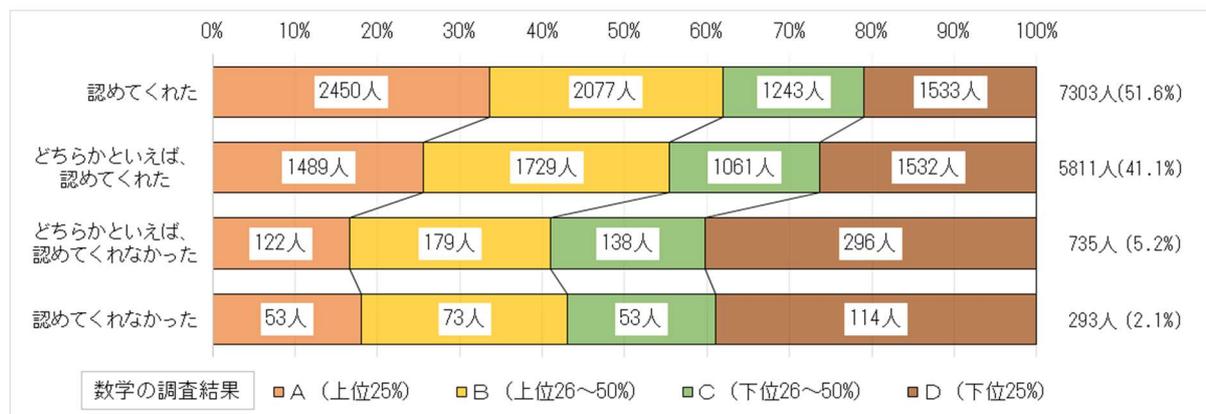
小学校6年生 算数



中学校 1 年生 数学



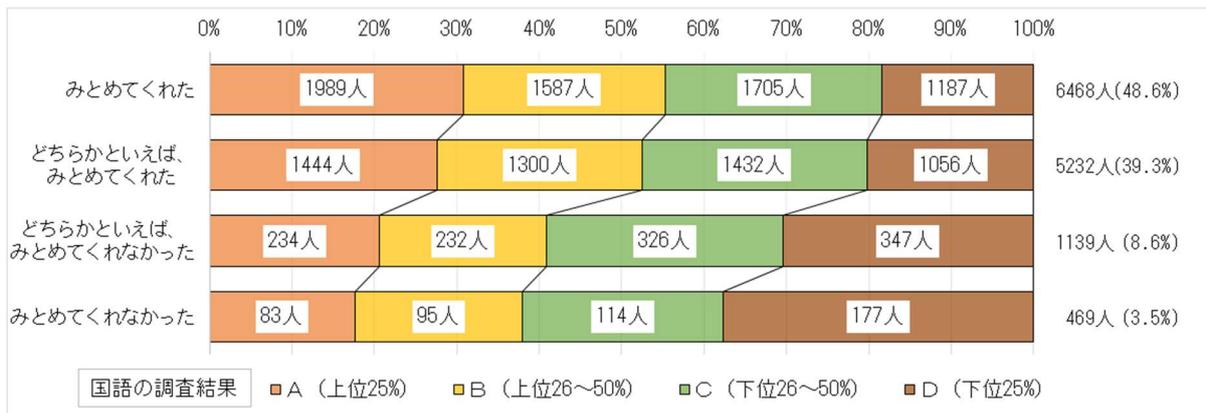
中学校 2 年生 数学



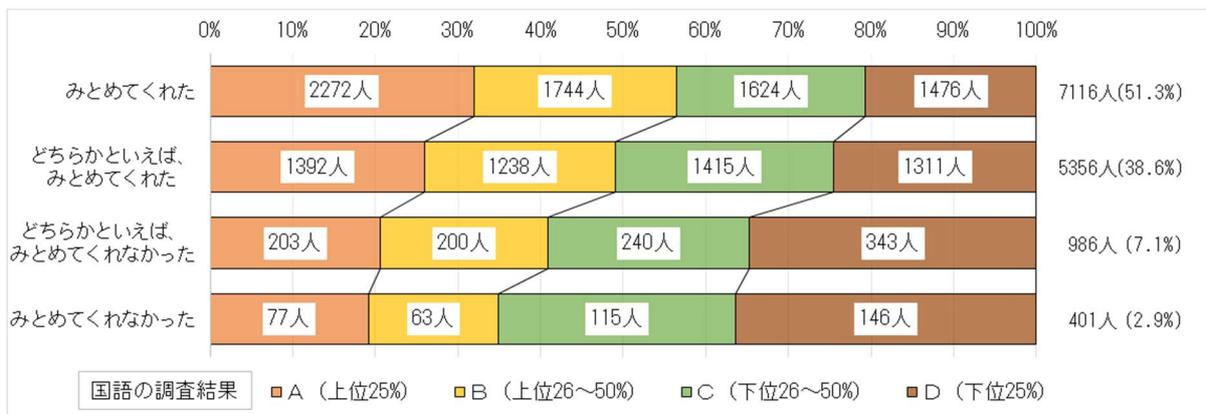
縦軸：質問『学校の友達は自分のよいところを認めてくれましたか』

横軸：『国語の調査結果』

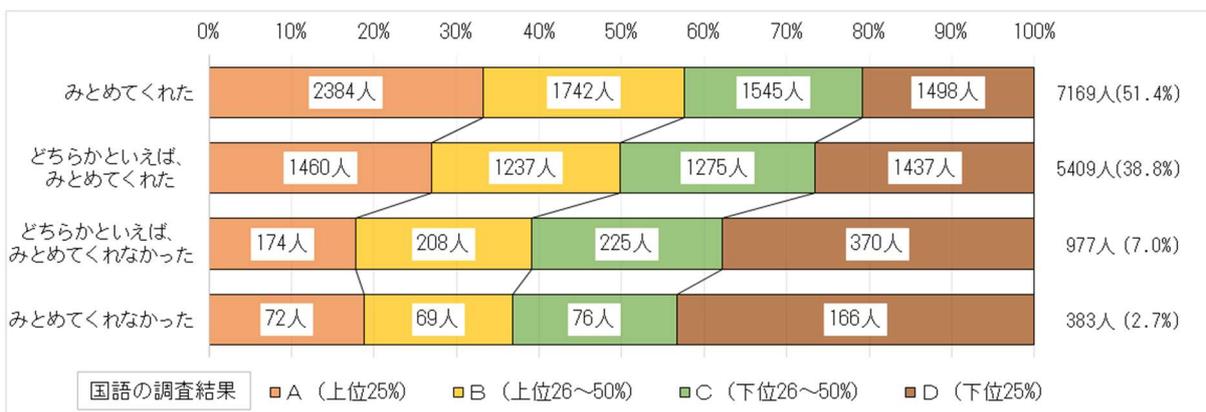
小学校4年生 国語



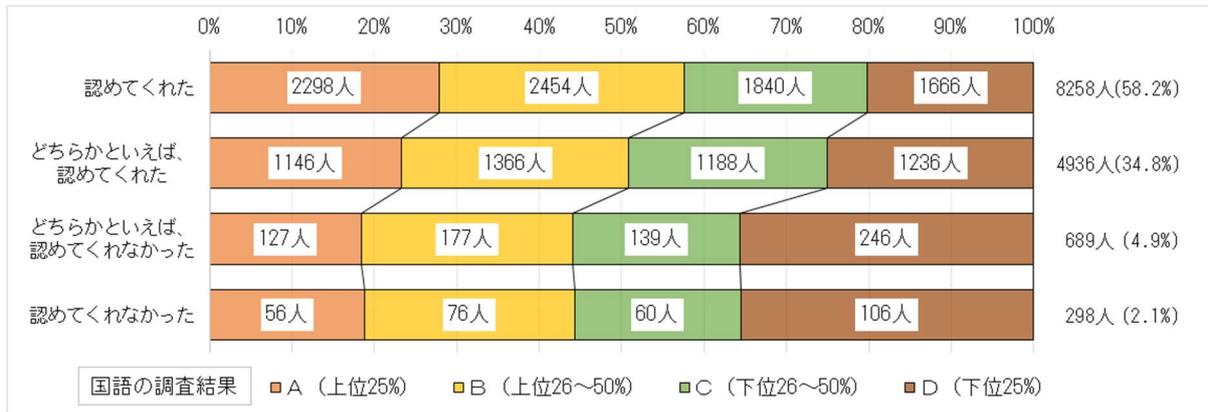
小学校5年生 国語



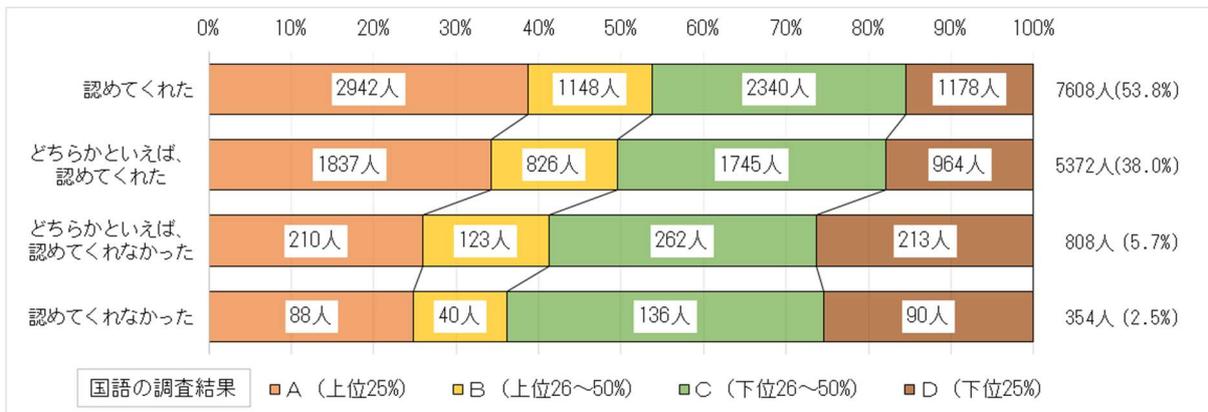
小学校6年生 国語



中学校 1 年生 国語



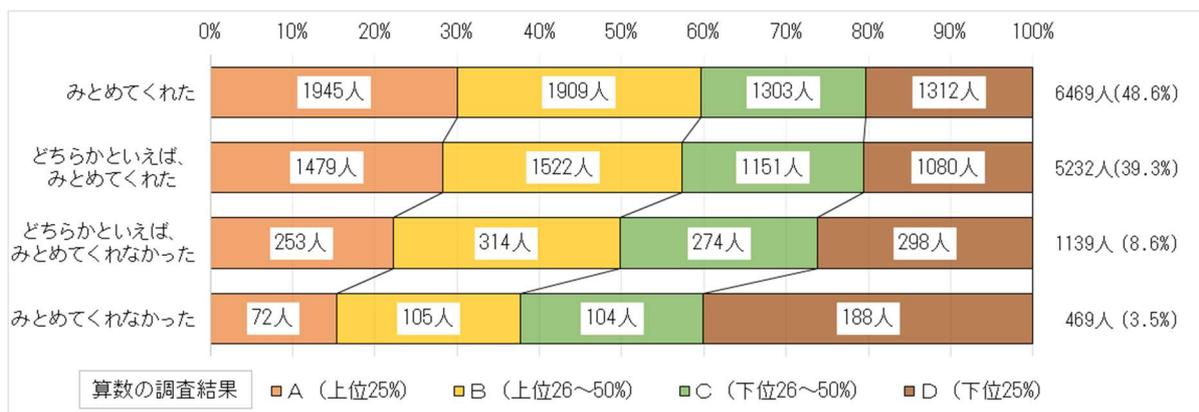
中学校 2 年生 国語



縦軸：質問『学校の友達は自分のよいところを認めてくれましたか』

横軸：『算数・数学の調査結果』

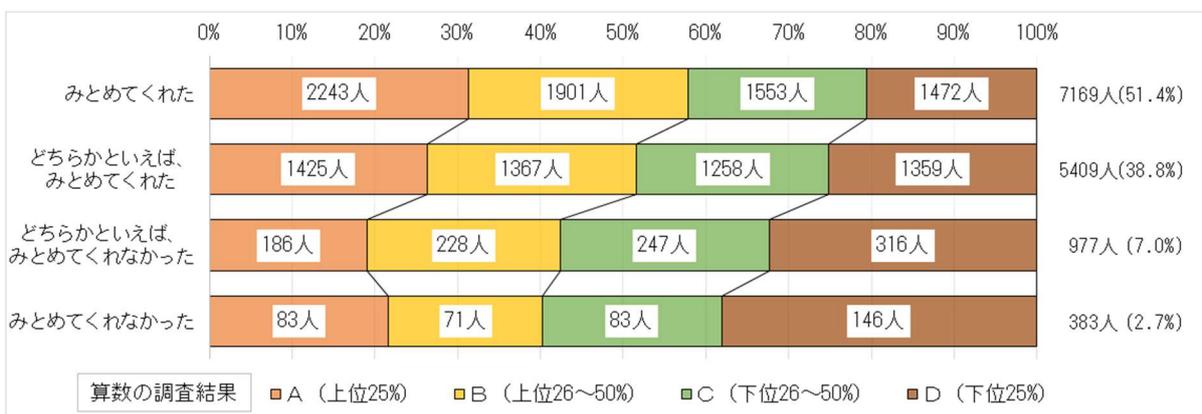
小学校4年生 算数



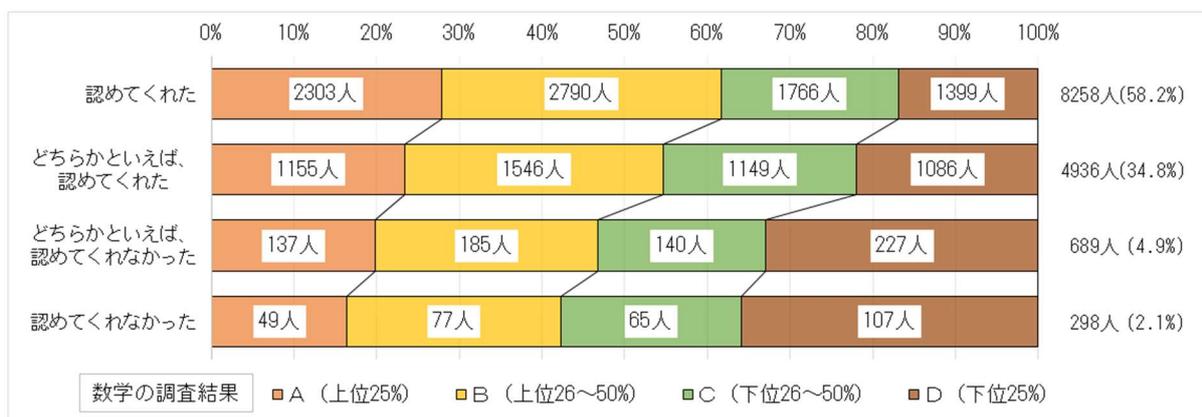
小学校5年生 算数



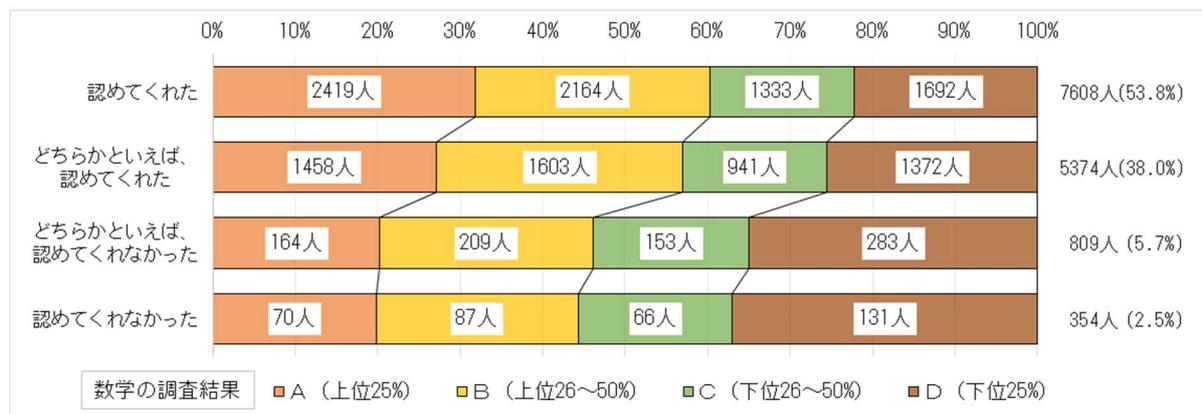
小学校6年生 算数

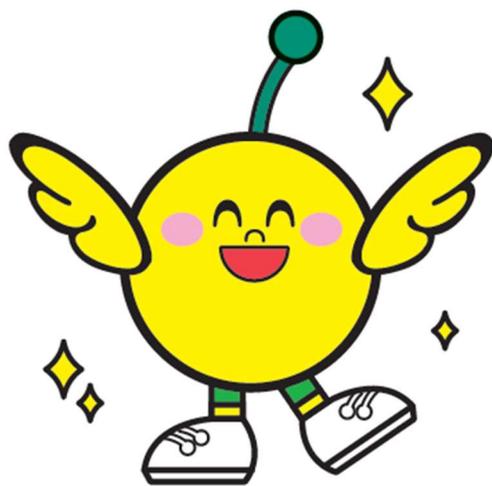


中学校 1 年生 数学



中学校 2 年生 数学





福島県復興シンボルキャラクター
キビタン

(3) 家庭での生活に関すること

- 授業の予習や復習に取り組む児童生徒の方が、学力が高い傾向が見られた。
- 教科や学年により差はあるが、読書の冊数が多いほど学力が高い傾向が見られた。
- テレビゲームの時間が長いほど、学力の高い児童生徒の割合が低くなる傾向が見られた。

- ◎ 家庭学習の内容や方法等について家庭と共通理解を図ることが大切である。
- ◎ 家族で一緒に読書に親しむ機会を増やすことや、読書環境の整備の充実を図ることなど、読書量を増やす取組をすることで、学力の向上に寄与することが期待できる。
- ◎ 同じ学年集団で経年比較すると、ゲームをする時間が長くなっている傾向がある。「学習を始める時刻」や「就寝時刻」、「家庭での役割（手伝い）」等の約束ごとを、保護者と児童生徒が話し合いながら決められるように働きかけていくことが大切である。

【ふくしまの「家庭学習スタンダード」より】

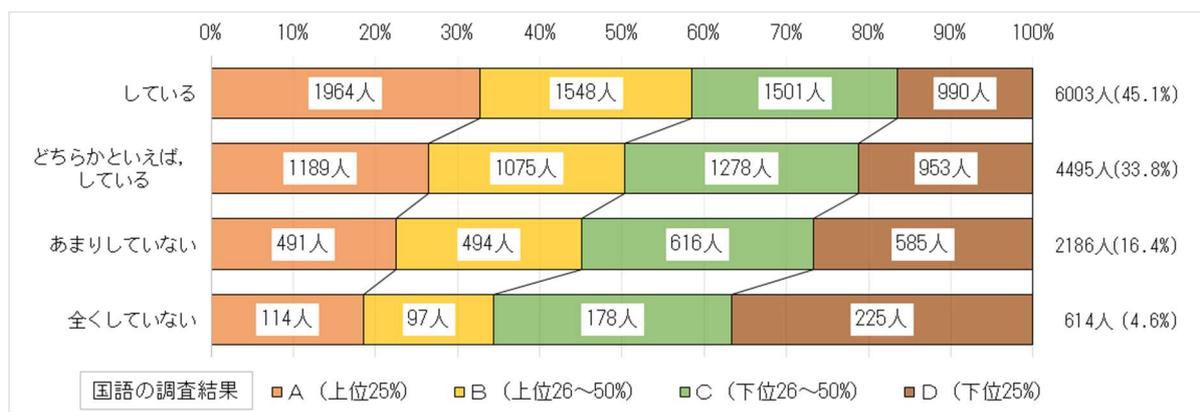
- ・ 学習内容に応じて、宿題（復習、予習）を効果的に活用した授業に努めたり、授業で学習したことを活用できる場面や方法を紹介したりするなどの取組で、授業と家庭学習をつなげましょう。
- ・ 「心の支え」、「環境づくり」、「習慣づくり」の3つの視点で家庭・地域と協力・連携体制を築いていきましょう。また、子どもや保護者の家庭学習に関する悩みや要望を把握し、相談する機会を設けていきましょう。

<児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から>

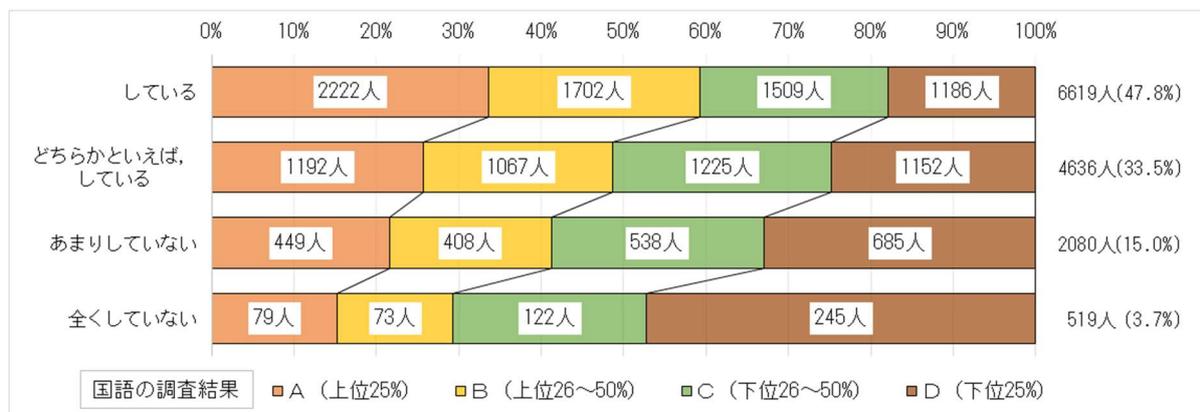
縦軸：質問『学校の授業の予習や復習をしていますか』

横軸：『国語の調査結果』

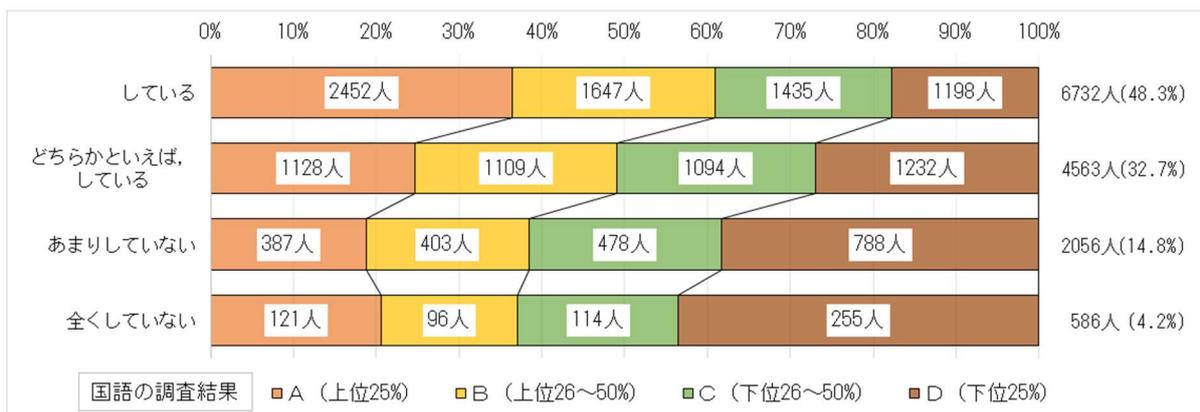
小学校4年生 国語



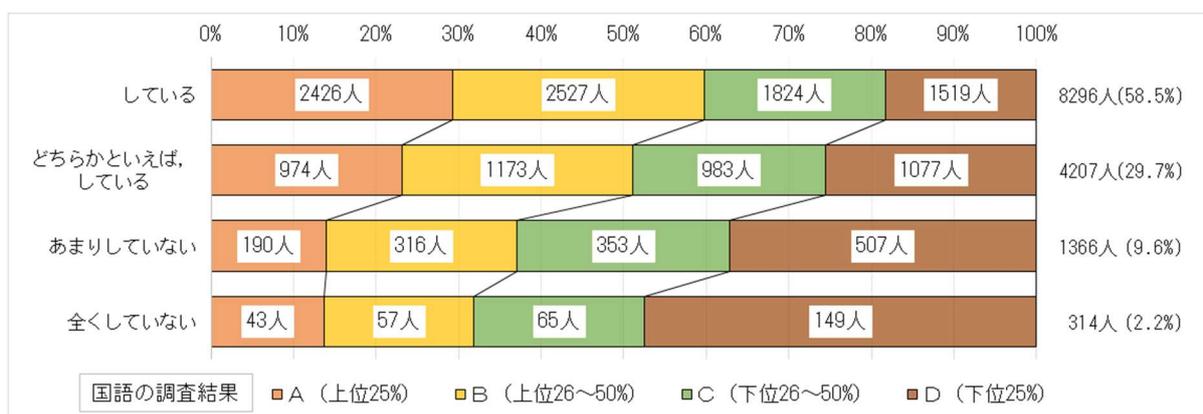
小学校5年生 国語



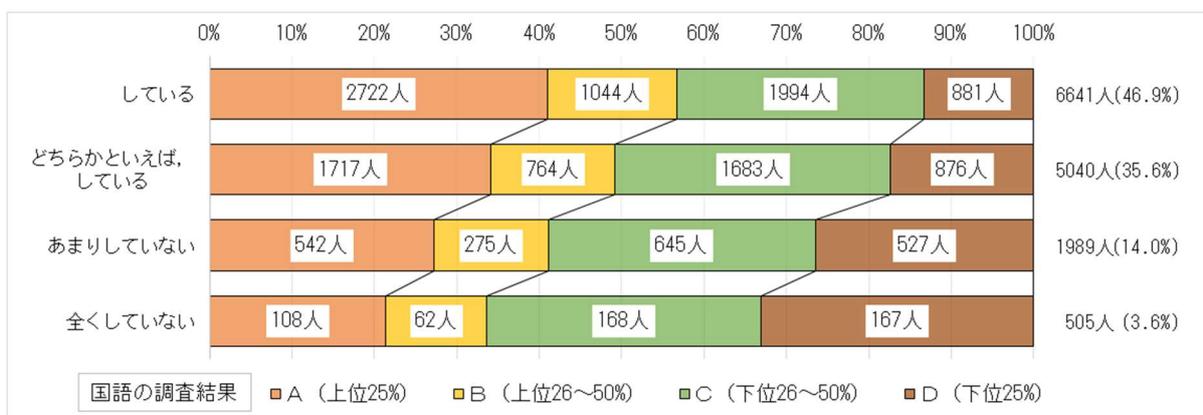
小学校6年生 国語



中学校1年生 国語



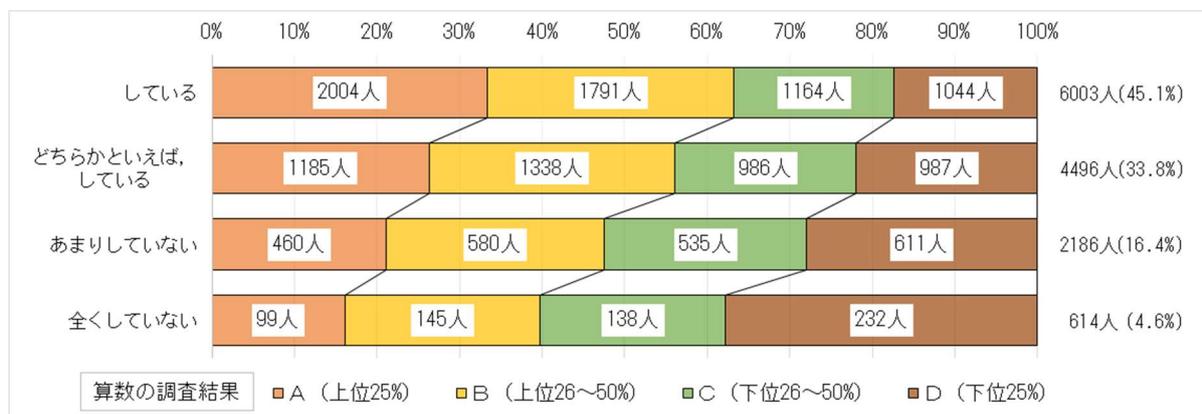
中学校2年生 国語



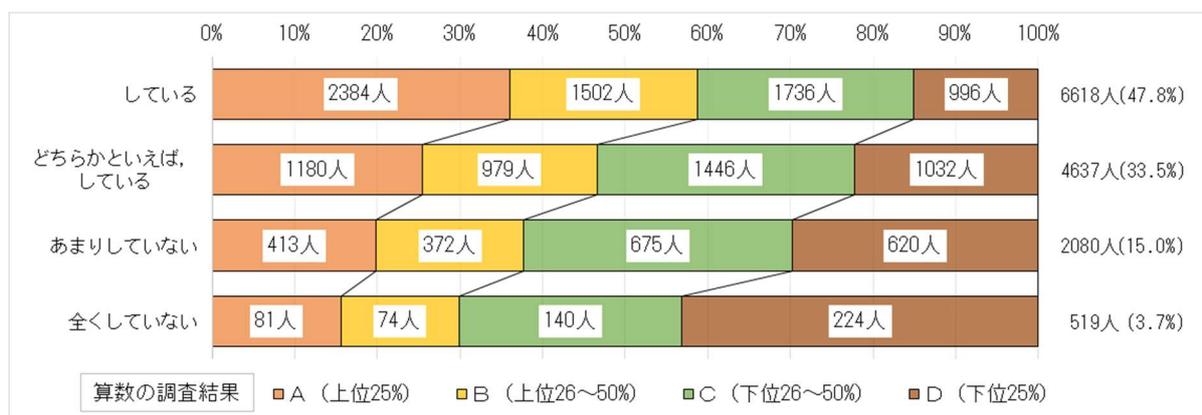
縦軸：質問『学校の授業の予習や復習をしていますか』

横軸：『算数・数学の調査結果』

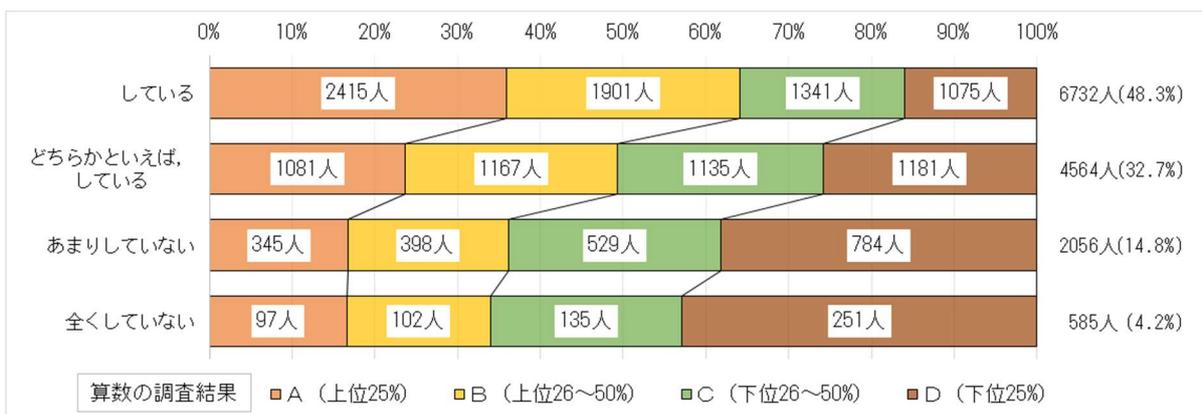
小学校4年生 算数



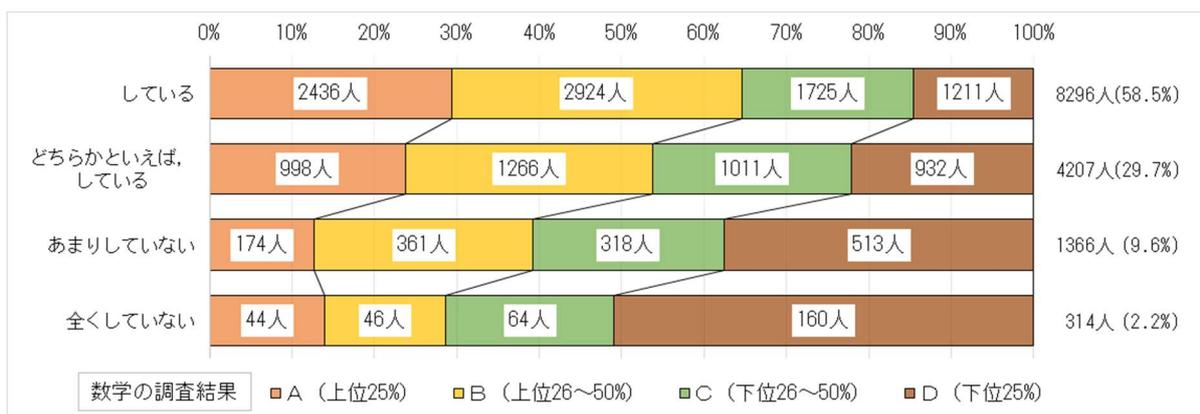
小学校5年生 算数



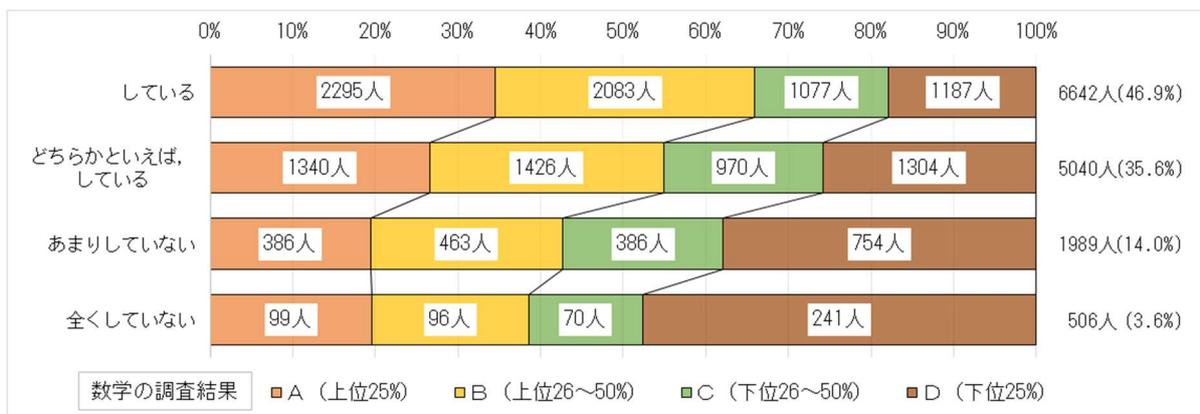
小学校6年生 算数



中学校 1 年生 数学



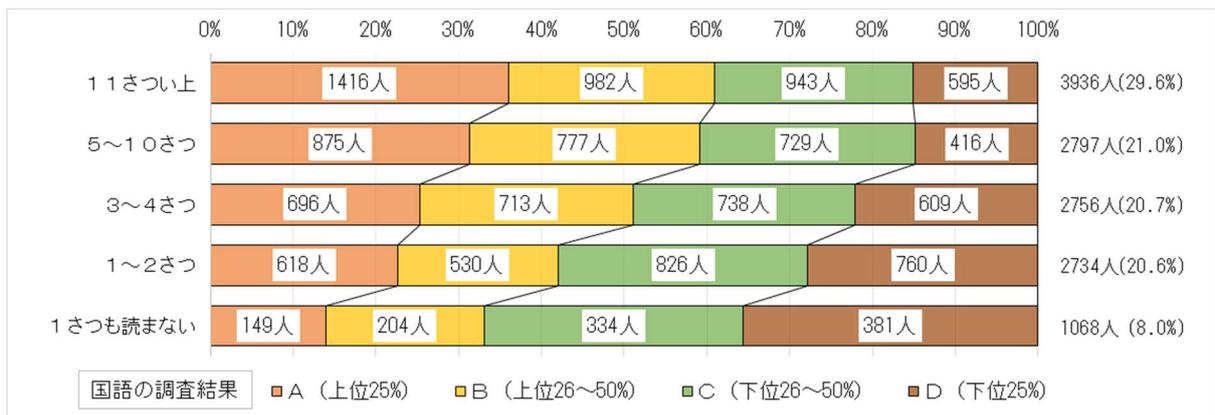
中学校 2 年生 数学



縦軸：質問『1か月に、何冊くらいの本を読みますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除きます）』

横軸：『国語の調査結果』

小学校4年生 国語



小学校5年生 国語



小学校6年生 国語



中学校 1 年生 国語



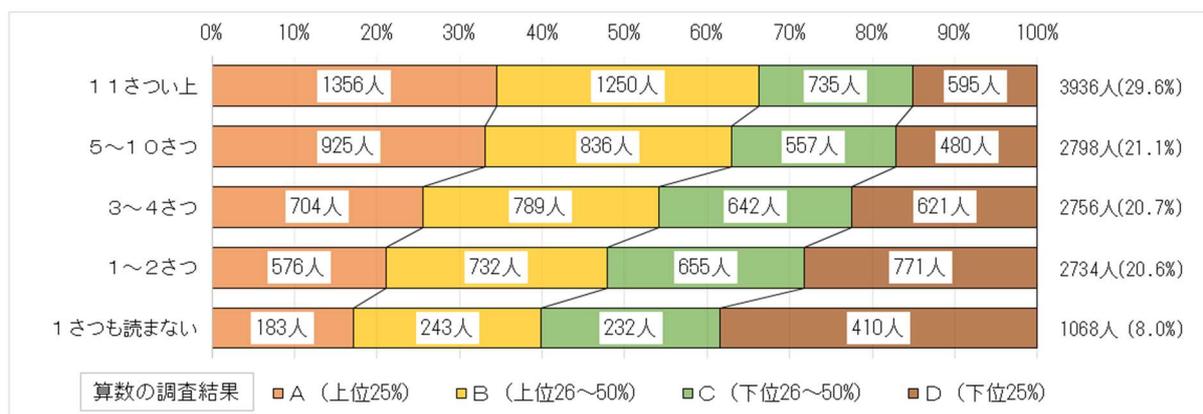
中学校 2 年生 国語



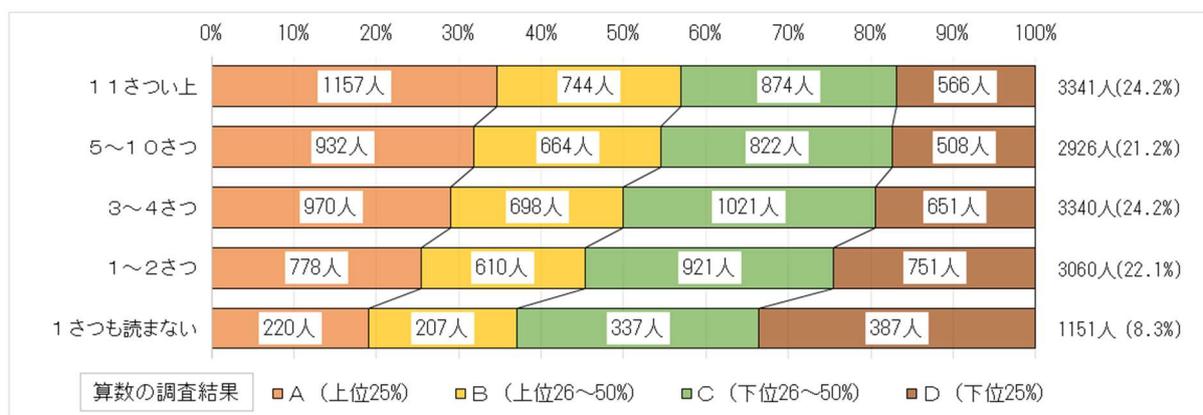
縦軸：質問『1か月に、何冊くらいの本を読みますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除きます）』

横軸：『算数・数学の調査結果』

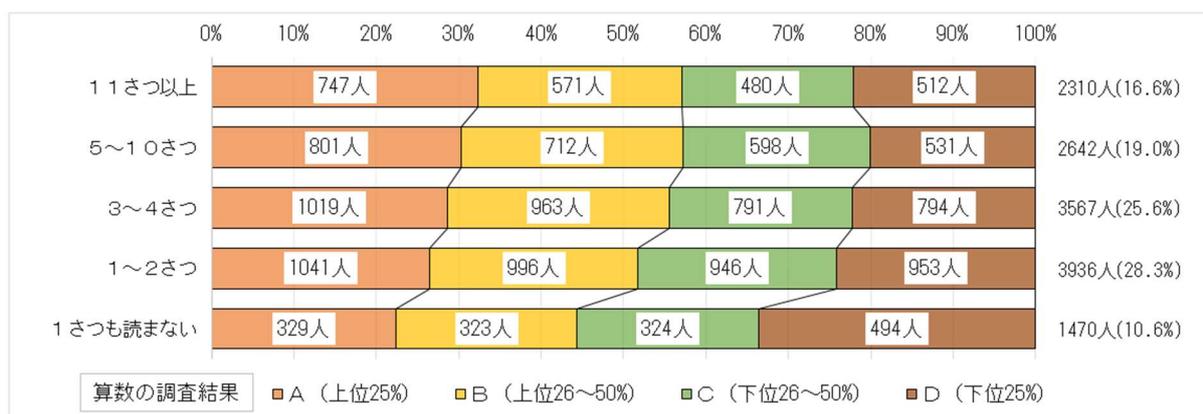
小学校4年生 算数



小学校5年生 算数



小学校6年生 算数



中学校 1 年生 数学



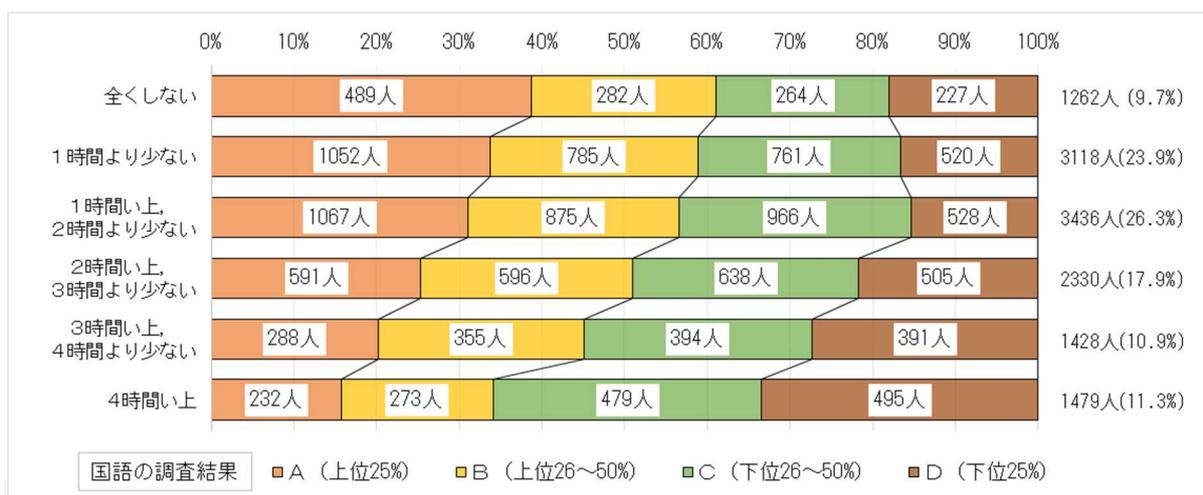
中学校 2 年生 数学



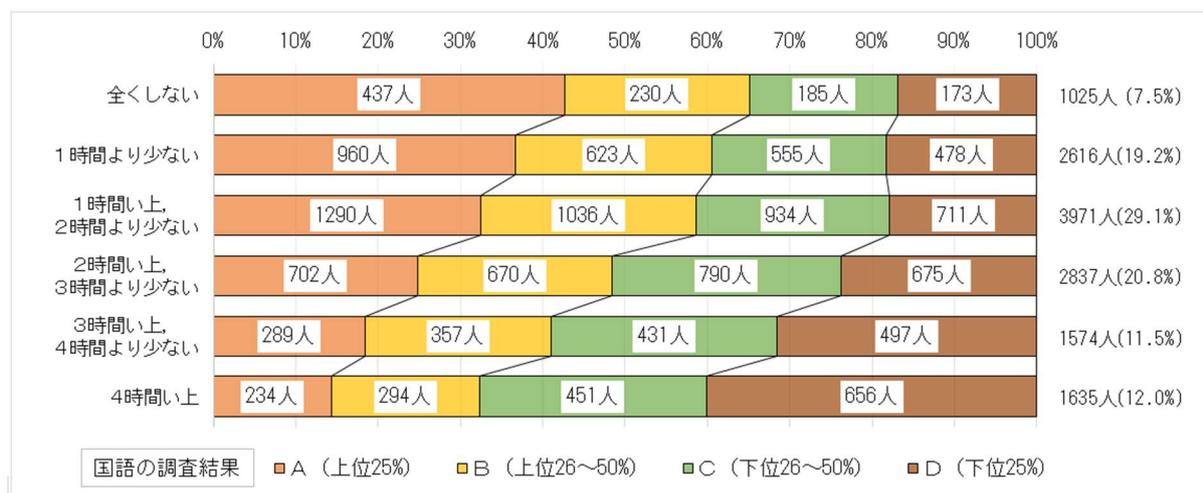
縦軸：質問『普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも入ります）をしますか』

横軸：『国語の調査結果』

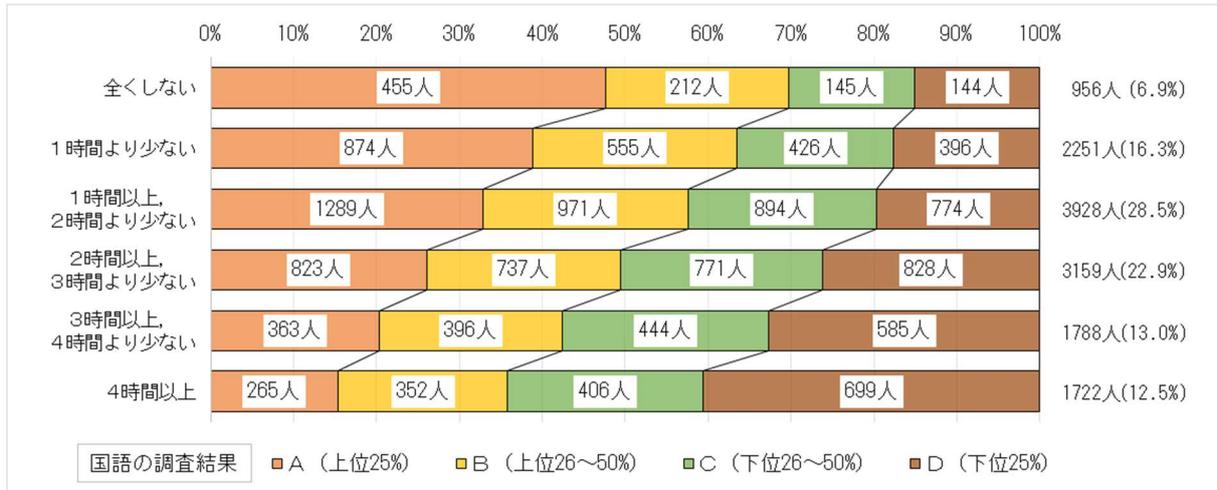
小学校4年生 国語



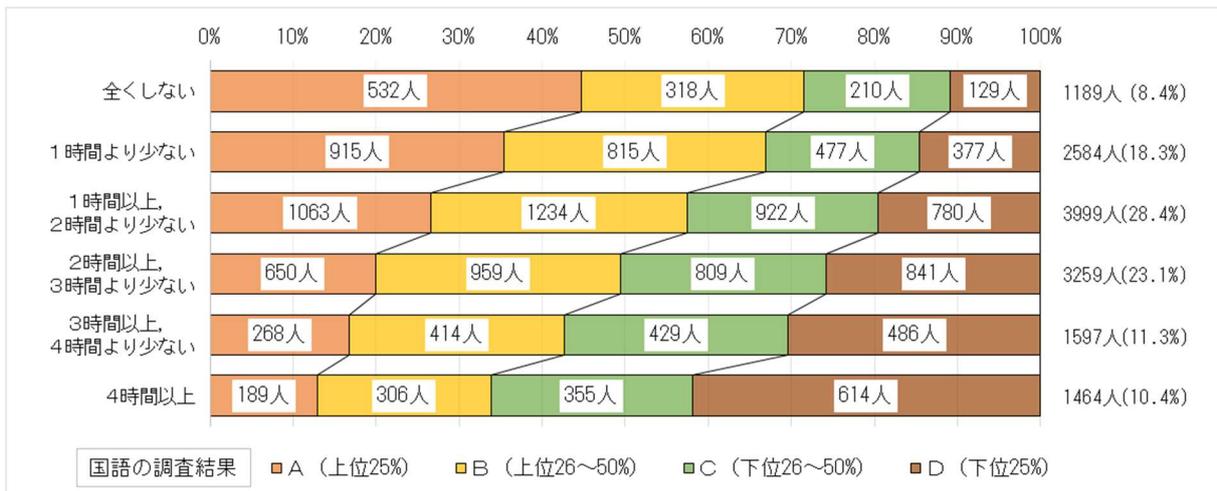
小学校5年生 国語



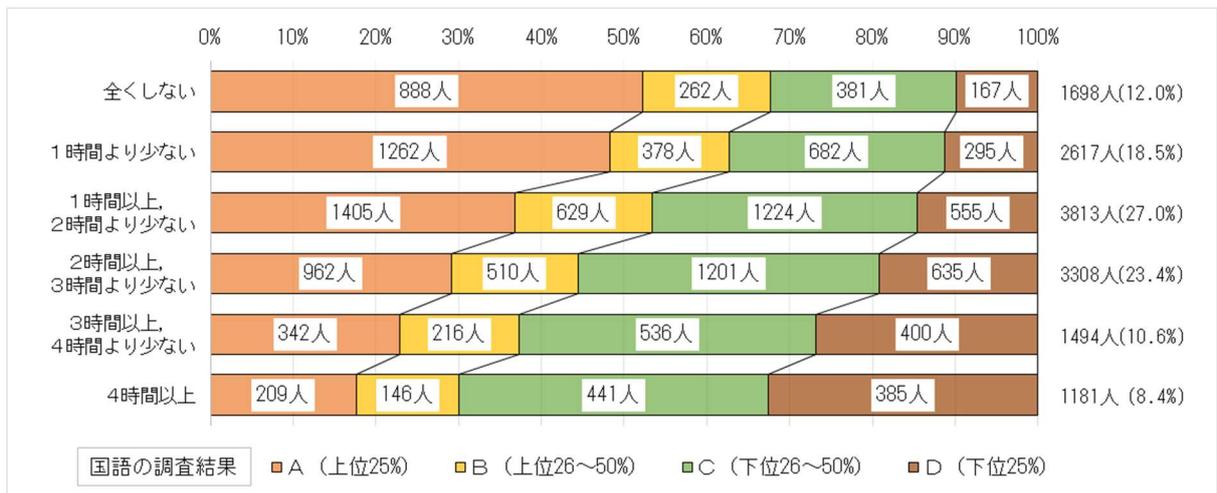
小学校6年生 国語



中学校1年生 国語



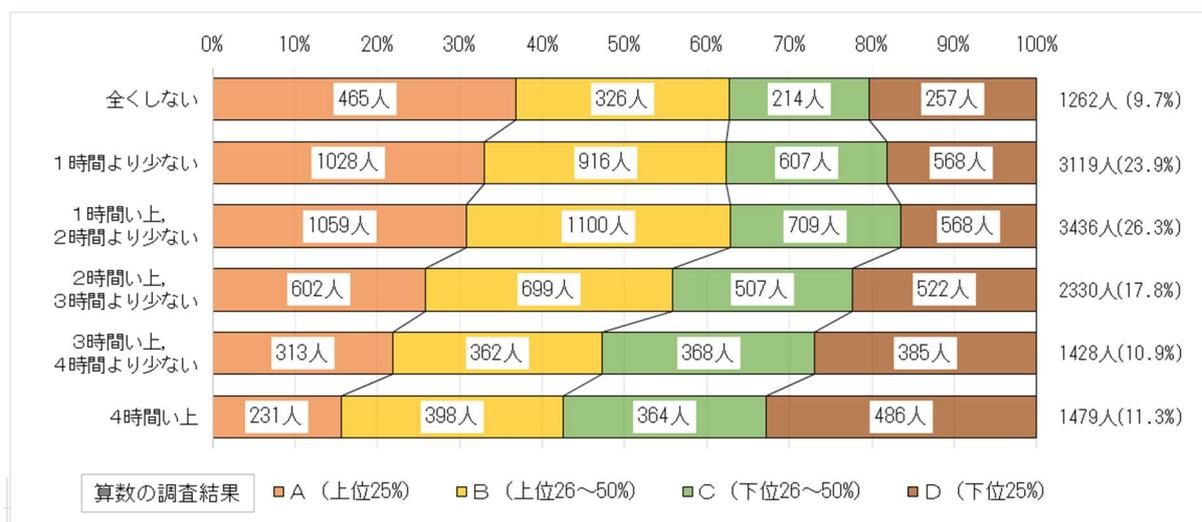
中学校2年生 国語



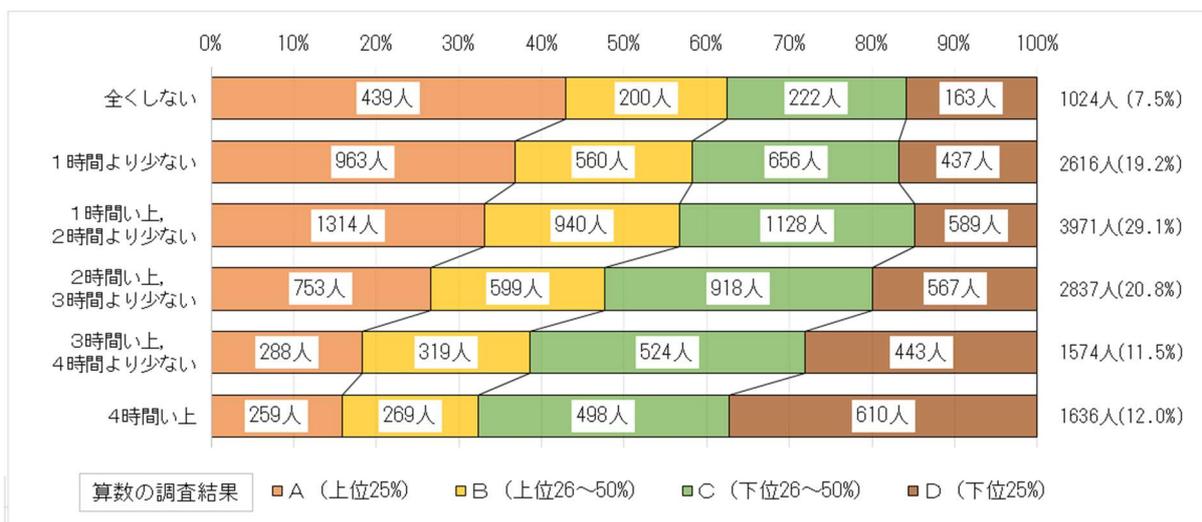
縦軸：質問『普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも入ります）をしますか』

横軸：『算数・数学の調査結果』

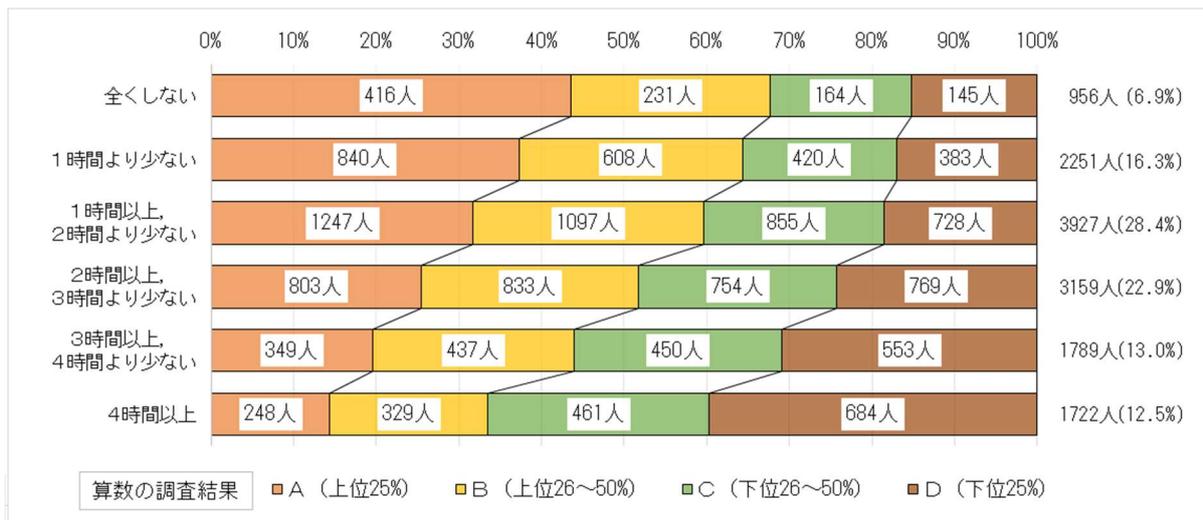
小学校4年生 算数



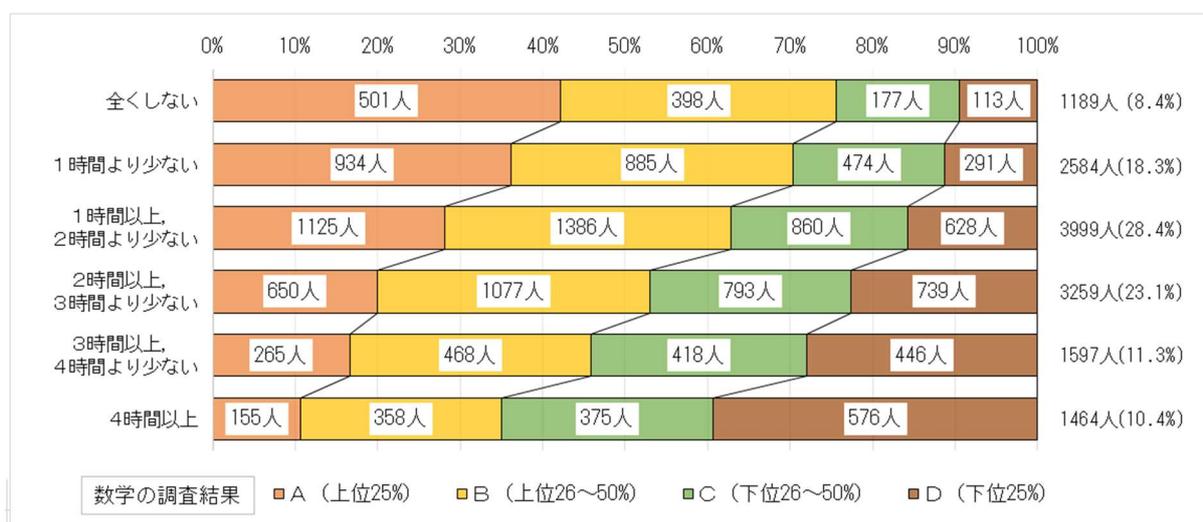
小学校5年生 算数



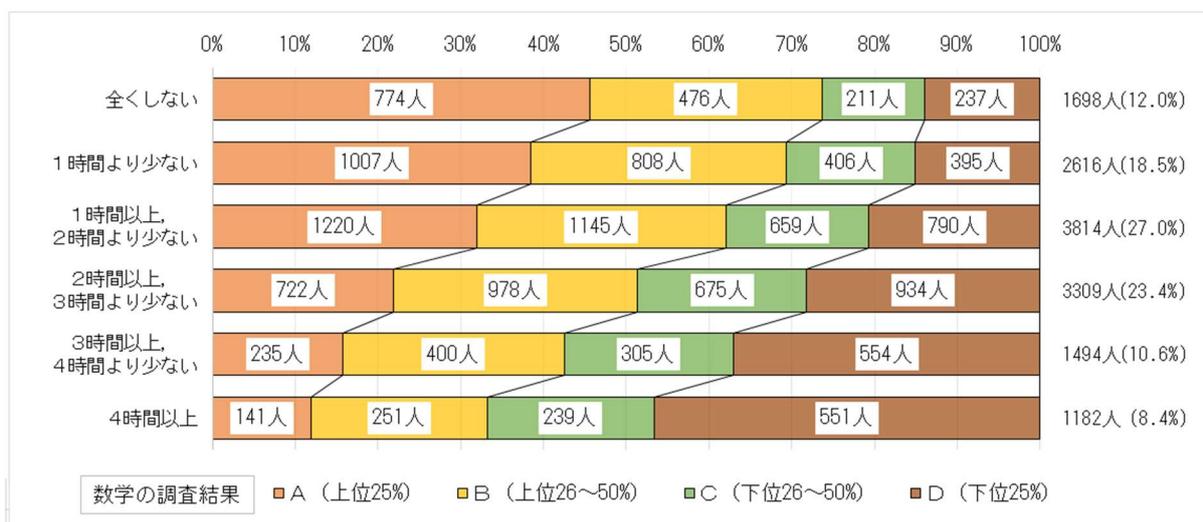
小学校6年生 算数



中学校1年生 数学

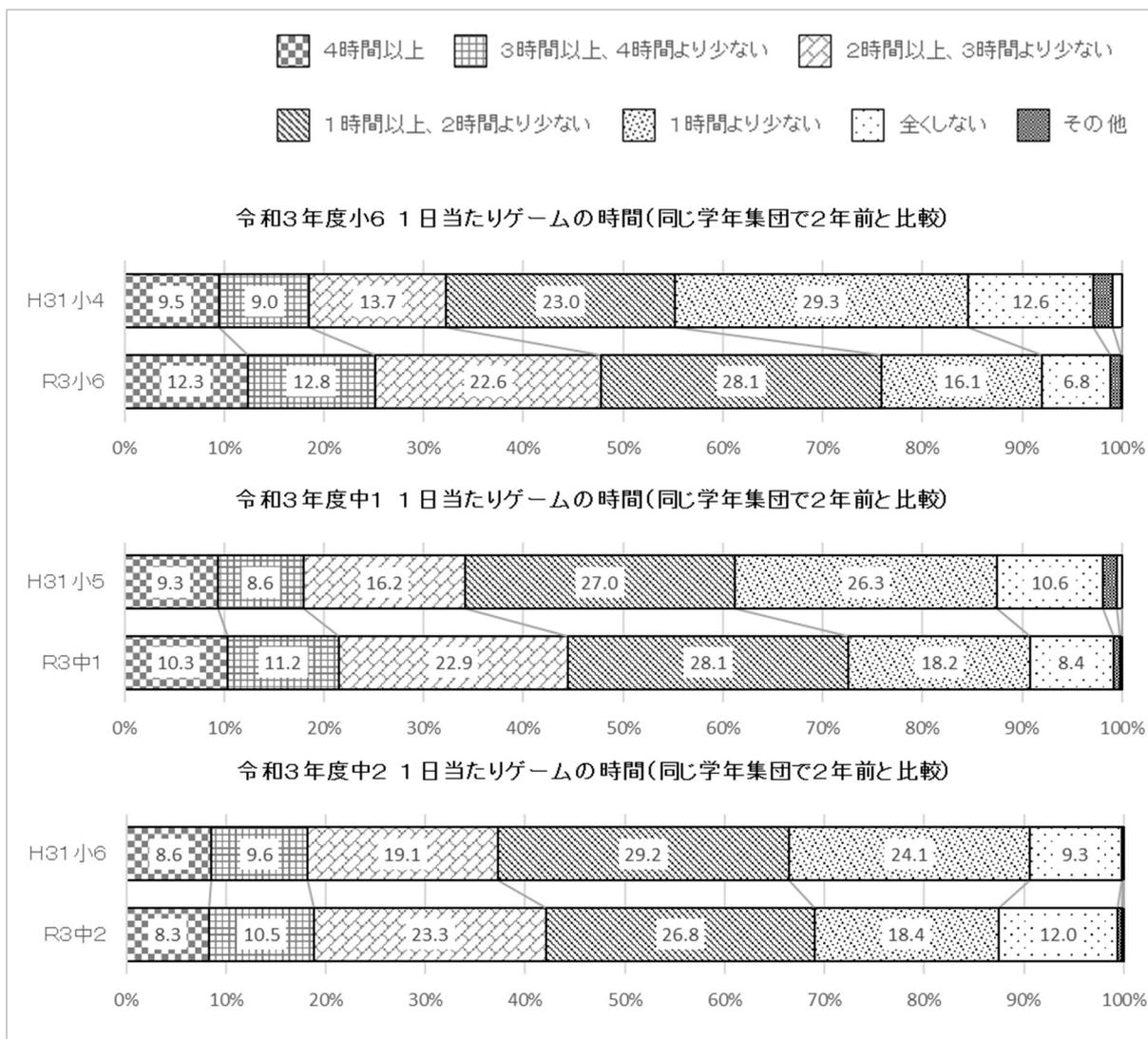


中学校2年生 数学



<令和3年度と平成31年度における児童生徒質問紙調査結果の経年比較から>

『普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも入ります）をしますか』



8 学力の伸びを引き出した学校の取組事例

1 趣旨

ふくしま学力調査において学力の伸びを引き出した学校の効果的な取組事例をまとめ、県内の小・中・義務教育学校及び特別支援学校と共有することを通して、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

2 作成にあたって

令和3年度は、平成31年度（令和元年度）との経年比較となるため、同一の学校で比較が可能な小学校6年生の学力の伸びに着目した。

学校の規模別に国語及び算数において学力の伸びを引き出した学校から聞き取りを行い、効果が見られたと考えられる取組についてまとめた。

3 学校の規模について

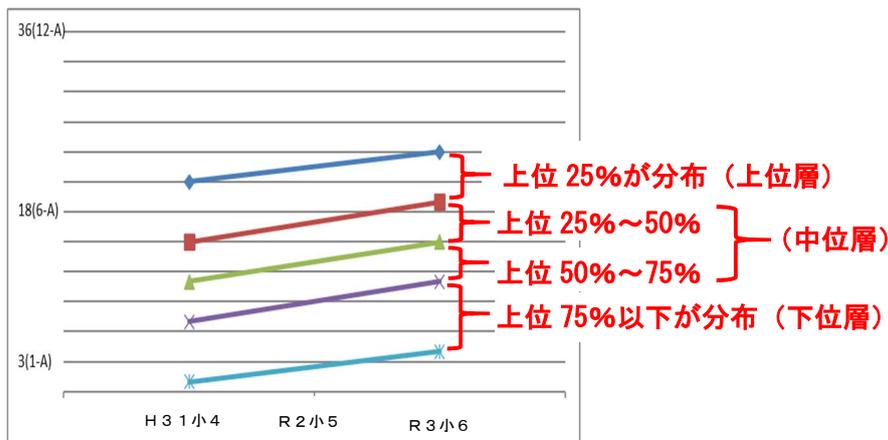
大規模校・・・19学級以上

中規模校・・・12学級～18学級

小規模校・・・11学級以下

4 学年全体の学力の伸びの状況について

学年全体の学力の伸びの状況を、下図のように学力レベルの階層に分けて示している。この図により、学校の取組がどの学力層にとって効果的であったと考えられるかを可視化することができる。



- ◆ ⇒ 最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル(最大値)
- ⇒ 上位25%に位置する児童・生徒が属する学力レベル
- ▲ ⇒ 上位50%に位置する児童・生徒が属する学力レベル(中央値)
- × ⇒ 上位75%に位置する児童・生徒が属する学力レベル
- * ⇒ 最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル(最小値)

どの分布も右肩上がり	傾きにばらつき①	傾きにばらつき②
<p>上位層、中位層、下位層のいずれの層の児童生徒も学力を伸ばしている。</p>	<p>上位層に伸びは見られないが、中位層、下位層の児童生徒の学力は伸びている。</p>	<p>上位層は伸びているが、中位層にはほとんど変化はなく、下位層の学力は下がっている。</p>

【国語科】「振り返り」を核とした授業改善や表現活動の充実による学力向上

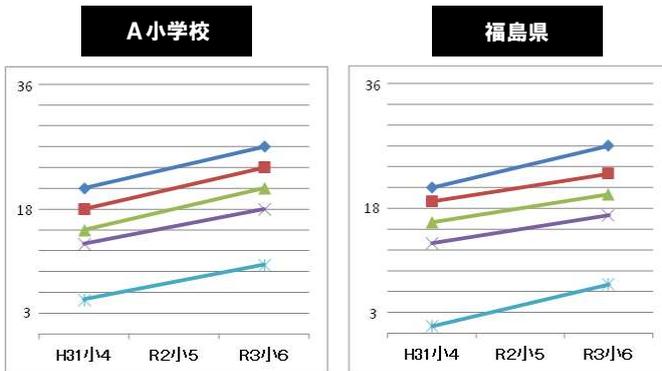
1 学校の概要

A小学校	大規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 学力レベルの最小値が県平均より高く、中・上位層の学力の伸びが大きい。
- 上位25%及び50%に位置する児童が属する学力レベルが特に大きく伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

①「振り返り」の充実から考える授業設計

授業の終末段階では、子どもに考えの変容を自覚させるために「振り返り」を必ず書かせた。子どもの目標達成時の姿を明確にし、「振り返り」の時間を確保した上で指導過程を逆算して授業を組み立てた。

② 教育活動全体を通じた表現活動の設定

目的意識をもたせ、表現を吟味して自分の考えを書いたり話したりする場を設けた。その上で、頑張ることができるようになった姿を必ず褒めて価値付けた。

③ 認め合う人間関係を大事にした学び合い

最初から相手を批判せず、最後まで相手の考えを聞き、判断することを大事にした。友達の考えを聞くことが自分の考えを深めることにもつながることを自覚させたことで、学びに向かう姿が積極的になった。

【国語科】 学校全体で取り組む学習の基盤づくり

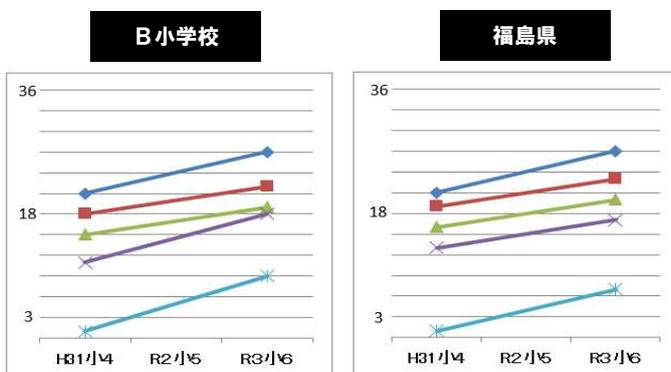
1 学校の概要

B小学校	中規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 上位層の学力の伸びは県平均と比較してほとんど変化はない。
- 上位75%に位置する児童が属する学力レベルが大きく伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 学習に臨む心構えや約束事についての共通理解・共通実践

めあてやまとめの表記の仕方や学年、教科に応じたノートの種類など基本的な学習の約束事について、具体的にプリントにまとめ、家庭に配付した。学校全体で共通理解を図ることで、児童が迷わずに学習に取り組むことができるようにした。

② 「書くこと」における効果的な学習指導

本時のめあてとの整合性を図りながら、児童が自分の言葉でまとめを書くことを継続した。家庭学習においては、新聞を読み、要約したり感想をまとめたりする課題を与え、リーディングスキルの視点で添削した。

③ 教員同士の学び合いによる授業改善

導入の工夫や教師のコーディネート等、共通の視点を設けた上で、日常的に互見授業を行った。年齢層に関係なく、互いに学び合う文化が醸成されている。

【国語科】 授業スタンダードを軸とした学力の向上

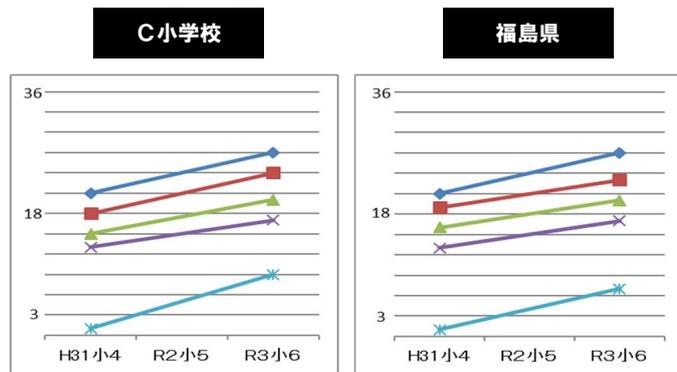
1 学校の概要

C小学校	中規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 上位25%に位置する児童が属する学力レベルが県平均と比較して伸びている。
- 令和3年度は、学力レベルの最小値が県平均を上回っている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 学習習慣の定着

宿題やチェック表を活用し、予習・復習と学用品を忘れない習慣を定着させた。また、授業開始1分前着席と漢字豆テスト実施を徹底し、書き取りの力を育成した。

② 伝え合う力の育成

ペア・グループ内の話し合い活動を意図的に取り入れ、互いの話を聞き合い感想を伝え合うことで、話す力・聞く力を育成した。

③ 書く力の育成

単元学習に入る前に意味調べを実施し、意味調べをした言葉を使って作文をさせ、文章を書く力を育成した。

また、「振り返りノート」を活用し、学校生活について、自分の思いや考えを日常的に文章で表現する場を設定した。

【国語科】 読書推進と家庭学習計画表の活用による自己マネジメント力の育成

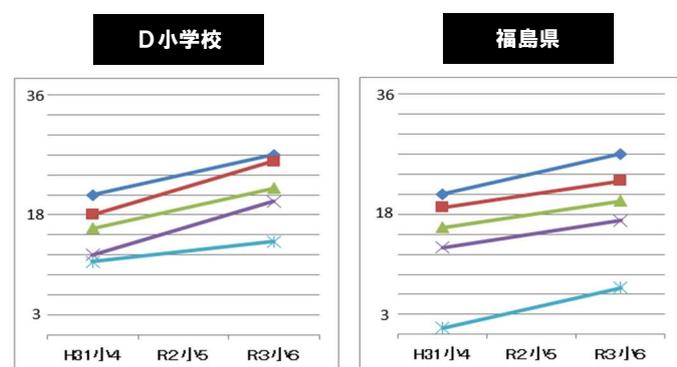
1 学校の概要

D小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 学力レベルの最小値が県平均より高く、どの学力層も県平均を上回っている。
- 上位25%及び75%に位置する児童が属する学力レベルが特に大きく伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 児童一人一人に応じた読書の奨励

担任と司書が連携して、対話をしながら一人一人の興味・関心に応じた本をすすめることで、進んで読書をする児童が増えた。児童質問紙から児童が1日あたりにゲームをする時間が少なく、1ヶ月あたりの読書量が多いことが分かる。

② 家庭学習計画表を活用した自己マネジメント力の育成

全校児童が学校独自の「家庭学習計画表」を活用し、家庭学習の時間、学習内容の計画を具体的に立て、学習した後に振り返りをするすることで、家庭学習の自己マネジメント力を高めた。家庭と担任両方からの毎日の励ましのコメントが児童の家庭学習に対するやる気を高めた。

【国語科】 自分の考えを話したり書いたりする表現の場を意識した学習活動

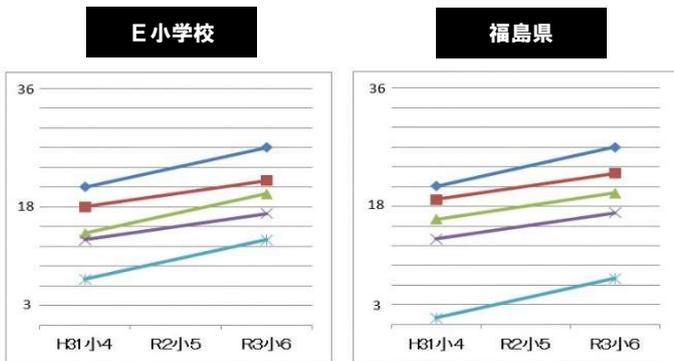
1 学校の概要

E小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 上位25%及び50%に位置する児童が属する学力レベルが前回調査では県平均を下回っていたが、上位50%に位置する児童が属する学力レベルが特に大きく伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 表現を意識した自分の考えの形成

授業の中で、自分の考えを持つことの大切さを意識させながら、考えを友達に話したり、友達の考えを自分の言葉で言い換えさせたりする活動を意図的に取り入れ、音声言語による表現を意識した考えの形成を指導した。

② 意図的なアウトプットの機会の設定

説明文の読解で、事実と意見の区別、理由や根拠を意識しながら読むことを重視するとともに、学習した文章の構成を生かせるように書く活動を多く設定した。文章を要約したり筆者の考えに対して自分の考えをまとめたりするだけでなく、他の教科でも、学習の感想を書く機会などを捉え、自分の言葉でアウトプットする機会を大切にした。

【国語科】 身に付けたい資質・能力を明確にした指導の工夫

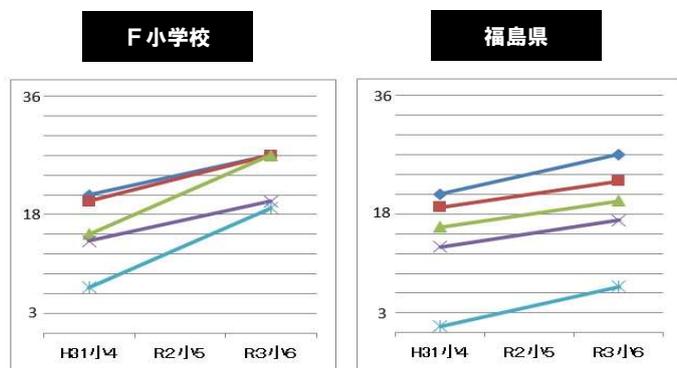
1 学校の概要

F小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- クラスの半数の児童が小学校6年での最上位の学力レベルまで向上し、中・下位層の児童の学力も伸びている。
- 学力レベルの最小値が大幅に伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 身に付けさせたい力の明確化

「説明的な文章の読みの10の観点※」を設定し、教師が教材研究を深めるとともに、児童が文章を論理的に捉えられるようにした。

※ 題名、形式段落、意味段落、形式段落の主語、要点、三部構成、問いと答え、文章構成図、事例、要旨

② 適切な言語活動の設定

説明文の学習では筆者の考えや事例を読み取り、それをリーフレットにまとめるなど、単元の目標に合った言語活動を設定し、思考力、判断力、表現力等が身に付くよう、指導した。

③ ふくしまの「授業スタンダード」を踏まえた授業改善

板書やワークシートを工夫し、児童の思考過程を可視化することで、児童の思いや考えが深まるようコーディネートした。

【国語科】学校の課題を明確にした授業づくりと個に応じた指導の充実

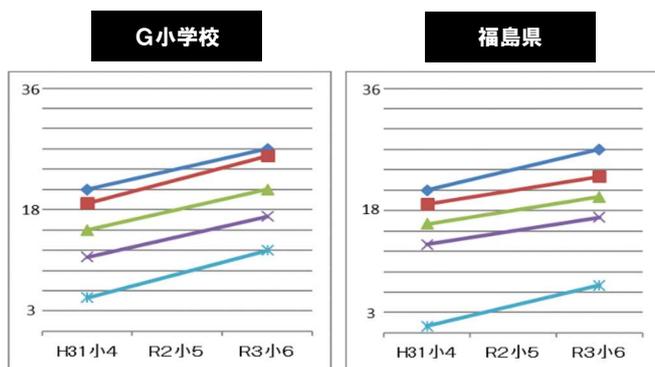
1 学校の概要

G小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 上位25%、50%及び75%に位置する児童の学力のレベルが大きく伸びている。
- 学力レベルの最小値が県平均を大きく上回っている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 全国学力・学習状況調査の分析

全国学力・学習状況調査の結果を分析して明らかになった学校の課題を全職員で共有し、求められている力を意識しながら全学級で授業づくりを行った。

② 個に応じた指導の充実

授業の際に一人一人の学習の状況を見取り、特に下位児のつまずきに丁寧に対応し、基本的事項の定着に努めた。

また、自主学習に熱心な児童のノートを展示したり学年通信に掲載したりした結果、少しずつ家庭学習の内容が充実していった。

③ 学びに向かう力の涵養

一人一人の学習機会を充実させるため、どの教科でも、自分の考えを友達同士で「伝える」「受け取る」活動を重視した。また、単元の終末に「〇〇新聞」を作らせることによって、自身の学習を振り返る機会を設けた。

新型コロナウイルス感染症の影響で休校となった期間にはシラバスを作成し、各家庭で教科書を基にした自主的な学習を呼びかけた結果、学校全体として、主体的に学ぼうとする意欲が高まった。

【算数科】「規律ある態度」の育成とグループでの学び合いによる学力向上

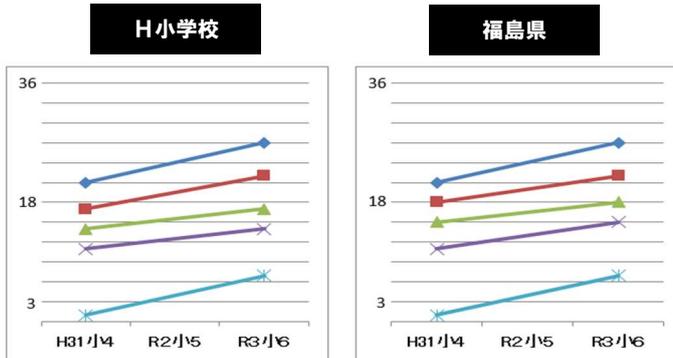
1 学校の概要

H小学校	大規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 前回調査では全体として学力レベルが県平均を下回っていたが、上位25%に位置する児童が属する学力レベルが県全体と同じレベルに達している。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 全校を挙げた規律ある態度の育成と、「学ぶ土台づくり」

落ち着いて授業に取り組むことができない傾向にある実態を踏まえ、学ぶ土台づくりを行った。校長のリーダーシップのもと「規律ある態度」(特に、靴そろえ・あいさつ・ていねいな言葉遣い等)の育成に力を入れ全校で取り組んだ。「規律ある態度」の達成率は県平均を上回っている。

② 算数の楽しさを感じさせるグループでの学び合い

グループで互いに考えを出し合いながら発展的な問題に挑戦させることで、中・上位層の児童のやる気を高めるとともに、算数を学ぶ楽しさを感じさせた。また、算数を日常の事象と結び付ける活動や具体物を扱った操作的・作業的な活動を多く取り入れることで、下位層の児童が数学的活動の楽しさを感じることができるようにした。

【算数科】 振り返りから学びの好循環を生み出すことによる学力向上

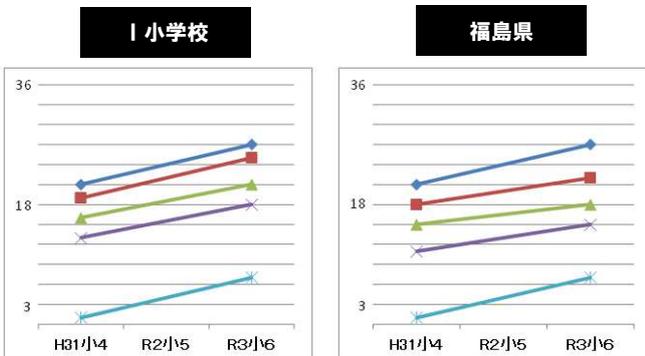
1 学校の概要

I小学校	中規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位75%に位置する児童が属する学力レベルが高く、中・上位層の学力の伸びが大きい。
- 上位25%及び50%に位置する児童が属する学力レベルが特に大きく伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 自分の考えを「書く」活動を重視した授業展開

授業では、式や言葉で書いて説明させる活動を通して、自分の考えが整理されることを実感させた。特に、「振り返り」は必ず書かせ、その中の「気づき」を取り上げて広げるようにすることで、自己の学びを振り返る視点を身に付けさせた。

② 授業との関連を図り「自己マネジメント力」を育成する家庭学習

全校で自主学習に取り組んでいる。「家庭学習スタンダード」を活用するとともに、中学校の家庭学習の手引きの例を紹介した。授業で学習したことをまとめ直したり、もっと知りたいことを調べたり、予習をしたりするなどして家庭学習が充実し、レディネスの高まりが授業の質的改善につながった。

【算数科】 学びの連続性を意識した自己マネジメント力の育成

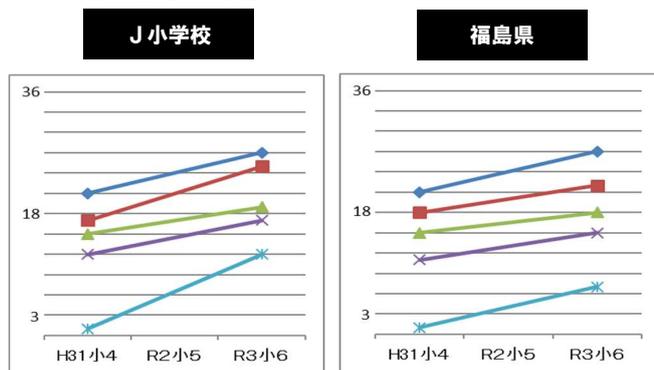
1 学校の概要

J 小学校	小規模校
-------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位25%に位置する児童が属する学力レベルが大きく伸びている。
- 令和3年度は、学力レベルの最小値が県平均を大きく上回っている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 学習サイクルの習慣化

学び続ける態度を養うために、「授業→家庭学習→(朝や昼の学習)→授業」というサイクルの習慣化を目指し、日課表の朝と昼に「チャレンジタイム」を設定した。1人1台端末の授業支援ソフトに収録されたドリルや、「活用力育成シート」などもこの時間を活用して実施した。

② 「調べ、考え、表現する」を中心とした家庭学習

活用型の家庭学習や予習といった課題にも定期的に取り組み、思考過程を自分なりの方法で可視化する学びを積み重ねている。

③ 規則正しい生活習慣の育成

家庭での生活と学習を振り返り、家族の団らんや家庭内での読書を推奨する日を毎月3回設定した。家庭との連携の下、規則正しい生活習慣を育成することで学習の基盤づくりに努めた。

【算数科】 家庭学習と授業をつなげた意図的・計画的な指導

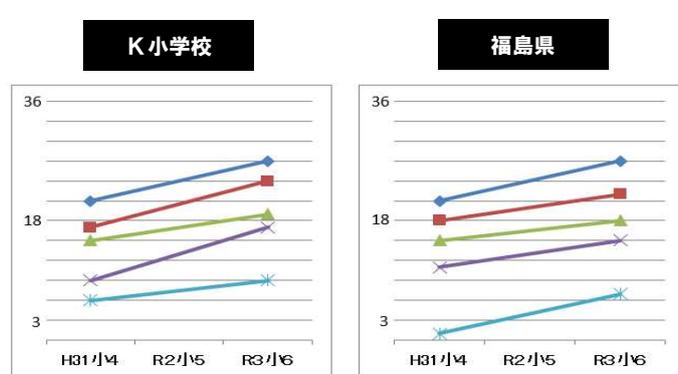
1 学校の概要

K 小学校	小規模校
-------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- どの学力層でも県平均を上回っている。
- 特に上位25%及び75%に位置する児童が属する学力レベルが大きく伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 家庭学習を効果的に活用した授業

家庭学習と授業のつながりを、児童及び教師とで日常的に意識した。週1回程度、タブレット端末を家に持ち帰り、導入型反転授業を行うことで、家庭学習の取組の目的や意味をさらに高めた。

② 学習した知識・技能を活用する活動の設定

適用問題に取り組む時間を単元の中に位置付け、知識・技能の確実な定着を図った。また、クラウド上の学習ログを適宜活用し、既習内容を生かした学習を展開した。

③ 学ぶ意欲を引き出すしかけ

授業において、学習内容と日常生活を関連付けた指導を繰り返すことで、児童に算数を学ぶ有用性を実感させた。また、定期的に自主学習ノートを開スペースに展示し、教師だけでなく、子ども同士による称賛の機会を設定した。

【算数科】 複式指導の充実により主体的な学びを引き出し、学力を伸ばす

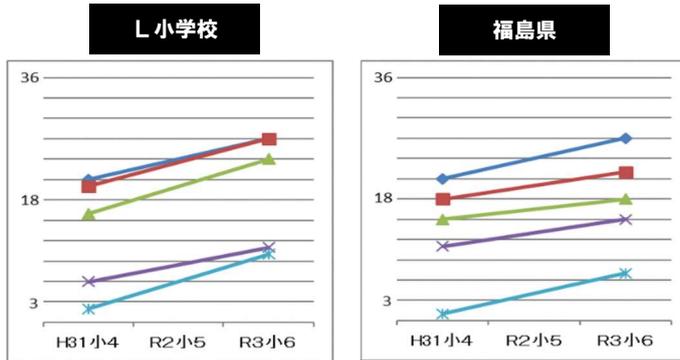
1 学校の概要

L小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位25%に位置する児童が属する学力レベルは学年の最上位の学力レベルであり、上位50%に位置する児童が属する学力レベルも県平均を上回っている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 学習リーダーを活用した複式指導の充実

担任が学習リーダー(輪番制)と打合せをし、他学年の指導に入った際に児童のみで学習を進められるようにした。分からないところは児童同士で教え合うスタイルが定着し、主体的な学びにつながった。課題が終わると自分からワークやドリル学習に進むことができた。

② 個別学習の充実

単元を通して習熟を図るプリントを準備しておき、空いている時間に自分のペースで進められるようにした。単元末に復習の時間を設け、個別指導の充実を図った。

③ ペア活動・話し合い活動・振り返りの充実

全員発表の時間を設け、友達の考えと自分の考えを比較したり、根拠を明確にして説明したりできるよう意識を高めた。振り返りも自分の言葉でまとめるようにした。

【算数科】 授業スタンダードをもとにした主体的な学び

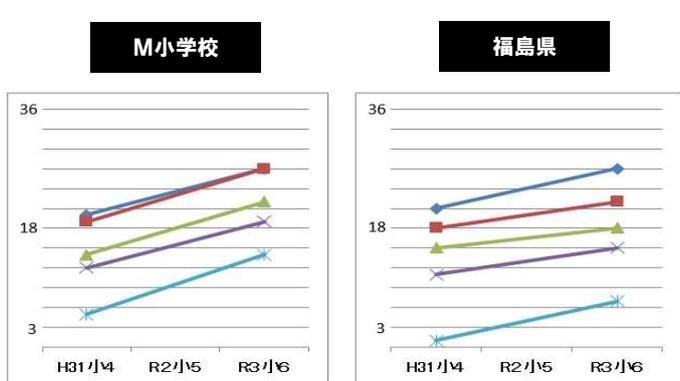
1 学校の概要

M小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位25%に位置する児童の属する学力レベルが学年の最上位の学力レベルに達している。
- 下位層まで全体的に学力が大きく伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 「授業スタンダード」を踏まえた導入及び展開

教材提示を工夫して学習意欲を高め、子どもの「問い」や「思い」を引き出す学習課題を設定した。また、見通しや考えを持てるように工夫した。

② 個々の考えを共有・吟味させる教師のコーディネート

図と式を関連付けて比較検討させた。また、働かせたい数学的な見方・考え方を意識した発問及び問い返しをしたり、児童にとって必要感のある学び合いの場面を設定したりした。

③ 学びを自覚させる振り返りの設定

まとめに使わせたいキーワードを意識して、構造的な板書をするとともに、活用力を高める適用問題に取り組みさせるなどし、振り返りの場面で新たな学びを促した。

【算数科】学習の「基盤」「授業」「家庭学習とのリンク」を柱にした継続実践

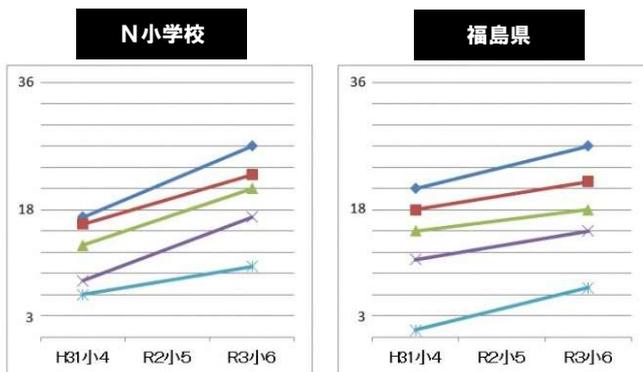
1 学校の概要

N小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位75%以上に位置する児童が属する学力レベルが前回調査では県平均をそれぞれ下回っていたが、今回は県平均以上に大きく伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 授業の基盤づくり

互いを認め合い、高め合う集団づくりに努めた。特に、他者の考えを聞く指導と称賛を重点とし、継続して指導した。

② 「授業スタンダード」を生かした授業づくり

一人一人の問題解決の過程を支えるために、数学的な表現を用いて説明する活動や「事実」、「過程」及び「根拠」を問う発問を工夫するとともに、次時につながる振り返りの時間の確保に努めた。

③ ICTの効果的な場面での活用

単元や学習過程、児童の理解に応じてタブレットや電子黒板を活用した。考える対象の焦点化・考えの共有を大切にしてきた。

④ 「家庭学習スタンダード」の自校化と継続

家庭学習の進め方の指導を徹底し、児童の自主学習に朱書きでコメントを入れ、校内に掲示することを継続し、意欲と自信が育まれるようにした。